

司寇を長とし、民事、刑事の訴訟審判を掌る、  
 シユケイ ●朱桂(石君) 清代の文士なり、  
 乾隆中進士となり、禮仁閣大學士に至る、清操亮  
 節一世の耳目となる、卒して太傅を贈り、文正と  
 諡らる、

●朱經 朱成功の子にして、明末の志士なり、  
 父の遺志をつぎ、臺灣によりて明の恢復を圖り、  
 福建廣東の地に攻入りたれ共、三藩の亂平きて孤  
 立し、其援を失ひ、志を果さずして死す、

シユゲン 周原 今の清國陝西省鳳翔府岐  
 山縣の地にして、周の祖先亶父が狄の禍を避けて、  
 國を立てたる所なり、

シユゲンシヨ 朱元璋 太祖元璋を見よ、  
 シユココタン 周公旦 周の武王の弟にし  
 て、魯に封ぜらる、成王幼にして立つに及び、諸  
 政を攝行し、天下大に治まる、康王立つに及び、  
 尙輔相となり、文武の業を修めたり、

シユサイ 秀才 唐の貢舉(官吏登庸試験)

の二目にして、方略策五道の試験に及第したるも  
 のなり、其後歴代大抵これ有り、清朝は毎年各府  
 にて行ふ、

シユサンケイ 十三經 詩、書、易、三禮(周禮  
 儀禮、禮記)三傳(穀梁傳、公羊傳、左氏傳)、論語、  
 爾雅、孟子、孝經、

シユザントー 舟山島 清國浙江省杭州府  
 定海縣の海上に散布せる諸島を云ひ、咸豐の役、  
 英軍の占領して假根據地とせし所なり、

シユシエイ 孺子嬰 西漢最後の帝にして、  
 宣帝の玄孫なり、王莽に擁立せられて帝となりし  
 も、莽假皇帝と稱して、實權を掌り、嬰は唯空位  
 を保つのみ、

シユシガク 朱子學 宋の朱子の唱へたる學  
 にして、經傳の理を究め、何事にも究理を先にし  
 て、理既に明かなれば、從て意を誠にし、心を正  
 ふし得ると云ふにあり、王學と共に此の說大に行  
 はれたり、

シユシヨ 周書 北朝周の歴史にして、唐の  
 令孤德棻が岑文本、崔仁師、陳叔達と共に撰びし  
 ものなり、五十卷より成る、

シユシレキ 授時曆 元の世祖の時、天文學  
 に精通せる郭守敬が作りしものにして、支那の曆  
 法に一新紀元を與へしものなり、

シユセイコー 朱成功 明末の忠臣、海賊鄭  
 芝龍が我が平戸に寓し、平戸人の女を娶りて生み  
 たる子なり、紹宗に重ぜられ、國姓と名を賜はり、  
 誓つて明室を恢復せんと欲し、父清に降りて招け  
 ども從はず、廈門に據りて、十餘年間清軍を攻め  
 惱ませしが、明亡て後は和蘭人を逐ひて、臺灣に  
 により、尙永曆の年號を奉ぜしも、志を果さずし  
 て死す、

シユセン 酒泉 漢の武帝が匈奴の地を復し  
 て置きたる郡名にして、今の甘肅省甘州府附近の  
 地なり、

シユセン 柔然 匈奴の別種にして、東晋

の初、車廐會の建國なり、拓跋世々氏に屬し、漢  
 の南北に散居し、一時非常に盛んなりしが、後魏  
 の道武帝に破られて、高車に逃れ、内外蒙古を領  
 して、前敗に報いんとせしが、却つて大敗して、  
 復振はずなれり、

シユセンチュイ 朱全忠 太祖全忠を見よ、  
 シユツタイ 出帝(重貴) 五代晋第二代の帝  
 にして、太祖の兄の子なり、禮を契丹に缺き、そ  
 の怒にふれて、南侵にあひ終に擒となり、晋終に  
 滅ぶ、

シユツリツタイコー 述律太后 遼の太祖の  
 后なり、簡重勇果、よく事を斷ず、太宗幼にして、  
 即位するに及び、政をきく、世宗即位に及び、祖  
 州に遷りて崩す、

シユートンイ 周敦頤(茂叔、濂溪先生)  
 宋の儒者にして、連に官を遷りて、廬山蓮花峯下に  
 居して卒す、實に宋代理學の開祖なり、太極圖說、  
 通書等の著あり、

ジュニボク 十二牧 堯舜の時、十二州に置かれたる十二人の牧伯を云ふ、

シューノトーセン 周の東遷 平王が戎狄の禍を逃れて、都を鎬京より東洛邑に遷したるを云ふ、時に西紀前七百七十一年なり、

シューノリョート 周の兩都 鎬京、洛邑を云ふ、初め武王鎬京を作り、之を西都とす、成王の時更に洛邑を營み、之を東都とす、是より諸王は西京に居り、諸侯を東京に會せしが、戎狄の逼るに及び、平王の時、終に洛邑に遷れり、

ジュホー 壽夢 春秋吳の王なり、吳始めて強く、終に晉と同盟して、連りに楚を侵せり、

シューボツ 周勃 西漢創業の功臣にして、爵列侯を賜ひ、太尉に拜す、文帝の時右丞相となる、

ジュン 舜 支那太古の帝王なり、初め農を業とす、堯之を畎畝の間より擧げ、國政を委れ、遂に其位を禪れり、舜位に即くに及び、禹、契、益

し、犯顔忤争せざるを以て、寵祿を全ふせり、  
ジュンクッ 順化 Hue. (Thuan-hoa.) ユエ(順化府)を見よ  
ジュンクワン 春官 周制六官の一にして、太宗伯を長とし、祭祀及び朝聘、會同の禮式を掌る、  
ジュンケイ 荀卿 荀況を見よ、  
ジュンシ 荀子 荀況の著書にして、三十二篇あり、其説は孔子を基とすと雖、孟子と異なる所は、人の性は惡にして、禮儀を以て矯正せざれば、善人となる能はずと云ふにあり、

ジュンシンクン 春申君(歇) 戦國四公子の一人にして、楚の王子なり、食客三千人を養ひ令名あり、考烈王の時相に拜し、春申君に封ぜらる、後六國と合従して、秦を伐ち利あらず、是より稍々疎せられ、李園の爲めに弑せらる、  
ジュンシンオー 醇親王(奕譞) 清第八代宣宗の子にして、今上陛下の父君なり、  
ジュンシユ 巡狩 堯舜の頃、天子が五歳に一

稷等の諸賢を用ゐて、政治を施し、海内よく治まる、舜崩じて位を禹に傳ふ、

ジュンイク 荀彧(文若) 三國魏の曹操に仕へ、重んぜらる、後、操爵を進めて王たらんとせし時、堅く之を諫む、操心不平なり、或ために毒を飲んで死す、

ジュンエツ 荀悅(仲豫) 淑の孫にして、漢末の儒者なり、家貧にして書なし、人家に於て篇讀する毎に、一覽すれば則ち記す、官秘書侍中に至る、天下之を賢とす、著書二十餘篇あり、

ジュンキョー 荀況 戦國の儒者なり、年五十始めて齊の稷下に遊び、三度祭酒となる、後譏せられて楚に行き、春申君によりて、蘭陵令となり、是に家す、其學孔子を尊び、性惡の説を唱ふ、其著荀子三十二篇世に名あり、韓非、李斯其門より出づ、世尊で荀卿と稱す、

ジュンキョク 荀勗(公會) 晉の武帝に仕へて尙書令に進む、人となり倭辯にして、よく諂諛

度地方を巡りて、民風を視察したるを云ふ、

ジュンジュー 春秋 孔子の作にして、魯の史を記せるものなり、之を後世編年史體の祖とす、

ジュンシユク 荀淑(季和) 東漢の名士なり、少にして高行あり、博學にして章句を好まず、桓帝の時出で、朗陵侯の相となりしも、幾もなく官を棄て、歸り、閑居志を養ふ、當世の名士皆之を師宗とす、

ジュンジューニコク 春秋十二國 支那の諸侯古へ萬國と稱したりしが、春秋の際には僅に百六十國を存し、その中の大なるもの十二あり、今その國名及び都城を示せば左の如し、

魯	曲阜	衛	朝歌
晉	絳	鄭	新鄭
燕	薊	蔡	蔡
曹	定陶	齊	臨淄
宋	商丘	楚	郢
陳	陳	秦	平陽

シユンシユノヨ 春秋の世 周の平王東遷後、凡そ二百年間を云ひ、其事孔子の春秋に録せらるゝを以て此稱あり、其間諸侯は互に併呑して、大なるもの十二國、王室内に衰へ、戎狄外に寇し、諸侯の有力なるもの、尊王攘夷と稱して、天下の諸侯を叫合せり、

シユンソ 順宗(誦) 唐第十代の帝にして、徳宗の長子なり、寛仁にして學藝を喜ぶ、在位八月にして崩す、

シユンテイ 順帝(保) 東漢第七代の帝にして、安帝の子なり、宦者孫程等に擁立せられ、梁貴人を立て、皇后となし、其父商を將軍となす、

順帝(準) 南北朝劉宋最後の帝にして、桂陽王休範の子なり、蕭道成に擁立せられ、既にして位を道成に禪る、後齊人の弑する所となる、

順帝 元の惠宗の事、明の太祖が、惠宗の大都を棄て、開平に奔れるを見て、よく天命人心に従ひ、之を明け渡せりとて名けたり、(惠宗を見よ)

シユンドー 順道 東晋末の高僧にして、前秦苻堅の命によりて、始めて佛教を高麗國に傳へたり、

シユンフ 巡撫 明末に至りて置かれる官名、清之により、一省の軍務を統轄し、民治を監督す、凡て十五人あり、

シユモ 朱蒙 扶餘人にして、西漢の末に其族人を率ひて、南に移り、高句麗國を立てたり、

シユニ 朱邑(仲卿) 西漢宣帝に仕へ、北河の太守となり、治蹟第一たるを以て、大司農に擧げらる、邑性恩惠にして、故舊に厚く、天子之を器とす、

シユニ 周瑜(公瑾) 三國吳の武將なり、吳主孫權即位するに及び、大都督として、江夏の賊を伐ち功あり、又魏の曹操百萬の大軍と赤壁に戦ひ、大に之を破り、後巴丘に病卒す、

シユニケイ 朱友珪 五代梁の太祖朱全忠

の次子なり、父帝淫虐にして、假子友文の妻を寵し、友文を立て、嗣とせんとせしかば、友珪遂に帝を弑して自立せしが、間もなく弟友貞の殺す所となる、

シニヨクケン 什翼健 拓跋部の可汗にして、力微の曾孫なり、東、朝鮮の境に獯貊を降し、西は葱嶺の麓に破落那を破りて、大に領土を擴め、威勢を塞外に擅にせしが、庶長子に弑せらる、

シニ 序 周の小學校にして、州(一萬二千五百家)に置かれ、普通人民の就學する所なり、

シニ 商(殷) 湯王の夏后桀を滅して建たる國、子孫相繼で王たる三十世、六百餘年にして紂に至り、周の武王に滅さる、

シニ 庠 周代の學校にして、黨(五百家を黨と云ふ)に置かれ、普通人民の子弟の學ぶ所にして、室家長幼の序、洒掃應對の節などを教えたり、

シニ 徐夷 今の江蘇省の北部に居りし東夷にして、周初大に盛にして、王號を僭するに至

りしか、宣王の時之を征して、漸く衰へ、春秋の際、齊、吳、楚の諸國盛んなるに及んで、その禍屬となれり、

シニイ 蕭懿 南朝齊の疎族にして、梁武帝の父なり、齊王蕭寶卷、嬖倖を用ひ、屢々大臣を誅して、四方叛亂起りし時、之を鎮定して、威望日に隆なりしが、終に寶卷のために忌まれ殺さる、

シニエン 蕭衍 武帝蕭衍を見よ、

シニオー 昭王(瑗) 周第四代の王にして、康王の子なり、時に周道大に衰微し、王南巡して楚に至りしに、楚人膠舟を作りて、王を乗す、王溺れて歿す、

昭王(平) 春秋戰國燕第三代の王にして、噲の子なり、死を吊し孤を問ひ、禮を厚くして賢者を招き、樂毅を亞卿とし、任するに國政を以てし、齊を伐ちて七十餘城を陥れ、國富み兵強くなれり、

昭王(珍) 春秋戰國楚第十三代の王にし

て、平王の子なり、連年吳の征伐をうけて、諸方に流浪して卒す、

④ 商鞅 衛の人なり、秦に入りて孝公に仕へ、左庶長となり、變法の令を定めて之を行ひ、十年國內大に治まる、遂に商於に封ぜられ、號して商君と云ふ、惠文王の時に讒によりて殺さる、  
シヨオー 襄王 戰國魏第五代の王にして、惠王に嗣で立ち、蘇秦の説に従ひ、先づ合従せしが、後秦の張儀來り仕るに及び、從約に背きて、成を秦に請へり、

シヨオーノヘンボー 商鞅の變法 西紀前三六〇年、衛人商鞅がの孝公に説きて行ひたる新法にして、財源を増んがために、家に二男以上ありて分家せざるものは、其賦を倍し、農工を勵む者は力役を免じ、然せざるものは官に没して、奴婢とし、又兵力を強くせんがために、一切の爵位は軍功によりて之を授け、宗室と雖軍功なきものは其籍を除きたり、之よりして數年なら

す、秦は非常の優勢となり、六國を併呑するに至れり、

シヨガ 蕭何 沛の人なり、劉邦の起るに及び、沛中の子弟三千人を收めて之に従ふ、其後邦漢王となり、何を以て丞相とす、邦の項籍と戦ふや、何常に軍糧を供したり、邦即位するに及び、鄼侯に封ぜられ、惠帝の時に死す、

シヨカキ 尙可喜 明末の武將なり、崇禎中命ぜられて清を伐ちしが、六年終に清に降りて功あり、清一統の業成るに及んで、平南王に封ぜられ、尋で歸老を請ひ許さる、是に於て三藩の亂あり、其子之信賊に應じ、可喜を幽す、可喜終に發憤して死す、

シヨガク 松岳 開城を見よ、  
シヨガク 小學 周代の學校にして、州に置かれたる序、黨に置かれたる庠及び、閭に置かれたる塾を云ひ、普通人民の學ぶ所なり、各八歳より十四歳までを學齡とす、

シヨカツセン 諸葛瞻(思遠) 諸葛亮の子にして、三國蜀の名臣なり、累遷して尙書僕射となる、後、魏の將鄧艾、書を送りて降を誘ふ、瞻怒りて使を斬り、遂に戦死す、

シヨカツタン 諸葛誕 孔明の兄にして、三國魏に仕へて、吏部郎となり、後、累遷して司空に至りしが、文帝に誅せられたる、

シヨカツリョ 諸葛亮(孔明) 三國蜀の名將なり、初め天下の亂るに及び、襄陽に寓居す、劉備三たび之を草廬に訪ひ、終に用ひて丞相となす、備死するに及び、後主を助けて武を講じ、民力を養ひ、出師の表を奉りて、帝を諫戒し、魏將司馬懿と五丈原に對陣中に卒す、

シヨカン 徐幹(偉長) 建安七子の一人なり、幼にして文章を好み、恬淡寡慾彬々たる君子の風あり、

シヨカン 章邯 秦末の將軍なり、二世の時、叛亂四方に起るに及び、命ぜられて之を征し、

項梁を攻め殺し、趙王歇を鉅鹿に圍みしが、終に項籍に降り、關中の地に封ぜられて、雍王となる、  
シヨキン 商均 帝舜の子なり、不肖なるを以て斥られ、立つ能はず、

シヨキョ 書經(尙書) 五經の一にして、堯舜より秦の穆公に至るまでの、歴代君臣の典謨、誓誥を記せるものなり、後秦火にあふ、漢に至り伏生の傳へたる今文尙書と、後孔子廟より得たる古文尙書との二つあり、

シヨク 稷 五穀の神なり、上古より天下諸侯之を祀る土の神(社)と共に社稷といふ、

シヨク 蜀 蜀漢を見よ、

シヨク 贖 輕き犯罪者をして、金錢を以て其犯罪を贖はしむるを云ふ、周末の頃より是れあり、

シヨクオシヨ 蜀王秀 楊秀を見よ、  
シヨクカン 蜀漢 支那三國の一にして、西紀三二一年劉備が蜀の成都によりて即位せしに始まり、三國中國最も小なれども、備の寛仁と、諸

葛亮の忠勤によりて、鼎立の勢を保ちしが、備  
卒し帝禪立ち、次で亮の卒するに及び、終に魏に  
滅さる、實に二代四十三年なり、初め備即位の時、  
國を漢と稱す、後世之を蜀又は蜀漢と稱す、

シヨトクシユン 常遇春(伯仁) 明初の名  
將なり、初め盜をなせしが、後往いて太祖に歸し、  
四方を征戦して功あり、元の順帝を追ふて、柳河  
川に次し、暴に疾で卒す、

シヨクトー 蜀黨 宋末の學黨にして、劉攀、  
王殿叟、劉安世を領袖とし、輔佐最も多く、程頤  
の説をとりて、洛朔の二黨と互に相争へり、

シヨクン 象郡 三十六郡の一にして、  
大抵今の安南の地なり、

シヨクワイ 鍾會(士季) 三國魏の武將な  
り、景元三年鎮西將軍となりて、蜀を征し、姜維  
と劍閣に相拒ぎて之を降し、功を以て司徒となり、  
後叛を謀りて殺さる、

シヨククワイ 松花江 黒龍江の支流にし

シヨコ 召虎 周の臣なり、宣王の時、命  
をうけて、東淮夷を平げたり、

シヨコー 襄公 春秋秦初の王にして、德  
公の子なり、周の平王の難を救ひしを以て、始め  
て諸侯に封ぜられ、岐西の地を賜はる、

襄公(歡) 春秋の晋王にして、文臣の子な  
り、父の覇業をつぎ、屢々秦を伐つ、

襄公(茲甫) 春秋宋の王にして、齊桓公  
と親交ありし故、其後をうけて姑く諸侯に覇を稱  
せしも、楚と争ふて泓に敗れ卒す、

シヨコー 少康 夏第六代の王にして、  
相の子なり、初め相の害せられし時、相の后有仍に  
走りて、少康を生む、少康長じて、夏の舊臣と亂臣  
寒浞を誅し、位に即く、

召公(奭) 周の支族にして、武王の時、燕  
に封ぜられ、成王の時三公にあげられ、陝以西の  
地を領し、春秋燕國の祖となれり、

シヨコク 相國 漢の高帝十一年秦の丞相

て、源を長白山に發し、西北して嫩江を合し、更  
に東江に折れて、黒龍江に合す、古へ混同江と稱  
し、熟女眞の根據地たり、

シヨクワンアン 上官安 上官桀の子にし  
て、西漢の逆臣なり、昭帝の時叛を謀りて、父桀を  
立てんとし、謀露れて誅せらる、

シヨクワンケツ 上官桀 漢の武帝に仕へ  
て、大僕となりしが、昭帝即位するに及び、霍光  
と權を争ひ、子安等と共に光を除かんと謀り、謀  
もれて誅せらる、

シヨクゲイ 松京 カイシヨ(開城)を見よ、  
シヨトケイ 常惠 西漢の武將なり、武帝の  
時蘇武に従ひて、匈奴に使し、捕留せらる、十九  
年、遂に國に歸り、光祿大夫に任ぜられ、後烏孫、  
龜茲を伐て功あり、元帝の時に至りて卒す、

シヨトケイ 上京(龍泉府) 渤海國五京  
の一にして、今の寧古塔の西に當る、  
シヨトケイ 遼の聖宗  
の時に立てたる上京は臨潢府なり、

を改めたる名なり、後哀帝の時大司徒と改む、  
シヨコーゲイ 徐光啓(子先) 明の神宗萬曆  
中の進士なり、天文、曆算、火器を西洋人利瑪竇  
に學び、神宗、光宗、熹宗に仕へて、太子太保に  
至る、著す所有名なる新法算書あり、

シヨサクカン 將作監 唐制五監の一にし  
て、土木工匠に關する事務を掌り、長官を將作大  
匠と云ひ、一人を置く、

シヨサツ 蕭贇(宣帝) 南北朝後梁の主に  
して、梁昭明太子の第三子、宇文泰と共に梁元帝  
を伐て、江陵を陥れ、泰に立てられて、湖北の地  
を保ち、帝を稱す、

シヨサン 湘山 今の清國湖南省長沙府湘  
陰縣の北洞庭湖の中にある、秦の始皇廿八年神仙  
を求めて是に到り、大風にあひ、博士に問ひ、其  
山を楛にせしことあり、

シヨサン 常山 故の趙の地、今の清國直隸  
省正定、順德、廣平の三府に當り、項羽、張耳、常山

省正定、順德、廣平の三府に當り、項羽、張耳、常山

省正定、順德、廣平の三府に當り、項羽、張耳、常山

王に封ぜらる、又顔杲卿、安祿山を茲に防ぐ、

シヨシ 少師 三孤の一にして、道を論じ邦を經し、陰陽を變理するを職とす、

シヨシシシ 尙之信 尙可喜の長子にして、清初の叛臣なり、初め世祖の命を奉じて、吳三桂の叛を伐ちしが、遂に之に誘はれて、戈を倒にし、ために死を賜はる、

シヨシセン 蔣士銓(心餘、清容) 清朝乾隆の進士にして、翰林院編修に至る、戯曲に妙にして、著すところ紅雪樓、九種曲あり、海内其盛名を負ふ、

シヨシシ 女眞 もとの鞞鞞にして、通古斯族に屬す、黒龍江の沿岸に住し、渤海の盛時之に役屬せられしが、遼起るに及び、混同江附近に在る者は、遼に屬し、之を熟女眞と稱し、黒龍江より長白山の間に散在する者は、唯遼の羈縻を受くるのみにて、之を生女眞と云へり、生女眞の完顔部は終に金國を建て、熟女眞をも併せたり、

シヨシシ 小辛 南第十八代の王にして、祖丁の子なり、兄盤庚に嗣で立つ、國勢復衰ふ、

シヨシシシカン 邵晉涵(二雲) 清の經學者なり、乾隆三十年の進士にして、編修を授かる、文字の古訓に委しく、爾雅正義の著あり、

シヨシシ 徐州 禹域九州の一にして、泰山より淮水までを云ふ、今の山東省の南部と、江蘇、安徽二省の北部とに當る、

シヨシシ 徐戎 徐州に據りたる東夷にして、周が西方に建國し、威東方に及ばざるに乗じ、屢々内地に逼りしが、宣王終に親征して、之を平ぐ、

シヨシシキ 徐壽輝 元末の流賊なり、順帝至正十一年兵を擧げて、湖北江西を略して、國を天完と號し、治平と改元せしが、二十年其將陳友諒のために、太平路の舟中に殺さる、

遂に誣陷せられて殺さる、

シヨシシツノマツリコト 紹述の政 宋の徽宗が蔡京等を用ゐて、神宗の政を紹述すると稱して、新法を復したるを云ふ、されど蔡京は聚斂を務め、府庫を充たし、徽宗に奢侈をすゝめて、一として見るべき政はなかりき、

シヨシシシ 章惇(子夏) 宋の哲宗に仕へ、知樞密院事となり、哲宗の親征に及び、新法黨の主領として、安石の新法を紹述し、極力反對黨を貶竄せしが、徽宗、哲宗に繼ぎ立つに及び、罷められて睦州に客死す、

シヨシシシ 常洵 明の神宗の次子にして、鄭貴妃の出なり、神宗鄭貴妃を愛し、洵を立んとし、久しく長子常洛を立てざりしも、洵終に立つ事を得ざりき、

シヨシシシ 尙書 六部の長官を云ふ、  
● 尙書 書經を見よ、  
シヨシシシ 丞相 天下をすべ百官をすぶ、

秦には左右の二人有りしが、漢高帝の初年合して、一人となす、十一年相國と改む、

シヨシシシケン 常勝軍 清の長髮賊の亂に苦しむに當りて、米人ワードが外人よりなれる一隊を組織して、賊を伐ちたるに、連戦連勝なりしを以て、此稱あり、ワードの歿後、英人ゴルドン代り率ひて奇功を立つ、

シヨシシスイ 湘水 清國湖南省の河にして、源を廣東境に發し、北流して洞庭湖に注ぐ、

シヨシシソ 昭宗(傑) 唐第十九代の帝にして、懿宗の子なり、宦者楊復等に擁立せられ、既にして宦官を抑へんとし、却つて其幽する所となる、後、朱全忠と宦者を誅し、都を洛陽に遷し、遂に全忠に殺さる、

● 紹宗 唐王聿鍵を見よ、  
● 章宗(麻達葛) 金第六代の帝にして、世宗の孫、宣孝太子の子なり、即位の初め銳意治を圖り、國內太平なりしが、胥持事を用ふるに及ん

で、國勢漸く振はず、宋之に乗じて、中原を復せんとして、大敗せり、

シヨタイコ 向太后 宋の哲宗の后にして、徽宗の太后なり、徽宗年幼なりしかば、政を攝し、韓忠彦等の舊法黨を用ゐ、一時新法黨を斥けしが、既にして政を徽宗にかへせり、

シヨタツ 徐達(天徳) 明の太祖に仕へ、南略に加はりて功あり、後大將に拜し、鎮江を拔き、周王張士誠を破り、太祖即位に及び、右丞相に拜す、中山王に追封し、武寧と諡す、

シヨテイ ① 殤帝(隆) 東漢第五代の帝にして、和帝の子なり、生れて僅に百餘日にして即位し、鄧太后政を攝せしが、在位八ヶ月にして崩す、② 殤帝(重茂) 唐の中宗の第四子にして、中宗章后に毒殺さるゝに及び、太平公主に擁立せられしが、睿宗の子隆基兵を起すに及び、その廢する所となり、房州に客死す、

③ 昭帝(弗陵) 西漢第六代の帝にして、武

帝の子なり、年僅に八歳にして即位し、大將軍霍光遺詔を受けて政を攝し、燕王の叛ありしも、幾もなく平定し、天下大に治まる、

④ 章帝(烜) 東漢第三代の帝にして、明帝の子なり、政治に留意して、饑民を賑し、農業を勸む、⑤ 少帝(芳) 三國魏第三代の帝にして、明帝の子なり、司馬懿、曹爽遺詔を受けて政を攝せしが、爽專横なりしを以て、懿之を誅し、權を恣にす、其子師政を執るに及び、其の廢する所となる、

シヨテン 小篆(秦篆) 秦の李斯が篆書により、是を増減して作りしものなり、

シヨテンコ 承天后 西遼の仁宗の妹にして、西遼第四代の汗なり、夫蕭都爾伯を殺してより、内亂起り、後に烏拉琳に殺さる、

シヨテンタイコ 承天太后 遼の景宗の皇后なり、英明にして軍政をも知れり、子聖宗幼にして立つに及び、政を攝し、耶律休哥を用ゐ、遼州の役には親ら軍を御して、城下の盟をなさしめ

たり、

シヨト 松都 カイシヨ(開城)を見よ、

シヨト 上都 今の内蒙古多倫諾爾の地にして、元の世祖が南征より歸りて、即位せし地なり、西紀一三六八年、元の惠宗は明軍に攻められ、此地に奔り、其東應昌に崩す、

シヨト 上黨 秦の三十六郡の一にして、今の清國山西省路安澤州の二府に當る、

シヨトオエキ 湘東王繹 梁の武帝の子なり、侯景、梁室を奪ふに及び、襄陽によりて王僧辨、陳霸先をして侯景を誅せしめ、江陵に即位せしが、禮を西魏に失し、宇文泰のために殺さる、

シヨトシ 招討使 唐の貞觀の初め之を置く、臨時官なり、

シヨドシユ 淨土宗 淨土を希ふを以て、この名あり、印度にて馬鳴、世親を祖とし、支那に在りては惠遠が廬山の蓮社に於て唱へしを始とす、

シヨドセイ 蕭道成 高帝(道成)を見よ、

シヨナン 汝南 漢の郡名にして、今の河南省汝寧府及び陳州府の南境光州の北境なり、

シヨナンオーリヨ 汝南王亮 晋の武帝の叔父にして、武帝の死するや、遺詔によりて惠帝を輔けしが、楊駿政を專にするに及び、賈后と謀りて、駿を黜け、國政を統へしが、幾もなく賈后の誅する所となる、

シヨバンオー 淨飯王 師子頰王の子にして、中印度迦比邏の城主なり、摩訶摩耶女を娶りて、悉多太子即ち釋迦牟尼を生めり、

シヨフ 少傅 三孤の一にして、周の時始めて置かれ、行政事務を掌るに非ずして、唯道を論じ、邦を経するを職とす、

シヨフカン 少府監 周の五監の一にして、百工技巧に關する事務を掌る、長官を少府監と云ふ、

シヨホ 助法 所謂井田法にして、殷の田

制なり、六百三十畝を一井となし、之を九分し、其八分を八家に授けて、其所得を私有せしめ、中央の一部七十畝を公田とし、八家にて之を耕作し、其の所得を朝廷に納めて、租税としたり、

**シヨホ** 少保 周制三孤の一にして、行政の官にあらず、其職唯道を論じ、邦を經し、陰陽を變理するにあり、

**シヨボク** 城濮 今の清國山東省曹州府濮州の南にありて、春秋晋の文公が、中國の諸侯を率ひて、楚の南侵を撃破したる所なり、

**シヨボシ** 蕭望之(長倩) 周堪と共に漢の師傅たり、帝内宴に耽り、宦者の貴幸、朝を傾くるに及び、上書諫言せしもきかれず、却つて宦者石顯に讒せられて死す、

**シヨメイタイシ** 昭明太子(統) 南朝梁の武帝の太子なり、學を好み佛に歸し、群書を博覽し、書の集まるもの三萬卷に達し、名才の士并び集まり、六朝文學の最盛を致せり、有名なる文選

は其の著なり、

**シヨヨ** 邵雍(堯夫、康節) 北宋中世の理學者なり、屢々召さるれども仕へず、居を伊水の上に定め、歲時耕稼して衣食を給し、興至れば詩を作り、時に出で、城中に遊ぶ、士大夫の敬慕甚だ厚し、卒する後、著作郎を贈る、

**シヨヨ** 襄陽 今の清國湖北省襄陽府治なり、三國魏の曹操、河の南北を統平したる勢に乗じて、劉表をこの地に攻む、表死して後、子琮其地を以て操に降れり、

**シヨヨ** 徐陵(孝穆) 南朝の文學者なり、陳に仕へて、著作郎となり、太子少傅に至る、至徳元年卒す、陵は庾信と名を齊くし、文章綺麗を尊ぶ、當時號して徐庾體と云へり、

**シヨリ** 春陵 今の清國湖北省襄陽府棗陽縣の地にして、王莽西漢を奪ひし時、漢の庶族劉秀、劉縯の擧兵せし所なり、

**シヨリン** 蕭綸(世調) 梁武帝の第六子な

り、侯景梁室を奪ふに及び、江夏によりて兵を擧げしが、兄釋と和せず、破られて東魏に降り、其の殺す所となれり、

**シヨレツテイ** 昭烈帝(劉備、玄德) 三國蜀初代の帝なり、東漢の末黃巾の賊を討して起り、義弟關羽、張飛と四方に流寓し、襄陽にありし時、名士諸葛亮を得、其謀によりて巴蜀を定め、成都によりて帝を稱し、鼎立の勢をなす、後吳を討て敗れ、僅に身を以て逃れしが、終に憂を以て死す、

**シラムーレン** 西喇木倫河 滿洲の遼河の上流にして、古へ潢河と云ひ、契丹の根據とせし所なり、

**シラヂチア** 尸羅阿迭多王 *Siladitya*. カニヤクプヂア國王にして、中東西北の四印度に主となり、深く佛教を信じ、堂塔を建て、沙門に供養し、唐の富強なるをき、太宗の時使を支那に送りし事あり、

**シリア** 條支 *Syria* アレクサンドルの

部將セレウコスが、アレクサンドルの征服せしシアの地に建てたる國にして、パピロンに都せしが、アンチオコス二世に至り、國衰へ、西紀前二五五年、大夏、安息の分領する所となる、

**シルオルタ** 金黨 *Sira-orda* 欽察汗國を見よ、

**シルガワ** 西爾河 *Syr Daria*. 支那人の所謂垂河にして、西洋史上の *Jaxartes* 川なり、源をカシミルに發し、西北流してアラル海に入る、

**シロー** 施琅 明の朱成功の臣なりしが、後清に降り、西紀一六八二年、水軍二萬を率ゐて、臺灣を征し、成功の孫克塽を降し、臺灣を平定せり、

**シロクタイ** 四六體(駢儷體) 六朝の時代に盛に行はれたる文體にして、四字と六字とを交々置きて、對句をとるものなり、徐陵庾信之をばじむと云ふ、



す

スー 鄒 今の清國山東省兗州府鄒縣の地に  
して、周末の一國なり、

スイ 垂 上古舜の時、共工となり、百工を  
主とりたる人なり、

スイ 隋 北朝周の外戚、楊堅が西紀五八一  
年、靜帝の禪を受けて建てたる國にして、七年に  
して後梁を併せ、翌年南朝陳を滅ぼし、天下を一  
統せしが、代を更ふるごと三世、三十八年、恭帝  
侑に至り、唐太祖李淵に位を禪りて、國滅びたり、

スイカ 隨何 漢の説客にして、劉邦に仕  
へ、沛公の二年、九江王英布が項籍を怨むを知り、  
之を招致せんと欲し、何をして之を説かしむ、何  
往て布をして漢に歸せしめたり、後功を以て護軍  
中尉となる、

スイコデン 水滸傳 支那小説の四大奇書

の一にして、元の施耐菴の作なりといふ、其文雄  
渾爽利を以て稱せらる、

スイジンシ 燧人氏 古傳によれば太古支  
那王として、始めて燧を鑽り、民に火食を教へた  
りといふ、

スイシヨ 隋書 唐初魏徵が撰せし隋の史に  
して、八十五卷あり、

スイヨ 睢陽 今の清國河南省歸德府にし  
て、唐の天寶中、安祿山叛して河南に入りし時、張  
巡、許遠此地を守り、江淮をして賊寇を免れしめ  
たり、

スイヨウガ 碎葉河 今の露領土耳其斯坦  
垂河なり、(チウーを見よ)

スイエン 鄒衍 戰國齊の陰陽説學者にし  
て、宣王が文學遊説の士を優遇するや、淳于髡等  
と共に召されて、大夫と爲り、議論を上下せしが、  
後に燕の昭王の師となれり、

スーキ 駒忌 戰國の時琴を鼓するを以て、

齊に仕へ、威王の相に至る、

スーゲンヒョー 鄒元標 明末の學者にし  
て、永宗の時、京師に首善書院を立て、子弟を薰  
陶し、朝政を諷議せしが、光宗立つに及び、刑部  
左侍郎となり、三案の争に就き、和衷の説を進め  
て用ゐられず、已にして彈劾せられて家に卒す、

スコベレフ Skobelev. 露西亞の將軍なり、  
浩罕を討滅し、後又露土戦争に拔群の功を建つ、一  
八八二年卒す、

スダッタ 蘇達多 Sudatta. 印度舍衛城の  
長者にして、釋迦の佛教を弘むるに當り、祇園精  
舎を建て、其飛錫を請ひ、佛教興隆を致したり、

スタノボイ Stanovoi 山脈 亞細亞東北  
部の山脈にして、貝加爾湖東より、ベーリング海  
峽に達し、長さ三千餘哩に亘る、

スーチアウ Su-chau. シンチーを見よ、

スッドホータナ 首領檀那 Suddhodana.  
中印度のカピラマヌツ(迦毘羅跋率都)の王にして

て、釋迦牟尼は實に其長子なり、西紀前六紀中世、  
印度に君臨す、

スードラ 首陀 Sūdra 上古印度四種姓の  
最下級にして、耕牧其他屠殺等の賤業に従事す、印  
度阿利亞族印度以前に住せしドラビト種にして、  
アリアに征服せられて、其使役を受けしが、西  
紀前三二〇年頃、旃陀迦多此種より出たり、

スーナ Soona. 回教の一派にして、教祖摩  
訶末の義子アリの功業を慕ひ、之に同情を表して、  
其主權を認むる徒をいふ、久しくシリア派と仇視  
す、

スノダイ 肖乃台 元の將軍にして、太祖  
鐵木真死して、其子太宗窩闊台立ち、父の遺志を  
繼ぎて、西方を經略せんと欲するや、其元(西紀  
一二二九)年命を奉じて欽察地方を征服し、大に  
功績を揚げたり、

スバカランハ 戍婆揭羅僧訶(善無畏)  
Subhakarasiṃha. 中印度の僧にして、唐の

開元中、唐に入り、眞言宗を傳へたり、

**スプタイ** **速不台** Subutai Bahadur.

元の創業の將にして、太祖の西征に従ひ、西紀一二二〇年、哲別と共に花刺子模のムハメッドを追撃し、進んでカフカズ山を踰へて、南露西亞諸侯の同盟軍を破りて歸り、一二三六年再び西征するや先鋒となりて、深く馬札兒の地に入り、クマニアより進で、其都城に迫り、マツァール連合軍をサヨ河畔に破りしが、太宗の計に接して凱旋し、後病んで卒す、

**スーボー** **鄒牟(高朱蒙)** 高句麗の始祖にして、西紀前五〇年頃、扶餘種より出で、東は挹婁、沃沮、西は鮮卑を破りて、前三七年、國を建て、東明王と稱して、高句麗七百餘年の基礎を開く、

**スマトラ** **蘇門答刺(戸利佛誓)** Sumatra. 亞細亞の南、マライ半島と瓜哇島との間に横はれる一島にして、長さ凡そ千百哩、幅員凡そ五十哩、

元の時始めて降り、明初亦之に朝せしが、西紀一五九六年、和蘭人コルネリウス來り、尋いで商館を開く、以後今日に至り、蘭人の治下にあリ、  
**スーミツイン** **樞密院** 唐の代宗の時、始めて置かれたる官衙にして、軍國の機務、兵防、邊備、戎馬に關する事務、及び出納、密命以て邦治を佐くる事を掌る、宋以後中書省と共に兩府といふ、院使、副使等の官あり、遼、金又之を置く、  
**スーミツシ** **樞密使** 樞密院の長官にして、院事を總ぶ、又知院ともいふ、  
**スナガリ** **松花江(混同江、粟末水)** 滿洲の大河にして、源を長白山に發し、北流して吉林、黑龍江兩省の間を流れ、黑龍江に合す、全長八百哩、舟楫の便あり、渤海、女眞は此流域より起りて強盛となる、  
**スーヨ** **鄒陽** 西漢の游士にして、文帝の頃、文事を以て吳王濞に聘せられ、諫納れられずして去つて梁に往き、王武に住ふ、王亦漢の嗣たる

らんと欲す、陽諫めて黜けられしが、事敗るゝに及び、大に説く所あり、因て王終に全きを得たり、王甚だ之を徳とし、厚遇せり、

**スラジャー・ダウラー** Surajah Daulah.

ベンガルの副王アリエルチの孫にして、西紀一七五六年、祖父の後を襲ぎ、印度に於ける英人の勢盛なるを忌み、大兵を以てカルカッタを襲ひ、英人百餘を黒窩に投じて、財貨を奪ひ、佛人と結びて英人に抗せしが、翌年英將クライブ之を復せしかば、其軍とプラッシーに戦ひ、大に敗れ、後數日にして捕斬せらる、

**スラト** Surat. 英領印度ボンベールの東岸、

タプチ河口にある港にして、英人最初の寄港地なり、西紀一六一二年トーマス・ベスト始めて來りし以來、一六六八年、東印度商會をボンベールに移轉する迄、此地を根據地とせり、

**スリボジャ** **戸利佛誓** スマトラを見よ、

**スルタン** **櫻里丹** Sultan. 西紀九世紀

頃より回教國の豪族が稱せし尊號にして、哈利發の代理者を意味し、地方に於ける兵馬、政治の實權を握り、哈利發を擁して、征服攻争せり、其女性なるをスルタナといふ、

**スロン・ツァンガム・ボー** **蘇隴贊堪布**

唐代吐蕃の王にして、棄宗弄讚と同じ、(チツン・ルンツァンを見よ)

**スワタオ** **汕頭** Swatoo. 清國廣東省の

東部、詔安灣口の開港場にして、貿易盛なり、西紀一八六〇年、天津條約により開けり、

せ

**セイ** ● **齊** 春秋十二國の一にして、姜姓なり、周武王の軍師呂尙(太公望)が武王の十三年封せられし國にして、營邱に都せしが、後臨淄に徙り、凡そ三十二傳して、康公に至り、安王の十六年大夫田和に廢せらる、

● 齊(田齊)

戦國七雄の一にして、媯姓、陳の支族なり、初め齊の大夫たりしが、周安王の十六年、諸侯に封ぜられ、臨淄に都し、六國と互に相攻争し、七傳して秦始皇帝の廿六年、王建秦王王賁と戦て敗れ、遂に秦に降る、和より是に至る百六十六年なり、後、秦始皇の元年、建の族儻自立して齊王と稱し、後又其従弟榮、漢高祖の元年自立して、齊王と稱し、尋で四年其弟横も自立して齊王と稱し、年を経ずして漢に降る

● 齊 漢高祖の六年其子肥の王に封ぜられたる國にして、今の山東省濟南、泰安、青州、萊州、登州五府の地なり、當時の王國中にては最も大なるものにして、漢の法に循はず、文帝は其權を分たんと欲し、其十六年齊の地を六分して、齊、濟北、菑川、膠東、膠西、濟南となし、肥の子襄の諸弟を封す、景帝の三年に至り、膠東、膠西、菑川、濟南は終に吳、楚、趙と共に七國の亂を起せり、

● 齊 南北朝の時、蕭道成帝位に即き、國を

齊と號す、史家は其南朝に屬するを以て、南齊と稱す、(南齊を見よ)

● 齊 南宋の建炎四年、金の太宗が河東、河北、河南、關中、江淮の地を取り、漢人の心を懷けんが爲め、其地を宋の降將劉豫に與へて稱せしめたる國號にして、大名府に都す、帝たる八年にして廢せらる、

● 成 巴西の氏(巴蠻)族なる李雄が西紀三〇六年に建てたる國號にして、成都に都す、其後二代を経て、玉恒四年(西紀三三八)に至り、從弟壽其主を弑して、自立し、國號を改めて漢と稱す、史家は之を成漢ともいふ、茲に至り成帝を稱する三代三十三年なり、

● 西安 清國陝西省の一府にして、明の末李自成の據りて、大順國を建てたる地なり、清の光緒二十六年、義和團起り、日、英、露、佛、獨米六國の聯合軍北京に入りし時、清帝難を爰に避けたり、

セイイキ

西域

支那本部の西に當れる諸國の總稱にして、大抵玉門關以西、葱嶺に至る地を指せり、漢の時、三十六國あり、

セイイキトゴ

西域都護

西漢宣帝の神爵二年、匈奴其衆を率ゐて降り、西域殆んど征定せし時、此官を設け、烏壘城に鎮し、西域諸國を督察せしむ、後東漢安帝の永始元年、廷議して西域を棄て、遂に都護の官を罷む、

セイエン

西燕

前燕の慕容儁の子冲が東晋中元九年に建てたる國號にして、晋の中元十八年、燕主垂の陷る所となり、三世十年にして、終に國亡ぶ、

セイオー

成王(誦)

周第二代の王にして、父武王の後を紹ぎしが、年尙ほ幼なるを以て、叔父周公旦之を輔け、召公奭と共に制度、禮樂を定め、國內安寧にして、四民其堵に安んず、

成王(頴)

春秋楚第二十代の王にして、文王の子なり、兄杜敖を弑して自立し、江淮の地

を併せ、屢、齊桓、晋文と覇業を争ふ、周襄王の廿六年、其子商臣の爲めに弑せらる、

● 聖王(明)

百濟第廿五代の王にして、扶餘氏、武寧王の子なり、即位の初、都を泗泚に定め、日本に貢す、高句麗の新羅と共に任那、百濟を侵すや、漢城を争ひ、遂に軍に殂す、我欽明天皇の十三年、佛像經典を獻せしは此王なり、

セイオーケイ

齊王罔

西晋八王の一にして、武帝の弟齊王攸の子なり、父の死後其封を襲ぎ、惠帝の永康元年、賈后暴虐の企ありしかば、之を殺し、功を以て游擊將軍となり、許昌に鎮す、翌年趙王倫自立するや、之を平げ、帝を位に復し、大司馬となりて、權を擅にし、終に成都王穎、河間王顒と戦ひ敗れて斬らる、

セイオージョー

齊王襄

漢高祖の長子齊王肥の子にして、父の死後、封を襲ぐ、呂太后の八年太后崩じ、諸呂亂をなさんとす、王兵を發して之を討ち、諸呂を誅す、後文帝の時卒す、

セイオーシヨロ 齊王將閔 漢高祖の長子齊王肥の子にして、文帝の十六年、齊王則嗣なかりしかば、帝其の地を六分し、王を齊に封す、景帝の時吳、楚七國亂をなし、膠東、膠西、菑川の三國、王を圍む、王之を帝に報じて籠城せしが、已にして陰に七國と謀を通ず、尋で藥を服して自殺す、

セイカ 西夏 宋の仁宗の寶元元年、李元昊が建てたる國にして、元昊は唐末に黃巢を討ちたる功により、夏州節度使を授けられたる黨項の拓跋思恭の裔孫なり、興慶に都す、今の陝西、甘肅及び漠南蒙古を領せしが、睨に至り、宋理宗の寶慶三年、蒙古の成吉思汗に攻められ、遂に滅ぶ、是に至り、十帝、百九十年なり、

セイカイ 青海 ココノルを見よ、  
セイカン 西漢(前漢) 西紀前二〇二年、沛公劉邦が帝位に長安に即きし時の國號なり、代を更ふること十四、孺子嬰に至り、外戚王莽の爲

めに廢せらる、時に西紀九年なり、  
セイギ 西魏 北朝魏の孝武帝修が梁の中大通六(西紀五三四年)、其將高歡に追はれ、長安に奔りてより、恭帝に至る四代、二十四年にして亡ぶ、長安は孝靜帝の都鄴より西に當るを以て、之と區別する爲め西魏と稱す、

セイキョーシヨ 盛京省 Shing-king. 清國滿洲南方の一部にして、奉天將軍之を治む、古へより東方蕃族の支那本部に入るは、必ず此地方に戦ふて勝ちたるものなるが如し、

セイクワ 清華 Thang-hoa 今の佛領印度支那の一府にして、安南の東海岸、順化の北にあり、西紀一四一八年黎利此地に兵を起し、明に叛き、已にして獨立す、

セイクワコーチノチ 成化弘治の治 明の憲宗、孝宗二代間の治世をいふ、成化は憲宗、弘治は孝宗在世の年號なり、  
セイゲン 青原 佛教禪宗の一派にして、教

祖達磨より五傳して、慧能に至りて分支し、唐末に至り、此派より曹洞、法眼、雲門の三派生ず、

セイコーノチ 成康の治 周初の治世の稱にして、成王、康王の時なり、

セイコーノヘン 靖康の變 靖康とは宋欽宗在世中の年號なり、金軍再び南下し、激しく汴京を攻め、靖康二年徽欽二帝を擒にしたり、宋人因て之を靖康の變といふ、

セイコンサツ 成袞札 清初の武將なり、高宗の乾隆廿五年、準噶爾の叛するに及び、兆惠等と共に命を受けて之を討ち、阿睦爾撒納を露領に追ふて、其亂を鎮定せり、

セイザン 成山 今の清國山東省登州府文登縣の東北にあり、唐の高宗が顯慶五年、新羅王の請を容れ、蘇定方をして百濟を征するに當り、唐軍の解纜地となる、

セイザントー 西山黨 西紀一七七五年、大越の統絶ゆるに當り、西山に兵を起したる阮文岳、

及び二弟文惠、文慮を稱す、

セイシ 齊詩 漢の時、齊の轅固生が傳へたる詩經の解釋なり、詩四家中の一なり、

セイシン 西晉 魏を篡ひ、蜀、吳を滅ぼして、天下を一統したる司馬炎が、西紀二六五年に建てたる國にして、第四代愍帝に至り、長安陷り、尋で三一七年至り、元帝建康に即位す、長安は建康の西北にあるを以て、史家は之と區別せんが爲め、愍帝に至るまでを西晉と稱す、

西秦 鮮卑の族なる乞伏國仁が、西紀三八五年、自ら單于と稱して、苑川に都せし時の國名にして、秦封じて苑川王となす、西紀四三二年、夏の爲めに滅ぼさる、國仁王と稱してより、是に至る四主、四十七年なり、

セイシュ 青州 禹貢九州の一にして、渤海々岸より泰山に至る、今の山東省の中部以東の地なり、

西周 周の考王が西紀前四四一年立ちて、

弟揭を河南に封じ、尋で前四二六年、之を東周と號するに及び、其王城の西に當るを以て、史家は之を西周と稱す、赧王に至り地を獻じて秦に入る、西東に分れてより是に至る凡八世、百七十一年なり、

セイシヨキ 西廂記 元の王實甫の著す所にして、總て十六折より成る戯曲なり、其脚色は單純にして、一片の情話にすぎずと雖、詞采に至ては、千古の絶調と稱せられ、實に琵琶行と共に元代文學の雙絶と稱せらる、

セイシヨシン 生女眞 唐代に黒水邊に居りし通古斯族にして、渤海の盛なりし時、之に屬し、渤海の滅亡後、混同江の東に居る、其一小部に完顔部あり、烏古廼は西紀一〇五〇年頃、生女眞部の長となり、遂に遼を滅ぼし、金國を建つ、今の清朝も亦此族の一種なる滿洲部より出で、天下を一統せしなり、

セイスイキョート 清水教徒 西紀一七七四年、山東省臨清州に起りたる王倫等の暴徒にして、南方に振ひ、又内治に留意し、官制を定め、文學を奨め、大に國運を興起せしむ、

成祖(棣) 明第三代の皇帝にして、朱氏、太祖の四子にして、燕に封ぜられしが、靖難を名として、燕京に叛し、遂に惠帝を逐ふて自立し、太祖の遺制を紹ぎ、又大に遠征を企て、南海諸國を下し、韃靼を親征す、

世祖(福臨) 清第三代の皇帝なり、都を北京に移し、諸將を遣はして明を撃ち、李自成、張獻忠の亂を平げ、悉く明の遺族を滅ぼし、令を下して滿洲の俗に従ひ、辮髪せしめ、清一統の業を完成す、

世祖(嘉隆帝) 阮福映を見よ、  
セイソー 世宗(厚熹) 明第十二代の帝にして、孝宗の姪なり、慈禧太后の爲めに迎立せらる、即位の初、宦者を黜けて治を圖りしが、嚴嵩を用ふるに及び、復たび政亂れ、内亂各所に起り、韃靼は北に侵し、倭寇南を擾かし、國力疲弊して、

幾もなく鎮定したり、

セイスイケン 清水縣 今の清國甘肅省秦州の屬縣にして、六盤山の南にあり、元の太祖鐵木眞が西紀一二二七年、西夏を滅ぼしたる餘勢を以て、金に入り、其途次疾を得て、此地に崩せり、

セイセン 西川 唐代節度使の鎮の名にして、成都に治して、四川省を領す、初め唐の衰ふるや、王建其節度使となり、蜀王と稱せしが、蜀亡ぶるに及び、孟知祥其節使たりしが、遂に帝號を僭し、後蜀と稱したり、

セイソ 世祖(忽必烈) 蒙古第五代の帝にして、鐵木眞の孫なり、兄憲宗の時、大理を征して之を降し、尋で宋を攻め、鄂州を圍みしが、憲宗殂するに及び、宋の和を納れて、和林に歸り、阿里不哥と汗位を争ひ、四年にして之を降し、燕京に都して、國號を元と改め、親ら南進して宋を攻め、伯顔に宋を亡ぼさしめ、遂に支那全部を一統し、進んで日本を征せしが克たず、よりて力を

明の滅亡を醸すに至る、

世宗(胤禛) 清第五代の帝にして、父聖祖の後を承けて、青海、西藏の亂を平定し、駐藏大臣及び弁事大臣を置く、既にして準噶爾を征すること六年に瀾り、全く征服せずして、雍正十三年崩す、

世宗(榮) 五代周第二代の帝にして、姓柴氏、高祖の後の姪なり、英略大志あり、天下を一統せんと欲し、軍備を擴張し、先づ北漢を破り、後蜀の北邊を奪ひ、進んで南唐を略し、自ら遼を伐ち、軍中に於て病を獲、遂に西紀九五九年崩す、

世宗(阮) 遼第三代の帝にして、太祖の孫なり、叔父太宗征晋の軍中に崩するに及び、大臣等に擁立せらる、漢を伐ち、又北漢を援けて、周を親征せしが、歸化州に至り、其族察割に弑せらる、時に西紀九五一年なり、

世宗(烏祿) 金第五代の帝にして、太祖阿骨打の孫なり、金の正隆中、東京を留守せしが、

姓仁孝にして、衆心を得、帝亮を弑して帝位に即き、南侵の師を停めて宋と和し、其國風を保守し、學を興し、東は高麗を威服し、西は西夏を懐け、南は漢淮より北臚陶河に至る大版圖を領して、國內安く治まること二十餘年、實に金室中興の英主にして、時人は之を小堯舜と稱せり、

⑤ 成宗(帖木兒) 元第六代の帝にして、世祖の孫なり、伯顔に擁立せらる、即位の初、窩淵台汗壓、入寇す、從子海山をして之を和林に逆撃す、已にして緬國內亂を起し、八百媳婦之を助く、帝劉深をして之を撃たしむ、士卒烟瘴に苦しみ、損失其功に協はず、是れより元の威外蠻に及ばざるに至る、大徳十一年崩す、

⑥ 成宗(治) 高麗第六代の王にして、太祖建の孫なり、太祖以來宋の封冊を受けしが、遂に宋を棄て、遼(聖宗)に歸し、其封冊を受く、學事を奨励し、國內を十道に分ち、官制を更むる等、治績見るべきものあり、

⑦ 成宗(斐) 朝鮮第九代の王にして、徳宗の子なり、

⑧ 聖宗(隆緒) 遼第六代の帝にして、景宗の子なり、蕭太后攝政し、耶律休哥を擧用し、宋の大軍を逆撃す、又高麗を親征し、宋を侵し、澶州に戦ふて、宋と和し、歳幣を納れしめ、東高句麗、女真、西黨項等朝貢し、遼の國勢盛を極む、西紀一〇三〇年崩す、

⑨ 聖宗(顯) 大越第四代の王にして、太祖利の孫なり、英明にして、武略あり、外は占城、老撾を親征し、哀牢、緬甸を服して、版圖を擴め、内は制度を定め、賢材を擧用し、國勢を隆盛ならしむ、實に黎朝中興の主なり、

⑩ 聖宗(晃) 陳晃を見よ、  
⑪ 正宗(祿) 朝鮮第二十二代の王にして、仁祖僖六世の孫なり、緇徒政務に參するの弊を矯め、其都城に入るを禁じ、又諸儒に命じて、國史を編纂せしめ、國內平穩なりしが、外戚金、趙諸

氏迭に軋り、君權下に移るの初めをなせり、

⑫ セイソノハオー 西楚の霸王 秦末に楚の項羽が義帝を江南に徙し、彭城に都して、梁楚の地に霸王となる、蓋し西楚は彭城を指すなり、

⑬ セイタイ 齊泰(名徳) 明の太祖に事へて兵部侍郎たりしが、太祖其才を愛し、名を賜ふ、惠帝即位するに及び、兵部尙書となり、機務に預る、成祖帝位に即くに及び、擒にせられて誅せらる、時に建文四年なり、

⑭ セイダン 清談 老莊の學說に基き、禮節を放擲し、世務を排棄して、専ら空理を談するをいふ、東漢の末、名節を重んじたる反動として、魏、晋の際盛に行はれ、其結果國を憂へざるに至る、

⑮ セイチョーコク 青帳國 拔都の弟昔班の建たる國にして、ウラル河の東方の地なり、其長を青帳汗といふ、

⑯ セイテイ 成帝(鰲) 西漢第九代の帝にして、元帝の子なり、父に繼で位に即き、宦者石

顯及び其黨を黜斥して、外戚王氏を重用せしかば、王氏漸く權を恣にし、漢室を傾くるに至る、

⑰ 成帝(衍) 東晋第三代の帝にして、明帝の子なり、外舅庾亮、獨り事を用ふるに及び、蘇峻亂を起し、帝を石頭城に移せしが、陶侃之を討つて事平ぐ、斯くて内亂相踵きしかば、外夷北に侵して、克く制する能はず、

⑱ 靜帝(闡) 北周第五代の帝にして、宇文泰の曾孫なり、西紀五八一年太后の父楊堅帝に迫つて禪を受く、尋で隋文帝に弑せらる、

⑲ セイデンホー 井田法(助法) 上古商の田制にして、六百三十畝を一井とし、九區に分ち、中央の一區を公田となし、其他を八家に授け、八家にて公田を耕作し、其收入を朝廷に租税として納むる法なり、

⑳ セイト 成都 今の清國四川省成都にして、三國時代、劉備都して帝と稱し、四十三年間の蜀都たり、東晋の時、李雄亦都し、四十四年間の成

(漢)都たり、明末張獻忠亂をなし、此地に據る、  
セイトー 成湯 商初代の王にして、初め商の君たりしが、夏亂れんとするや、賢臣伊尹を用ひて、政を修め、諸侯を服して、夏に代つて王となる、

● 齊黨 明の萬曆の末、東林黨に反對したる在朝黨にして、楚越二黨と極力東林の士を排斥せり、周永春、韓浚等其魁たり、

セイトオーエイ 成都王頴 西晋八王の一にして、武帝の子なり、太康十年、成都王に封ぜられ、鄴に治す、惠帝永寧中、趙王自立するや、之を平げ、已にして齊王を斬り、又河間王と長沙王を攻め、皇太弟となりて僭侈甚だしく、東海王と戦て敗れしが、東海王長安を陥るゝに及び、遂に殺さる、

セイトク 成德 今の清國直隸省正定府にして、唐の時、節度使の鎮所なり、徳宗の頃、李寶臣此地に節度使たり、

之を領し、中央亞細亞の主となれり、一五一〇年ソフィのシャー・イスマイルとメルブに戦ひ、敗れて没す、

セイビョーホー 青苗法 植附の時、農民に錢を貸與し、收穫の時、二三割の利を附して、朝廷に還さしむる法なり、宋の神宗、王安石の議により、熙寧二年始めて之を行ふ、

セイヘイ 西平 晋代の郡名にして、涼州に屬す、今の清國甘肅省西寧府の地なり、晋の懷帝の永嘉中、張軌封ぜられ公となる、前涼は即ち是なり、

セイホーアジア 西方亞細亞 史上ヒンヅ・クシ山脈インドス河以西の地をいふ、即ち今の波斯、小亞細亞、亞刺比亞の地なり、(阿富汗斯坦、卑路芝斯坦は往々含ます)

セイホクオー・コーキョ 濟北王興居 漢高帝の孫なり、惠帝の末、諸呂を平ぐるに功あり、文帝立ちて二年、濟北王に封ぜらる、已にして驕

セイトクオー 聖徳王 新羅第三十三代の王にして、文武王の孫なり、性穎敏、夙に心を政治に留め、始めて漏刻を造り、祀典、典屬、禮部を置き、大學を設け釋奠の禮を興し、文學を奨励し、租を軽くし、民を賑はし、百姓其治を稱す、

セイナンオーヘキコー 濟南王辟光 漢高帝の孫なり、文帝十六年王に封ぜらる、景帝三年吳楚六國と共に反し、齊を攻めしが、吳、楚尋で敗れ、漢兵至るに及び、遂に誅に伏す、

セイネイフ 西寧府 清國甘肅省西部の一府にして、黄河の上流なる南川河の北川河に會す所にあり清の雍正二年、青海の叛を平げて、辦事大臣を此地に置きたり、

セイハク 西伯 商王紂が周祖文王昌に命じたる稱にして、西方の伯なり、伯とは諸侯の長をいふ、

セイバニ Shaybani. 烏即別汗アブル・ケルの子、西紀一五〇〇年、サマルカンドを陥れて、

横なり、翌年遂に兵を發して反す、帝柴武をして撃たしむ、王戦敗れ、執へられて自殺す、

セイホクオーシ 濟北王志 漢高帝の孫にして、文帝十六年王に封ぜらる、景帝三年吳王兵を擧げんと欲し、合同を求む、城壞るゝを以て之に應ぜず、亂平ぐに及び、菑川王となる、

セイメイ 誠明可汗(阿熱) 回紇のまなり、西紀八百三十年頃、黠戛斯に起りて、其部長となり、回紇の衰に乗じて、其地を奪ひ、唐の宣宗の封冊を受け、誠明可汗となる、

セイメイリキノセツ 性命理氣の説 (性理學、理學、格物窮理の學) 宋代に行はれたる學説にして、周敦頤、邵雍之が先驅をなし、敦頤は易理を窮めて、大極無極を唱へ、雍は天地の消長を説き、儒學の上に佛教の理を加味して、深奥なる道理を研究せり、

セイラク 盛樂 今の清國山西省歸化城の南にあり、西晋の初め拓跋部の力微之に都し、已に

して其孫猗盧此地に居て、上谷代を總攝せしが、其玄孫道武帝珪又代より徙て、此地に魏國を建てたり、

セイリガク 性理學

性命理氣の學を見よ、

セイリヨト 西涼

東晋安帝隆安四年、李嵩が敦煌に據りて建てたる國にして、宋武帝永初二年、沮渠蒙遜の爲めに滅ぼさる、國を有つこと二世、二十二年なり、

西遼

カラキタイ(黒契丹)を見よ、

セイリヨシ 西陵氏

太古黃帝の元妃にして、民に養蠶の事を教えたりと云ふ、

セイローム 青樓夢

清初の小説中有名なるものにして、青樓に於ける男女の情を描き出したるものなり、

セイロン 錫崙(獅子國)

Ceylon. 印度の南方海中にある一島にして、面積四千二百方哩あり、人民皆佛教を奉ず、

セキカイ 石介

宋の仁宗に仕へて、慶歴中

國子直講たりしが、性篤學にして志を尙び、善を樂み惡を憎み、遂に朋黨の争をなすに至る、

セキカン 石鑑

晋末趙第六代の主にして、石勒の養子、虎の庶子なり、兄遼を弑して王となりしが、百餘日にして、冉閔に弑せらる、

セキケイ 石經

支那道德の根本たる五經を石に刻したるものにして、後漢靈帝の熹平四年、諸儒に詔して、五經文字を正し、蔡邕をして之を古文、篆、隸の三體に書し、石に刻し、大學門外に立てしむ、後世亦此舉あり、蓋し轉寫の誤を防ぎ、正につかしむるにあり、

セキケイコ 戚繼光

明の世宗に仕へて副總兵たりしが、嘉靖四十二年、總兵俞大猷と命を奉じて、倭寇を平海衛に破り、其患を絶ちたり、

セキケイト 石敬瑭

高祖を見よ、

セキケン 石顯

漢宣帝の時より、久しく樞機を典りしが、成帝位に即くに及び、黜けらる、

セキコ 石虎

五胡後趙第三代の主にして、

南京となし、將を置く、

セキシ 石首

清國湖北省荊州府の縣名なり、漢の時華容縣の地にして、唐に石首縣をおく、

セキシユン 石守信

宋初の功臣にして、も

セキシユン 石遵

五胡後趙第五代の主にして、虎の第三子なり、大將軍として關右を鎮せしが、遂に石世を弑して之に代る、在位二百餘日にして、又鑿に弑せらる、

セキセイ 石星

明の神宗に仕へて、兵部尙書となる、豊臣秀吉征韓の役、明軍亦將を遣はして朝鮮を援けしが、軍屢敗れて、士氣沮喪せしを以て、星は和を主とし、沈惟敬をして和を議せし

勒の從子なり、夙に勒の軍に従ひ、西晋と戦ふて功あり、勒王となるに及び、大尉となり、勒殂し太子弘立つに至り、之を弑して王となり、鄴に都し、永和五年殂す、

セキコ

● 石亨 明の武將なり、英宗に仕へ、瓦刺と戦ひ、陽和に敗れて、官を貶せられしが、幾もなく後軍右都督となり、後英宗を擁して景帝を廢し、政を専らにせしが、天順三年罪を以て罷められ、翌年誅せらる、

石弘

五胡の後趙第二代の主にして、勒の子なり、中山王石虎の爲めに廢せられ、尋で殺さる、時に東晋咸和九年なり、

セキコ 浙江

Cheh-kiang. 今の清國十八省の一にして、楊子江の南にあり、江蘇、福建の間に位す、

セキシ 析津府

遼五京の一、今の清國直隸省順天府にして、五代晋の唐を滅ぼすに當り、援を假せしを以て、之を遼に割く、遼は之を



む、已にして和破るゝに及び、罪せられて誅せらる。時に萬曆廿五年なり。

●石世 五胡後趙第四代の主にして、虎の子なり、在位僅に三十餘日にして、兄遵の爲に弑せらる、時に東晋永和五年なり。

セキセイ 浙西 今の清國浙江省の北部及び江蘇省の地をいふ、元の末、張士誠が此地に據りて國を周と號す。

セキタツカイ 石達開 清長髮賊の徒なり、洪秀全に従ふて、各地に功あり、秀全の天王となるに及び、翼王となる、已にして大軍を以て武昌に向ひ、胡林翼に敗られ、又各地に轉戦して、清軍を惱ませしが、同治元年遂に虜せらる。

セキチヨキ 石重貴(出帝) 五代晋第二代の帝にして、石敬瑭の姪なり、即位の初、景延廣政を専らにし、契丹に禮を失ひしかば、契丹太宗怒りて、大兵を以て來り攻む、其將杜重威二十萬を以て降るに及び、軍大に敗れて、遂に之に降り、

及ひ、之と協はず、遂に襄國に後趙を立つ、

セシン 世親 バスパンツヲを見よ、

セツエンダ 薛延陀 鐵勒の一部にして、ツラ河の南に居りしが、唐初に當り、其部長に夷男なるものありて、回紇と共に東突厥の衰亡に乗じて、之を破り、唐に通じて、鐵勒諸部を統べ、

漢北に雄視せしが、夷男の死後、國亂れ、回紇に敗られ、西紀六四六年、唐將李勣の爲めに全く滅はさる。

セツキヨ 薛舉 隋に仕へて、金城の校尉たりしが、煬帝弑せられ、群雄西方に起るに及び、自ら西秦の霸王と稱し、秦帝と號せしが、唐の世民と戦ひ、勝に乗じて長安を攻めおとし、病んで卒す。

セツキヨセイ 薛居正(子平) 宋太祖に仕へ、輔相たること十八年、寬簡にして苛察せず、衆論之を賢とす、かつて五代史を撰す、

セツジンキ 薛仁貴 唐初の將なり、太宗

晋終に亡ぶ。

セキテキ 赤狄 春秋の時、今の清國山西省の北部に居りし夷狄にして、屢、諸侯を惱ませり、齊桓公は亦屢、之を攘ひ、其後覇者出で、之を斥けたり、

セキビノツク 赤眉の賊 西漢の末、青州に起りたる樊崇の徒をいふ、此徒皆其眉を朱にし、號して赤眉と曰ふ、劉盆子を帝となし、長安に入る、劉秀の將鄧禹、馮異等之を撃ち、東漢の建武二年、遂に敗れて降る。

セキヘキ 赤壁 今の清國湖北省武昌府嘉魚縣の東北なる山にして大江其下を流る、東漢建安十三年、吳の孫權の將周瑜、魯肅が蜀の劉備と兵を并せ、黃蓋の策を用ひて、魏の曹操の八十萬の衆と、山下に戦ひ、大に魏軍を破れり、

セキロク 石勒 五胡後趙の主にして、羯人なり、磊落にして勇略あり、劉淵の起りて晋を侵すや、勒從ふて功あり、劉曜の長安に即位するに

に仕へ、貞觀十九年、遼東の戦に殊功あり、高宗の時、鐵勒を伐ち、高麗を征し、吐蕃を討つに及んで、其副將の節度を失ふを以て、軍終に敗れ、和を約して還り、免ぜられて死す、

セツジンコ 薛仁果 隋末の秦帝にして、舉の子なり、多力にして騎射を善くし、父の兵を起すや、軍に從て功あり、父死するに及び、立つて帝となりしが、性貧にして殺を好むを以て、人心離叛し、幾もなく秦王世民と高墪に戦ふて敗れ、遂に唐に降り殺さる。

セツス 薛嵩 唐の將なり、安史の亂に、賊を討て功あり、代宗の大歴元年、昭義の節度使となる。

セツセン 薛瑄(德温、敬軒) 明の儒學の大家にして、英宗に仕へ、内閣に入て機務に預りしが、後致仕す、此時宋の理性學盛んに行はれ、瑄深く之を究め、生徒を教授し、朱熹以來この道明かなれば、著作するの要なしとて、専ら朱熹の陳説

を

を

を

を奉じ、躬行を勧めたり、王學起るに及び、此學派を河東派と稱せり

セツト 浙東 今の清國浙江省東部の地に於て、元の末、方國珍が據つて亂をなせし所なり、

セツトシ 節度使 唐代の地方武官にして、もと高宗の時、邊州の都督の使持節を帶ぶる者を稱せしが、睿宗の景雲中始めて節度使の名あり、玄宗に至り之を置き、數州を以て一鎮となし、甲兵を率ゐて、土地、人民、財賦を掌り、大に勢力あり、安史の亂後益々強く、遂に割據して跋扈するに至る、

セツピンテイ 節閔帝(恭) 後魏第十代の帝にして、獻文帝の孫、初め廣陵王たりしが、孝莊帝の爾朱榮を誅するに及び、其族等帝を弑して、之を立つ、在位二年にして、高歡の爲めに廢せる、セツファンカイシ 説文解字 東漢の學者許慎が著したる字書なり、セツマトー 攝摩騰 カシミアバ・マータンが

を見よ、

セツロン 攝論 陳、隋の時起りたる佛教の一宗派にして、一時碩學高德の名僧、踵を接して輩出したたり、

セブクテキン Sebulktekin. カズニ(吉慈仁)朝の主にして、サマン家の臣なりしが、主家の衰ふるに及び、西紀九七六年吉慈仁に據りて獨立し、頻りにサマン家の領土を蠶食し、アム河以南に大國を建設したり、

セミスカント 尋思干 Semiscant. 今のサマルカントにして、中央亞細亞の西部土耳其斯坦の都府なり、西紀一一二六年、耶律大石此地を知りて、西遼を建設せり、

セムフエン Sembuen. (マウンマン)孟駸、ミエツ・メング) 緬甸王麤藉牙の子にして、父の後を承けて、暹羅を攻め、遂に其國都アエチアを陥れ、又屢々雲南に入寇し、清將明瑞を破りしが、西紀一七六九年、和を請ひ、後清の封冊を受

けたり、

ゼンインド 前印度 今の英領印度にして、緬甸、暹羅、安南等の諸國を後印度と稱するにより、此名起る、

ゼンウ 染子 突厥の莫何可汗の子なり、從兄都藍可汗と協はずして婚を隋に求め、文帝の女を娶りしが、都藍に追はれて、隋に歸し、啓民可汗に拜せられ、都藍の死するに及び、北歸して其衆を併せたり、

ゼンウ 單于 匈奴の君長の稱にして、天子の意なり、

ゼンウダイ 單于臺 清國山西省歸化城の西にあり、元封元年漢武帝親ら大軍を率ゐて、長城の外に出で、此臺に登り、使を遣はして匈奴の烏維單于を威嚇せり、

ゼンウトゴフ 單于都護府 唐高宗の永徽元年、突厥を降して置く所なり、雲中に治して、内蒙古を統べたり、

ゼンエン 前燕 五胡十六國の一にして、東晋成帝の咸康七年、鮮卑の慕容皝、燕に據りて之を建つ、後燕に移り孫暉に至り、晋の太和五年、秦の苻堅と戦ふて敗れ、之に降る、

ゼンエンノチカヒ 澶淵の盟 西紀一〇〇四年、宋、遼が兄弟の約を以て和を結びたるをいふ、宋は絹二十萬、銀十萬を遼に贈ることゝなれり、

ゼンオー 宣王(靜) 周第十一代の王にして、厲王の子なり、即位の初、國勢頗る衰へたりしが、賢相を用ひて、外夷を征し、又内政を改革して、王業を回復し、周中興の名主と稱せらる、  
宣王(良夫) 春秋楚第三十四代の主にして、悼王の子なり、兄肅王の後を承く、

宣王(辟疆) 戰國齊第四代の主にして、威王の子なり、田忌、孫臏等の名臣を用ひ、兵を四方に交へ、賓客遊説の士を好み、孟軻、淳于髡、騶衍、慎到等至り、張儀も亦連衡の説を以て王に勧めた

り、  
 ④ 宣王(仁秀) 渤海第十代の王、賢明にして文化を進め、五京十二府を置き、東は日本海に蒞み、西は契丹、南は新羅に接し、北はスンガリ河に至る大版圖を領有せり、

センガイソブン 泉蓋蘇文 高句麗の東部大人なり、嬰陽王を弑し、子臧を立て、權を擅にし、唐太宗を安市城に防ぎ、終に之と和せしが、尋で高宗と戦ひ、遂に軍中に卒す、

センカン 前漢 西漢を見よ、

センキョー 冉求 孔子の門弟にして、政事に長じ、魯の季氏の宰となる、孔門十哲の一人なり、

センギョク 顓頊(高陽氏) 黄帝の孫にして、少昊に代りて王たり、始めて曆を作り、孟春を以て春となす、在位七十八年、年九十八にて崩せりと云ふ、

センケイオー 宣惠王 戰國韓第七代の主

にして、昭侯の子なり、蘇秦の説を容れて、六國と合従の約を結びしが、幾もなく約破れたり、  
 センケンエキ 錢謙益(受之、牧齋) 清初の詩人、明に仕へて禮部尙書たりしが、清江南を定むるに及び、之に降り、用ゐらる、後歸郷し、里居十六年にして卒す、其詩率れ富健なり、

センコ 千戸 元明の地方軍衛の官にして、千戸所の長なり、千人を統ぶ、

センコー 冉耕 孔子の門弟にして、十哲の一人なり、德行を以て、顔閔と名を齊うす、

センゴクシダイ 戰國時代 周威烈王二十三年、晋の三卿、韓、魏、趙が新たに諸侯に封せられ、晋の地を分割せしより、秦始皇帝が六國を一統するまで、凡そ二百六十餘年間をいふ、此時周室の威全く墜ち、七國互に攻伐せり、故に名づく、

センゴクシチユ 戰國七雄 春秋十二國中の秦、楚、燕の三國と、晋を分割したる韓、魏、趙の三國と、齊の田和が封せられたる齊國とを云ふ、

秦の勢増、盛にして始皇帝に至り、他の六國を滅ぼしたり、

センシン 前秦 五胡十六國の一にして、西紀三五〇年氏族の酋長蒲洪が枋頭に建てたる國にして、其子健の時、長安に入りて帝と稱し、其姪苻堅に至り、國勢頗る盛なりしが、肥水の戰に敗れ、國衰へ、三九四年西秦の爲めに亡さる、七主四十五年なり、

センシントイコ 宣仁太后 宋英宗の后にして、姓は高氏、哲宗幼なるを以て、政を攝し、王安石の黨を黜けて、苛政を革む、民其徳を頌して、女中の嬖舜といひ、其政を元祐の更化といふ、

センシユ 泉州 今の清國福建省泉州府なり、唐の時、亞刺比亞人、波斯人、猶太人等との、貿易港にして、此地に市舶司を設けて、海關税を徴し、當時貿易頗る盛なりきといふ、

● 陝州 今の河南省陝州にして、唐の廣徳

元年、吐蕃が長安を侵せし時、代宗が奔りて難を避けし地なり、

● 澶州 今の清國直隸省大名府開州にして、宋の眞宗が遼の聖宗の大軍を破りし地なり、

センシユ 鄆州 今の清國甘肅省西寧府にして、唐の時、隴右節度使の鎮所なり、隴右道を管し、吐蕃の侵寇に備へたり、

センシユ 禪宗 佛教の一派にして、禪那を宗とす、摩訶迦葉之を創唱し、廿八傳して達磨に至り、西紀六世紀の初支那に入り、唐の時、南岳、青原の二派に分れ、又各、分岐して、南岳に臨濟、青原に曹洞、黃蘗等數多となる、

センシユ 錢俶 五代吳越最後の王にして、鏐の孫なり、浙江に割據し、漢、周の冊封を受く、後宋太祖の征討に従ひて功あり、鄧王に封せらる、

センシヨ 占城(占婆) Champa. 今のコシエンシヤにして、安南の南にあり、元の世祖は唆都をして、海軍を以て之を撃たしめけ

れば、敗れて遂に元に降る、已にして安南に屬し、現時佛國に屬す。

**センシヨク 前蜀** 唐昭宗天復三年、西川節度使たりし王建が蜀王に封ぜられ、天祐三年始めて行臺を立て、獨立せし國なり、翌年帝と稱せしが、其子衍に至り、後唐同光三年、唐と戦て敗れ、遂に之に降りて滅びたり。

**センセイ 陝西** Shen-si. 今の清國十八省の一、黄河の西にありて、秦の關中の故地なり、明には十五省の一なりしも、清に至り西部を甘肅省に加へられたり。

**センセン 千泉** Min-bulak. 露領土耳其斯坦の塔刺斯河の上流にあり、西紀七世紀の初、西突厥の統葉護可汗が鐵勒諸部、及び波斯を屬國とし、本營を奠めし地なり。

**センゼン 鄯善** 漢代の西域三十六國の一にして、初め樓蘭國と稱し、今のロプノル附近に居る、漢武帝の時、漢に降りしが、已にして叛し、

東漢光武帝の時又降り、明帝の時、班超赴きて之を威服す、其後叛服常なく、後魏の太武帝、隋の煬帝等屢、之を征したり。

**● 鄯** 今の清國雲南省雲南府にして、元の世祖が未だ宋を亡ぼさざる時、皇子忽哥赤を雲南王に封じて、大理、金齒等と共に此地に鎮せしめたり。

**センソ 宣祖(昭敬王・昭)** 朝鮮第十五代の王即位の初、政衰ふ、時に豐臣秀吉天下を一統し、進んで朝鮮を攻む、王戰敗れて義州に走る、秀吉の軍再び朝鮮に入るや、又海州に走る、西紀一六二八年薨す。

**センソ 宣宗(忱)** 唐第十六代の帝にして、憲宗の子なり、姪武宗に次で立ち、黨争を止め、外は隴西、青海を復し、内は藩鎮の跋扈、宦官の専横を制せんと圖り、成效を見ずして崩す、時人號して小太宗となす。

**● 宣宗(珣)** 金第八代の帝にして、章宗の弟

なり、章宗政を亂してより、國勢衰へ、蒙古屢、境に寇し、遂に燕京に逼る、帝和を求めて、皇族の女及び金帛を納る、然るに弱兵財乏を以て、汴に遷都せしかば、蒙古怒り、大軍を以て南下し、金軍大に敗る、王終に崩す。

**● 宣宗(瞻基)** 明第五代の帝にして、成祖の孫なり、父仁宗の後を承け、頗る心を政事に留め、所謂宣徳の善政をなし、漢王の叛を親征し、兀良哈を降し、邊備を撤するに至る。

**● 宣宗(晏寧)** 清第八代の帝にして、仁宗の子なり、鴉牙戰爭、長髮賊の亂あり、道光三十年崩す。

**● 宣宗(運)** 高麗第十三代の王にして、西紀一〇八五年頃、兄順宗の後を承けて位に即く。

**センソンシ 顓孫師** 孔子の門弟中有名なり。

**センタイキン 錢大昕(竹汀)** 清の乾隆中、皇子等を教授す、已にして疾を以て辭し。

紫陽に在て、子弟を教授すること十六年、七十七歳にして卒す、博學にして群書を註せしが、就中歴史地理には最も其全力を注ぎたりといふ。

**センチヨ 單超** 東漢の宦官にして、桓帝の時、外戚梁氏の専横を除き、功によりて侯に封ぜらる、宦者はより權を恣にするに至る。

**センチヨ 前趙** 西紀三一八年、匈奴より起りたる劉聰の後を承けて、自立したる漢王劉曜が、翌年長安に移りて改めたる國號にして、曜の子亦石勒の將虎に敗られて、遂に滅びたり、所謂五胡十六國の一なり。

**センテイ 宣帝(詢)** 漢第七代の帝にして、武帝の嫡曾孫なり、巫蠱の亂によりて、民間に生長し、窮苦を嘗む、即位の後、親ら政を攬り、外戚を平けて、賢相を用ひ、勵精治を圖り、紀綱大に張り、士民皆太平を謳歌して、漢中興の主となす。

**● 宣帝(瑱)** 南朝陳第四代の帝にして、

武帝陳霸先の從子なり、北齊の政紊るに乗じ、帝  
屢、之を攻めて、江淮諸郡を略し、領土を擴む、  
③ 宣帝(贊) 北朝周第四代の帝にして、宇文  
泰の孫なり、淫戲度なく、皇后の父楊堅權を專に  
し、在位一年ならずして位を去る、

④ 宣帝(晉) 蕭齊を見よ

センド 踐土 今の清國河南省開封府榮澤縣  
にありて、晉文公の諸侯を會せし所なり、

セントー 川黨 宋哲宗の時の黨派の名なり、  
蘇軾之を率ゐたり、又蜀黨とも云ふ

セントクノチ 宣徳の治 宣徳は明宣宗の  
在位十年間の年號なり宣宗は賢臣を任用し、吏治  
を重くし、貪吏を黜けて、田租を寛にし、人民を恤  
み、海内よく治まる、故に後世これを宣徳の治と  
いふ、

センネイ 錢寧 太監の錢能の家奴なりしが、  
江彬の義子となり、彬の薦により、明武宗に仕へ、  
彬と寵を争ふ、已にして寧王宸濠に兵を擧げしめ、

彬の爲めに彈劾せらる、後世宗立つに及び、執へ  
られ誅に伏す、

センビ 鮮卑 通古斯族に屬する東胡の裔族  
にして、西漢の初、匈奴に追はれて東走し、鮮卑  
山に據りたるものなり、東漢の初、匈奴の衰耗に  
乘じて、故地を復し、桓帝の時に、檀石槐出て、  
大に領土を擴め、西紀一八一年、其死と共に分裂  
して、慕容、拓跋、宇文、秃髮、乞伏の諸部となり、  
共に晋の大亂に乗じて南下し、各國を建てたり、  
所謂五胡の一なり、

センビン 冉閔 後趙の石虎に仕へて、軍功  
を樹て、其養子となり、已にして大將軍となり、  
其主遵及び鑿を弑して、西紀三五〇年自立し、國  
を魏と號せしが、燕の慕容恪と戦て敗れ、執へら  
れて殺さる、時に西紀三五二年なり、

センブ 宣武 今の清國河南省開封府にして、  
唐の末、節度使の鎮所たり、朱全忠唐祚を篡ひて、  
此地に帝となる、

センフ 宣府 今の清國直隸省宣化府にし  
て、明の嘉靖中、蒙古の俺答が屢、南侵して、此  
地に入り、明を擾がしたり、

センフシ 宣撫使 軍旅大事あれば、特に大  
臣を以て之を命じ、威令を宣布し、邊境を撫綏し、  
及び將帥を統へ、軍旅を督せしむ、唐の元和中、  
諸州におき、宋には常置せず、明の時又地方の司  
法官として之を置く、

センフテイ 宣武帝(恪) 後魏第七代の帝  
にして、孝文帝の子なり、當時國民優柔に陥り、  
帝は亦宗室を疎んじ、佞臣權を擅にし、魏の勢是  
より衰ふ、

センホー 錢鳳 東晋元帝に仕へて、鎮東大  
將軍王敦の參軍たりしが、凶狡にして事を用ひ、  
敦に勸めて兵を擧げしめ、威權を恣にせしが、太  
寧二年敦死するに及び、軍敗れて執へられ、誅に  
伏す、

センホー 冉駘 秦漢時代に、今の四川省茂

州附近に割據せし蕃族にして、漢の元鼎六年、武  
帝の爲めに征服せられ、汶山郡を置かる、

センムイ 善無畏 スハカラシンハ(戊婆揭  
羅僧訶)を見よ、

センヨー 冉雍 孔子の門弟にして、十哲の  
一人なり、德行あり、魯の季氏の宰となる、

センラドー 全羅道 今の韓國八道の一にし  
て、南端の西部に位す、現今全州、羅州に分る、  
古へ馬韓の地なり、

センリユー 錢鏐 唐の乾祐中、天下亂る、  
に及び、進んで鎮海節度使となる、已にして唐滅  
び梁代る時、兩浙に據りて、吳越王と稱し、梁の  
封冊を受く、尋で梁の諸道兵馬元帥となる、

センリョー 前涼 西晋の將張軌の孫駿が西  
紀三四五年自ら王と稱せし國にして、所謂五胡十  
六國の一なり、後、代を更むること五たび、西紀  
三七六年、秦と戦て敗れ遂に亡ぶ、

ゼーヤ Dzya. 西比利亞の黒龍江の上流

なり、西紀一六四四年、コサク人ボヤルコフは此河を下りて、黒龍江沿岸を探り、オホーツク海に出でたり、

セユー 世友 世親を見よ、

セリウクス・ニカトル Selencos Nicatol.

セリウクス一世を見よ、

セルジウク Seljunks. セルジウク朝の始祖にして、突厥種族の酋長なり、サマン朝の亡ぶるや、河間の地に起りて、中央亞細亞の騷擾に乗じ、呼

珊羅に徙り、漸く領土を拓きて、セルジウク家の基礎を建てたり、

セルジウク Seljunks 朝 トルコ人セルジウクが創めし朝にして、孫トグルルマフに至り、吉

慈仁朝を滅ぼし、都を尼沙不耳に奠む、西紀一一九四年サンツァール、ホラズムのテキッシウの爲めに滅ぼさる、

セレウコス Seleukos 一世 セレウコス朝の始祖にして、名をニカトルといふ初め歴山大

王の部將として、印度遠征に従ひしが、大王の死後バビロンの知事となり、衆望を失ひて、埃及に走る、已にしバビロンを復し、四隣を征服して、都をシリアに奠めて王となり、西紀前二八〇年、マケドニアを討たんと欲し、臣下の爲めに弑せらる、

セレンガ 色楞伽河(薛靈哥、婆陵)

Selenga. 源を蒙古の土謝圖の北部に發し、東北流すること五百哩にして、西比利亞の貝加爾湖に入る、

セレル Serer. 絹を行買する支那商人を羅馬人が呼びし名なり、紀元一二世紀の頃、支那と羅馬間に貿易行はれ、支那の絹は羅馬人の珍重す

る所となる、支那人は絹をセルと稱せしより起る、

そ

ソ 楚 帝顓頊の後にして、周の夷王の時、熊渠江淮によりて國し、始めて王を稱す、後武王、文王相次で地を開き、都を郢に奠む、四十一世、八百餘年にして、終に秦に滅さる、

漢の高帝が其弟交を封じたる國にして、今の江蘇省徐州、海州の二府及び山東省兗州、沂州の二府を領し、勢甚だ隆にして、景帝の時に至りて、吳楚七國の亂ありて滅さる、

ソ 相 夏五代の王にして、仲康の子なり、都を商邱に遷し、有窮の後羿を用ゐしが、終に之に位を奪はれ、羿の臣寒浞の殺す所となれり、

ソ 宋 春秋列國の一にして、紂の庶兄微子開の封國なり、商丘に都し、河南の地を領して、一時盛なりしが、王偃に至り、齊、魏、楚の聯

合軍に滅さる、

宋 南朝の第一にして、西紀四一九年、武帝劉裕が東晋を篡ひて建てたる國なり、建康に都し、江南の地を保ちしが、八帝、六十年にして、順帝の時、齊の太祖道成に篡はる、

宋 西紀九六〇年、太祖趙匡胤が後周の禪りを受けて、汴に建てたる國なり、九代欽宗の金に擒となるに及び、欽宗の弟高宗、宋の帝統をつぎ、楊州に即位す、之を南宋と云ふ、後九代帝昺に至り、終に元に滅さる、宋は建國より十八代、三百六十年にして亡ぶ、

曹 春秋列國の一にして、周の武王の弟叔振鐸の封國なり、定陶(山東省曹州府)に都せしが、春秋の末に宋に滅さる、

ソイツ 祖乙 商第十一代の王にして、河亶甲の子なり、賢相巫賢を用ゐ、紀綱大に振へり、ソウウン 宋雲 西域記の著者なり、北朝魏の孝明帝の正光二年、西域に使し、二年を経て、

佛經一百七部を齎して歸る、

ソエイヒン 蘇頌濱 蘇轍を見よ、

ソエト 索額圖 清の聖祖に仕へて、内大臣となり、西紀一六八九年、露國公使ゴロウインと尼布楚に會して、條約を締結せり、

ソオト 莊王 春秋楚の王にして、穆王の子なり、位に即きて三年、號令を出さず、日夜樂をなす、大夫蘇從諫むるに及び、弊政を一新し、大に晋兵を郟に破り、覇を中國に稱す、

ソオトイ 楚王瑋 西晋武帝の第五子にして帝崩するや、入りて衛將軍となり、賈皇后と謀りて、汝南王亮を殺す、尋で賈后に誣殺さる、

ソオトコ 楚王交 漢の高祖の弟なり、漢の六年楚王に封ぜらる、

ソオトホ 楚王戊 楚王交の孫なり、景帝の時、吳王濞等と共に叛し、終に誅せらる、

ソカ 桑哥 騰巴國師の弟子にして、元の世祖に仕へ、聚斂を事とし、交鈔を濫發して、國庫

の缺乏を救へり、

ソカク 桑格 清初の名臣なり、聖祖に仕へて護軍統領となり、耿精忠を征し、後帝に従ひて噶爾丹を討ち功あり、

ソガク 宋學 宋代に一特色を發揮したる性理の學を云ふ、(性理學參照)、

ソカン 宗翰(初粘沒喝) 金の太祖の從姪なり、太宗の時、山西より出で、宋の太原を圍みしを始とし、後宋を侵して功あり、兵權を握り勢あり、

ソキタク 曾紀澤 國藩の子なり、光緒四年英佛駐劄公使に任ぜられ、翌年欽差大臣として、伊犁問題を決し、入りて兵部禮部の侍郎を經、總理衙門會辦を兼ね、十六年卒す、

ソキツ 蒼頡 支那太古黃帝の時、鳥跡と稱する文字を作りし人と稱せらる、

ソキショ 曹吉祥 明の宦官なり、英宗の時、宦者王振に依りて聚斂し、英宗復位に及

び、司禮太監に遷り、後異謀を企て、ならすして誅せらる、

ソキョ 曾鞏(子固、南豐) 唐宋八代家の一人なり、嘉祐二年進士に第し、元豐中中舍人に遷り卒す、最も經術に深し、故に文章は雅なるも、精彩に乏し、されど尙大家たるを失はず、

ソキョモトソン 沮渠蒙遜 匈奴の裔にして、張掖によりて、北涼の國を建つ、

ソケンカイキョ 測圓海鏡 元の大學者李治の著したる數學の書なり、

ソクテンフコ 則天武后 唐の高宗の皇后武氏の尊號なり、(武后を見よ)、

ソクフケンツトコ 續文獻通考 清の稽璜等が勅を奉じて撰したる、文獻通考の續編にして、遼金元明の政體典故等を記したる政書なり、

ソクマツスイ 粟末水 今の黒龍江の支流松花江にして、宋の時粟末靺鞨其沿岸に據れり、ソクマツマツカツ 粟末靺鞨 粟末水附近

に居りし靺鞨の稱にして、其中より渤海國出づ、(靺鞨の條下參照)

ソケイ 宋璟 玄宗即位に及び、入りて相となり、開元の治を致せり、開元廿五年卒す、大尉を贈り、文貞と諡す、

ソコ 崇厚 伊犁問題の時、清國より派遣したる大使なり、一八七九年露都に於て談判の局、伊犁の一部を清に返し、占領費を露に拂ふことを約す、然るに清廷は此約を破棄し、崇厚を獄に投ず、既にして赦さる、

ソコクセン 曾國荃(沅甫) 清の名臣なり、道光中兵を起して、流賊を討ち、賊曾洪秀全を殺し、功を以て一等威毅伯に封ぜられ、兩江總督となり、光緒十六年薨す、忠襄と諡す、

ソコクハン 曾國藩(伯涵) 曾國荃の兄なり、道光中兵を起して、流賊を討じ、兩江總督となり、戦功を以て一等侯に封ぜられ、十一年薨す、諡して文正と云ふ、李鴻章、左宗棠等中興の

名士、多く其下に出づ、

ソコケン 蒼梧郡 漢の武帝が南越を平定して置きたる九郡の一今の廣東省附近なり、

ソトコヨ 桑孔羊 洛陽の買人なり、理財に長ぜしを以て、漢の武帝に用ゐられ、鹽鐵、平準、皮幣等の制を定めて、財政の困難を救ひたり、

ソコリョ 曾公亮(明仲) 宋の宰相なり、仁宗の末年、韓琦と共に相となり、諸議を決す、神宗即位に及び、魯國公に封ぜられ、司空を以て卒す、宣靖と諡す、

ソサン 曾參(子輿) 孔門十哲の一なり、親を孝養すること最も厚し、有名なる孝經は其の著なり、

曹參 漢高祖に仕へ、創業に功あり、蕭何に次て相となる、

ソシ 莊子 莊周の著にして、内篇七、外篇十五、雜篇十一、合せて三十三篇あり、(莊周の條参照)

ソシ 宋史 宋の正史にして、元の脱々の撰なり、凡て四百九十六卷あり、

ソシコ 曾子固 曾鞏を見よ、

ソシツナント 宋室南渡 宋高宗は金軍を避けんが爲めに、揚州より抗州に移る、是より後を南宋と稱す、

ソシン 蘇秦(季子) 戰國從約の長なり、初め齊の鬼谷先生に學び、燕の文公に説き、趙に及び、遂に四國をも、勸誘して、攻守同盟を結び、六國に并相たり、後從約敗るゝに及び、齊に客死す、

ソシユ 蘇子由 蘇轍を見よ、

ソシユト 蘇州 清國上海の西六十五哩、大湖の附近にあり、吳の舊都にして、姑蘇山、寒山寺の古跡あり、市街の廣きと、人民の富豪とは、南京を凌ぎ、盛に絹帛を出し、風光明媚を以て稱せらる、

ソシユイ 莊周 戰國の學者なり、嘗て蒙の漆園の吏となる、楚の威王其賢をきいて召す、周笑つて仕へず、空を説き、莊子三十三篇を著す、

ソシユン 蘇洵(明允、老泉) 宋初の文學者なり、舉に應する三回、皆當らず、終に其文章數百篇を燒き、閉口涵畜する數年、子軾、轍と京に至り、歐陽修に知られ、天下驚然として其の文を稱す、治平三年卒す、

ソシユン 曹純 三國魏の太祖の從弟なり、北伐して單于踰頓を獲、功を以て高陵亭侯に封ぜられ、建安十五年卒す、諡して威侯と云ふ、

ソシユンキン 蘇舜欽(子美) 宋初の文學者なり、事を以て官をやめられ、蘇州に居り、滄浪亭を作り、日夜讀書し、意を詩文に寓す、是に於て天下翕然として、其風を慕ふ、慶曆八年卒す、

ソシヨ 宋書 南北朝劉宋の正史にして、梁の沈約の撰なり、本紀十卷、志三十卷、傳六十卷、凡て一百卷よりなる、

ソシヨク 蘇軾(子瞻、東坡居士) 蘇老泉の長子、初め英宗に仕へしが、王安石の新法を議し、出されて湖北に行き、東坡に居る、後又入て

禮部尚書となり、終に常州に客死す、其の文章渾涵として、百代に雄視す、其の集を東坡全集と云ふ、

ソトシヨク 曹植(子建) 三國魏の文帝の同母弟なり、陳思王に封ぜらる、幼にして詩文を囑し、二代の文宗となり、六朝文學を代表す、

ソシヨクン 祖承訓 明の武將なり、神宗に仕へて遼陽の總兵となり、豐太閤征韓の役、朝鮮を救はんとして、平壤に大敗せり、

ソシセイジ 宗正寺 唐制九寺の一にして、天子の九族、六親の屬籍を掌る、長官を宗正卿と云ふ、

ソシセン 曾銑(子重) 明初の邊將なり、嘉靖八年進士に擧げられ、遼東を巡察す、後俺答入寇の時、陝西三邊の軍務總督として、伐て之を却け、河套を奪はんとの議を立てしが、讒にあひ誣殺せらる、

ソソ 曹操 三國魏の先にして、文



帝丕の父なり、漢末の亂に、兵を山東に擧げて、董卓を伐ち、獻帝を許に迎へて、天下に號令し、終に河の南北を平定し、勢天下を傾く、後魏王となり、興平中洛陽に薨す、

● **莊宗(存勗)** 五代唐第一代の帝にして、克用の子なり、父の後をつぎて、燕を滅し、梁の出帝を降して、帝位に即きしが、後岐蜀悉く其版圖に入るに及び、意滿ち氣驕り、王族李嗣源、大梁に叛するに及び、是を征して遂に叛者の手に殺さる、

**ソソケイ 宗素郷** 我足利時代の儒者にして、義晴の時、遣明副使となり、正使瑞佐と明に使せり、

**ソータク 宗澤(汝霖)** 南宋の忠臣なり、靖康中、遼の南下にあひ、副元帥として之を防ぎて功あり、

**ソテイホー 蘇定方(烈)** 唐初の武將なり、貞觀の初め突厥を攻め、次で新羅を征して功あり、

なり、熙宗即位に及び、撻懶と謀りて、軍事總督怙沒喝を黜け、權を專にし、宋と通じて叛せんとし、露はれて殺さる、

**ソーヒ 曹丕** 文帝丕を見よ、

**ソーヒツ 宗弼(初兀朮)** 金の熙宗の叔父なり、帝と謀りて蒲魯虎、撻懶の權臣を誅戮し、將として宋を伐ちしが、却つて岳飛、韓世忠に敗られ、和を媾して國に就き、富國強兵を圖り、紹聖中に卒す、

**ソソキホー 孫奇逢(啓泰)** 明の神宗萬曆

二十八年、郷試に擧げられしが、清兵迫るに及んで、昌州五公山に入り、再び出でずして卒す、經學、理學に於て最も獨見を有し、著書頗る多し、

**ソソキユー 孫休** 景帝(休)を見よ、

**ソソクワン 孫桓** 孫權の子長沙王たり、

**ソソケン ● 孫堅** 三國の吳主にして、權の父なり、紅巾の賊起るに及び、兵を湖南の地に擧げて、董卓を伐つ、後荊州を征し、劉表に射殺

乾豐二年卒す、諡して莊と云ふ、

**ソテツ 蘇轍(子由、穎濱遺老)** 軾の弟なり、仁宗、神宗、徽宗に仕へて、門下侍郎に至り、政和二年卒す、最も文章に巧にして、唐宋八大家の一人に入る、

**ソトク 總督** 明末に置かれ、二省或は三省を總理し、文武の大政を總轄す、清には江南、兩江、閩浙、湖廣、陝甘、兩廣、雲貴の七總督あり、

**ソトーバ 蘇東坡** 蘇軾を見よ、

**ソノゴシ 宋の五子** 宋代理學の大家、周敦頤、張載、程顥、程頤、朱熹の五人を云ふ、(各條下を見よ)、

**ソノナント 宋の南渡** 汴京に都したる宋が、金のために滅されし時、高宗が江南にて宋の帝統を繼ぎしを云ふ、

**ソーハク 宗伯** 周制六官の一にして、春官の長なり、専ら祭祀、禮樂の事を掌る、

**ソーバン 宗磐(初蒲魯虎)** 金の太宗の子

さる、

● **孫權(太帝)** 三國吳第一代の帝、堅の子、策の弟なり、兄の志を繼ぎて、江東を保ち、謀臣周瑜をして、魏を赤壁に敗り、終に帝を建康に稱し、國を吳と號す、神鳳元年薨す、

**ソソコー 孫皓** 三國吳最末の帝にして、權の孫なり、景帝に次で位に即きしが、暴逆にして民心離反し、終に晉に滅さる、

**ソソサク 孫策** 堅の子、權の兄にして、三國の吳主なり、父堅劉表に殺されし時、權と共に袁術により、江東を定め、術敗るゝに及んで、江東に據り、許を襲ひ、天子を奪ふて天下に號令せんとし、未だ發せずして死す、

**ソソシ 孫子** 孫武の著にして、古代の兵法書なり、

**ソソシキ 孫士毅(智治)** 清初の名臣なり、緬甸を平げ、湖南を定め、一等謀勇公に封せられ、嘉慶中白蓮教徒の亂を伐ちて、軍中に歿す、文靖

と諡す、

ソンセイエン 孫星衍(淵如) 清初の學者なり、乾隆中編修を授けらる、博學にして經史百家を究め、後進を奨励す、嘉慶二十三年卒す、

ソンセキ 孫奭(宗古) 宋の眞宗に仕へて侍講學士となり、禁中に講ずる殆二十年、致仕後幾もなくして卒す、

ソンタイコト 孫太后 明の宣宗の皇后なり、土木の變あるや、代宗を立て、于謙の議を用ゐ、力を盡して、也先の入寇を防ぎしかば、英宗遂に歸るを得たり、

ソンヒョー 解丕揚(叔孝) 明代の良相なり、宦者の貶謫を論じて除名せられ、萬曆中再び吏部尙書に擢でられ、卒する後恭介と諡す、

ソンプ 孫武 齊の人、兵法を以て、吳王闔廬に仕へて將軍となり、四強楚を破り、北齊魯を威し、吳王をして諸侯に霸たらしむ、孫子十三編は其の著なり、

ソンプク 孫復(明復) 宋代の學者なり、泰山に閉居し、春秋尊王發微十二篇を著す、仁宗の時召されて、秘書省校郎、國子監直講たり、世復の學派を稱して泰山學派と云ふ、

ソンリョー 孫亮 三國吳第二代の帝にして、權の子なり、聰察にして政を親からず、大將軍孫綝之を懼れ、廢して會稽王となす、

ソユー 楚勇 長髮賊叛亂の時、江忠源が擧げたる義軍の名なり、

ソユー 湘勇 長髮賊叛亂の時、湘南の人曾國藩が、明の戚繼光の遺法によりて起したる義勇兵にして、其の民を以て其郷を防がしめたり、

ソリガモン 總理衙門 清の宣宗の置きし所にして、軍機大臣或は六部の尙書の中より選んで、其大臣とし、各國交渉の事務を理す、

ソレイ 蔥嶺 パミル高原の東境にある山脈にして、天山山脈の基をなす、是より以東、玉門關に至るまでは、古の所謂西域の地なり、

ソレッツ 蘇烈 蘇定方を見よ、

ソレン 宋濂(景濂) 明代の文臣なり、太祖の顧問たること十四年、一言一動、皆禮儀を以て諷し、勸めて道に歸せしむ、殊に博學強記にして、老に至るまで書卷をばなたす、明の元史を編するや、總裁となり、勉勵事に當る、洪武十四年卒す、

ツロアスター 祇教 Zoroaster 拜火教を見よ、

ソロク 疏勒 漢代西域三十六國の一にして、北道に當る、今の喀什噶爾の地なり、

ソローセン 蘇老泉 蘇洵を見よ、

た

タイ 隊 唐初の兵制にして、五十人一團の名なり、之に隊正一人を置く、

タイ 代 鮮卑の拓跋部の猗盧が、盛樂、代、上

谷を統ふるに至り、稱せし國號にして、西紀三五〇年頃、什翼健死するに及び、國亂れ、秦苻堅の爲めに滅ぼさる、

タイイ 大尉 秦の三公の一にして、全國の兵權を統べたり、

タイイツェン 大湮譚 哀王湮譚を見よ、

タイインクン 大院君 朝鮮李氏朝に於ける爵ともいふべきものにして、君は支那の王と稱するが如し、德興大院君、全溪大院君、興宣大院君等あり、中に有名なるは、今上の父なる大院君にして、其名は是應なり、

タイインクンノラン 大院君の亂 明治十五年官兵亂を作し、閔氏を襲ふ、大院君機に乗じて起り、益之を煽動す、兵卒宮を犯し、轉じて日本公使館を襲ふ、我公使花房義實身を以て免れ、兵艦を率ゐて來り、其罪を問ふ、終に償金を出すを約して、事治まる、之を大院君の亂と云ふ、

タイエキチ 大液池 清國皇城の西苑にあ

りて、周圍四里餘、嚴冬八旗の兵をして、氷上に射御をなさしむ、

**タイエツ 大越** 西紀一四二八年、清華の人黎利が安南に建てたる國號にして、西紀一五二七年、莫登庸に篡はれしが、後六年再興せられ、已にして阮氏廣南國を起すに及び、國二分し、王は虚位を擁して、鄭氏其實權を握る、後西山黨起りて、鄭氏を滅ぼし、王清に奔り、國亡ぶ、時に西紀一七九〇年なり、

**タイエン 大宛** 今の露領フェルガナの地にして、漢代の西域三十六國の一なり、武帝の時張騫此地に至る、善馬を産す、

**タイエンコーテイ 大燕皇帝** 唐の玄宗の時、安祿山叛旗を翻して、洛陽を陥れ、終に此尊號を稱せり、

**タイオー 大王** 周の武王が天下を一統して、王となりし時、曾祖父亶父を追尊せし號なり、**タイオーコー 代王恆** 劉氏、漢高祖の子なり、

り、代に封せらる、(文帝を見よ)

**タイオーニュー 代王侑** 恭帝(侑)を見よ、**タイオルダカン 大幹兒朶汗** 欽察汗國の亡びたる後、アーメッドの子孫がドン、ウラル兩河の間に建てたるものにして、西紀一五〇二年、哥里米汗メングリ・ギライの爲めに滅ぼさる、

**タイカ 大夏** 西紀四〇七年、後秦の將なりし匈奴種の赫連勃勃が、朔方に據りて稱せし國號にして、五胡十六國の一なり、後三代定に至り、後魏の爲めに滅ぼさる、時に西紀四三一年なり、

**大夏** 西紀一〇三八年、宋の夏州の王たりし李元昊が、回紇及び近隣諸地を取りて自立し、興慶に國を建て、大夏又は西夏といふ、

**大夏** パクトリアを見よ、**タイカイ 體解** 周末戰國の時、行はれたる酷刑にして體を解くなり、現今も未開の國には此刑あり、

**タイガク 大學** 支那周代より歴代京師に置

きて、人材を養成せし、最高の學校なり、

**タイガクシ 大學士** 宋の時の學官にして、制誥、詔令、撰述の事を掌りしが、明に至り、機務に參與し、大政を議するに至る、

**タイカヨ 大迦葉** マハー・カシアパを見よ、

**タイカン 臺諫** 諫議大夫の事なり、

**タイキンモ 大欽茂** 文王欽茂を見よ、

**タイキョクジョ 大蘇城** 今の清國盛京省錦州府義州の西北にあり、晋の時燕の慕容廆の都せし地なり、

**タイキョクツセツ 大極圖說** 北宋の周敦頤が著はしたる書にして、天理の根原、萬物の終始を論究せしものなり、

**タイキョクムキョクセツ 大極無極說** もと道家の説に出て、五代の時、道士陳搏が大極圖を得て、种放に授けしを、其弟子種脩が周敦頤に授け、敦頤之を唱道せしものにして、朱熹其注解を

爲り、千聖不傳の稱の秘を得たりとなす、大極圖説は此説を發表せしものなり、

**タイク 大虞** 西紀二四〇二年、安南の黎季犛が陳氏に代て王となり、稱したる國號なり、

**タイクワテン 大和殿** 清廷の宮殿にして、皇城の中央にあり、毎年度時に天子出て、群臣の賀を受くる所なり、

**タイゲツシ 大月氏** 圖伯特種族にして、もと月氏と稱し、河西の地に居りしが、漢初匈奴に追はれて西遷し、阿母河西に據りて、大夏を服し、南下して、印度西北部を取り、中亞に大國を建て、後漢の初、迦膩色迦王出て、佛教を興せしが、後に嚙唎に亡ぼさる、

**タイゲツシコク 大月氏國** 大月氏の國にして、西紀前後、印度の西北部及び中央亞細亞を含めり、

**タイゲン 太原** 今の清國山西省太原府にして、長城に近く、塞外より入るの要路なるを以て、

歴朝樞要の地たり、唐に河東節度使の鎮所となり、五代の北漢は茲に都する等、有名なる地にして、今山西の省城所在地なり、

タイゲンカカン 大元可汗 韃靼の達延汗が近隣の諸部、及び河套、寧夏を平けて稱したる尊號なり、

ダイゲンシヤク 大玄錫 景王玄錫を見よ、

タイコ 太沽 タークーを見よ、

タイコー 太皞(太昊、庖犧氏) 支那古代の君主にして、八卦を畫し、書契を作り、嫁娶の禮を定めたりといふ、

太昊 太皞を見よ、

太康 夏第三代の王にして、禹の孫なり、獵に耽りて政を視ず、遂に羿に逐はれて國亂れたり、

太甲 商第四代の王にして、湯の孫なり、初め暴虐にして、政を修めざりしが、宰相の爲めに桐宮に放たる、後悔悟して位に復し、徳を四方に布けり、

太庚 商第四代の元后なり、兄太甲について即位す、

太公(和) 戦國田齊初代の主にして、西紀前三八六年、呂氏の衰ふるに及び、代つて諸侯に封ぜらる、

タイコー 大江 金沙江の下流にして、清國の四川、貴州の間を流れ、湖北に入り、楊子江となる、

タイコク 大國 周の初、封建の制を布きし時、公侯を封せし國にして、方百里あり、

タイコザン 大孤山 清國盛京省大牟河口にありて、省中營口に次ぐの良港なり、日清戦争の時、及び日露戦争に際し、日本軍の上陸地なり、

タイコーボー 太公望(呂尙) 商の末、紂の暴を厭ひ、海濱に避け、優遊せしが、周西伯昌の善く老を養ふと聞き、出て之に歸し、發立つに及び、其大師となりて、商を亡ぼし、周業を輔く、後齊王に封ぜられたり、

タイサイ 太宰 商の六太の一なり、建邦の治を掌る官なりといふ、

タイサン 泰山 清國山東省泰安縣の北にあり、春秋には之を魯、齊の境とす、秦始皇、漢武帝茲に幸し石を建つ、

タイサンクワン 大散關 散關を見よ、

タイシ 戴氏 漢の時禮を傳へたる家なり、戴氏禮是なり、

タイシ 太師 周官三公の第一位にして、輔佐の官なり、其後、漢、後魏、北周、隋、唐此官を置く、

タイシ 大姒 周武王の母にして、賢明、能く文王を輔けて、其子を誨へ、武王をして大業をなさしめたり、

タイシキツ 太子適 西晋惠帝の長子にして、賈后跋扈するに及び、廢殺せらる、

タイシキフ 太子義符 廢帝義符を見よ、

タイシシンセイ 太子申生 春秋晋獻公の

子なり、驪姫の寵せらるゝに及び、廢殺せらる、

タイシタン 太子丹 戦國燕の王喜の子なり、荆軻をして秦王政を刺さしめしが、却て其征伐を受け、下の爲めに斬らる、時に西紀前二二二年なり、

タイシチョー 太子邵 南朝宋文帝の子なり、學を好み、又巫を信ず、帝に廢せられんとし、遂に弑虐をなし、尋で孝武帝の爲めに殺さる、時に西紀四五三年なり、

タイシバ 大司馬 武事を司る最上官にして、漢武帝以後、東漢、魏、晋、宋、梁、後魏等皆此官あり、時に將軍の字を加ふ、

タイシヒャクネン 太子百年 北齊孝昭帝の子なり、叔父湛(孝成帝)の爲めに廢せらる、時に西紀五六四年なり、

タイシン 戴震(東原、慎修) 清朝聲韻の學者にして、惠棟に學びて、經義に通じ、旁ら訓詁に精しく、四庫全書館編修たり、著述頗る多し、乾

隆中卒す、

タイシン 大秦 支那東漢の時、羅馬を呼びたる稱にして、東漢桓帝の時、其王安敦使を遣はし、是より東西の交通開けたりといふ、

タイシン 大人 唐の時に契丹八部に分れ、各々其部を治むるものを大人と稱したり、其上に八人を統ふる大人ありき、

タイシンクワイテン 大清會典 清朝の制度を記したる書にして、康熙年中、七年の日子を費して著したるもの、百卷あり、

タイシンジ 大秦寺 もと波斯寺と稱し、景教の寺なり、唐玄宗の時改名したり、

タイシンシュ 大仁秀 宣王仁秀を見よ、  
タイシニ 大周 元の衰ふるに及び、秦州の張士誠が、高郵に據りて號せし國にして、西紀一三六七年に至り、明と戦ふて敗れ、士誠擒せられて國亡ぶ、

タイシニユー 太子勇 揚勇を見よ、

タイシニクタイ 太叔帶 周惠王の子、襄王の時亂をなし、齊桓公の師の爲めに敗れて殺さる、

ダイシヨ 大乘 佛教の一大學派にして、第三結集の後分れ、舊説を破りて、高尙なる道理を説く、馬鳴等之を主張し、北印度より全部に及び、東して支那に入れり、

タイシヨクン 大將軍 軍旅を率ゐて戰に臨める長官にして、漢高帝以前より此官あり、高帝韓信を任じて、諸王を亡ぼせしが、武帝の時に至り、更めて之を置く、其後歷代此稱あり、

タイシヨクンゲンコイテイ 大上玄元皇帝 唐の高宗が亳州に幸して、老子の廟に謁し、上りたる尊號なり、

タイシヨクシ 大常寺 宗廟、禮儀に關する事務を處理する官にして、九寺の一なり、

タイセイ 戴聖 漢武帝の時、儀禮を傳へたる學者なり、之を小戴氏禮といふ、  
タイセイコイテイ 大齊皇帝 西紀八八年、

弊を矯む、在位十七年にして崩す、

タイシ 太祖(阿保機、億) 遼初代の帝にして、耶律氏、初め契丹の一部酋なりしが、性勇武にして、西紀九〇七年其大人に推され、遂に全部を統領し、九年にして契丹帝と稱し、室韋、女眞、渤海等を征服し、新羅、大食、回紇等に朝貢せしむ、九二六年崩す、

唐の黃巢が長安を陥れて稱したる號なり、  
タイシ 太祖(全忠) 五代梁初代の帝にして、朱氏、唐僖宗の時、黃巢の亂に與せしが、已にして唐に歸し、其節度使となりて、宦官の禍を除き、功を以て梁王に進み、昭宗を弑して、幼主哀帝を立て、其禪を受けて位に即き、在位六年にして、其子友珪に弑せらる、時に西紀九一二年なり、

太祖(威) 五代周初代の帝にして、郭氏、漢高祖に仕へて其將たり、後崩するに臨み、隱帝を託せらる、已にして隱帝威の功を忌みて除かんとし、却て弑せらるるに及び、擁せられて位に即き、在位三年にして崩す、

太祖(匡胤) 宋初代の帝にして、趙氏、初め周世宗の將として功あり、契丹、北漢と共に入寇せし時、恭帝の幼なるを以て、其部下に推され、帝位に即き、後蜀、南漢等の諸國を降して、四方を定め、文臣を以て地方を治めしめて、藩鎮の

太祖(阿骨打) 金初代の帝にして、完顏氏、唐の女眞節度使、烏古迺の孫なり、初め遼に屬せしが、天祚帝國を亂すに及び、兵を擧げて之に叛し、西紀一一一五年帝と稱し、屢、遼軍を破りて、其地を取り、進んで宋をして幣を納れしむ、在位九年にして崩す、

太祖(鐵木眞) 元初代の帝にして、奇握温氏、蒙古の部長なる也速該の子なり、其幼時、塔々兒等の隣部に窘しめられしが、長じて故讎を破り、其部長となりて、成吉思汗と號し、克烈、蔑里吉、乃滿等を併せ、遂に大汗の位に即き、金

を南に追ひ、後西征の師を起して、西遼、花刺子模及び東歐諸國を平定して、空前絶後の大版圖を有するに至る、西紀一二二七年金を攻め、軍中に卒す、

● 太祖(元璋) 明初代の帝にして、朱氏、元の末、群雄相争ひし時、郭子興に従つて功あり、已にして獨立し、金陵に據りて、陳友諒、張子誠、方國珍を滅ぼし、西紀一三六八年即位し、元を北方に追て、天下を一統し、在位三十一年にして崩す、

● 太祖(努爾哈赤) 清初代の帝にして、愛親覺羅氏、西紀一五八三年兵を赫圖阿拉に起し、同族を定め、呼倫、長白山、科爾沁諸部を降し、一六一六年汗位に即き、國を後金と號し、進で明軍を薩爾滸山に破り、遼東を略し、瀋陽に都し、在位十一年にして崩す、

● 太祖(建、神聖王) 高麗初代の王にして、王氏、新羅國亂れて、群雄各地に起るに及び、弓

裔に従つて功を樹て、已にして裔を降し、遂に國內を一統し、西紀九三六年位に即き、大に治を圖りしが、六一年薨せり、

● 太祖(成桂) 朝鮮初代の王にして、李氏、初め高麗の巡察使たりしが、王辛禑の明と兵を構ふるや、王を廢して實權を握り、已にして諸將の推す所となり、遂に西紀一三九二年、恭讓王を廢して位に即き、明の封冊を受く、

● 太宗(世民) 唐第二代の帝にして、高祖の次子、隋末天下亂るゝや、高祖に勸めて兵を擧げしめ、四方を征服して一統の業を成さしむ、西紀六二七年、禪を受けて即位し、賢を用ひて驕を警め、所謂貞觀の治をなし、其威中央亞細亞に及びたり、

● 太宗(光義、昊) 宋第二代の帝にして、趙氏、太祖の弟なり、太祖を輔けて宋の創業に功あり、晋王に封ぜられ、太子となり、西紀九七六年即位し、一統の業を完成し、内治に留意し、太平

を致せり、

● 太宗(德光) 遼第二代の帝にして、太祖の次子、即位の初め幼なるを以て、述律太后、耶律休哥の輔佐を受け、晋を援けて、燕雲十六州を得たり、長ずるに及び、晋禮を失ふを以て、親ら大擧して之を滅ぼし、大梁に奠都し、遼國と更めしが、幾もなく北還し、西紀九四六年崩す、

● 太宗(吳乞買) 金第二代の帝にして、太祖の弟太祖の業を輔け、其即位の後、國事を決し、内顧なからしむ、西紀一二二三年即位し、遼を滅ぼし、宋の約に違ふを以て南征し、徽欽二帝を執へ、高宗を南京に走らし、江河以北悉く其有に歸す、

● 太宗(窩淵台) 元第二代の帝にして、太祖の三子なり、太祖の業を輔けて、金及び西域に功あり、西紀一二二九年位に即き、屢、金を攻めて、遂に之を滅ぼし、高麗を降し、南下して宋を滅ぼさんと欲し、中途にして崩す、

● 太宗(皇太極) 清第二代の帝にして、太祖の子、西紀一六二六年即位し、蒙古の察哈爾を

征して之を滅ぼし、傳國璽を得て帝位に即き、國を清と改め、朝鮮を攻めて之を降し、明軍を破りて遼東を取り、北京に逼り、在位八年にして崩す、

● 太宗(日照) 安南の陳氏朝初代の王にして、李氏、九代の女王昭皇の夫なり、昭皇の時國亂れしかば、西紀一二二五年、李氏に代つて位に即き、國政を革めしが、蒙古の將兀良哈台來り攻むるに及び、戰敗れて位を避け、遂に蒙古に降る、

● 代宗(俶、改豫) 唐第八代の帝にして、肅宗の長子、初め廣平王に封ぜられ、郭子儀と共に回紇の援兵を以て、安祿山を破り、長安、洛陽等を復し、大に功あり、西紀七六三年即位し、史朝義を討ちて、全く亂を平ぐ、幾もなく藩鎮擾ぎしが、又之を鎮定せり、

● 大祚榮 (高王祚榮を見よ)、  
● 大藏經 佛教の經典なり、

宋太祖が印行を命じ、盛に出板せしめしかば、佛教大に振ひたり、

**タイタン 大檀** 柔然の可汗なる社崙の従子なり、西紀四一〇年立ち、北燕と通じて、後魏に寇し、太武帝の兵に敗られて、燕然山に至り、其部衆の後魏に降るを以て、憂憤して死す、

**タイチウ 秦赤烏** 室韋族の一部にして、西紀十二世紀の頃、貝加爾湖の東沿岸に住む、蒙古部長也速該の塔々兒に殺されし後、其衆來寄し、一時優勢なりしが、鐵木眞起るに及び、敗れて其部下に屬せり、

**タイテイ 太帝(權)** 孫權を見よ、  
**タイテイテイ 泰定帝(也孫鐵木兒)** 元第十代の帝にして、成宗の従子、西紀一三三三年、鐵失に擁せられて即位す、泰定とは其年號なり、  
**タイテイフ 大定府** 今の内蒙古喀喇沁右翼にあり、遼、金の中京たり、  
**タイテン 大顛** 周の西伯昌に仕へて、周の

て、樞要の地に設置す、後漢以後唐に至り皆此官あり、

**タイドーフ 大同府** 清國山西省の一府にして、古へ遼、金の西京たり、韃靼の俺答屢に入寇し、明軍こゝに防戦せり、

**タイナンコク 大南國** 西紀十一世紀の頃、儂智高が安德州に據つて、宋に反し建てたる國なり、後四年にして亡ぼさる、

**タイハク 太伯** 周武王の曾祖父亶父の長子、父の意を悟り、荆に奔りて文身斷髮し、弟季歴に譲る、周天子となるに及び、其後を吳に封ず、  
**タイフ 太傅** 周の三公の第二位にある天子の輔佐なり、漢、晋、五代、隋、唐亦此官あり、常置のものにあらず、

**タイフガク 大武樂** 周武王の樂にして、當時最も美を盡せしものなり、

**タイフゲイ 大武藝** (武王武藝を見よ)、  
**タイフジ 太府寺** 九寺の一にして、財貨に

創業を輔け、大戎を征せり、  
**タイテン 大篆** 周の宣王の時、史籀の作りたる文字なり、

**タイトー 大撓** 支那大古、黄帝の時、命ぜられて甲子を作りたりと傳ふ、

**タイドー 大同** 梁の武帝治世十一年間の年號にして、北朝魏が東西に分れたる時なり、

**タイトク 戴德** 漢武帝の時の學者にして、儀禮を傳へたり、大戟氏禮は其説なり、

**タイトコ 大都護** 唐が諸蕃を撫し、外寇を征討する爲めに置きたる大都護府の長官なり、

**タイドロー 大同江 Ta-tong-kong.** 支那の所謂淇水にして、朝鮮の白頭山脈に發源し、平安道を貫通して、平安、黄海兩道の境をなし、朝鮮灣に入る、西紀一八六六年、米國の商船之を遡りて、韓人に砲撃せらる、日清戦争の時、我軍清兵を此河岸に撃破せり、  
**タイトトク 大都督** 兵事を統ぶる官にし

關することを掌る、卿を其長官とす、唐に此官あり、

**タイフテイ 太武帝(壽)** 後魏第三代の帝にして、元明帝の子、西紀四二四年即位し、北燕、北凉を滅ぼし、夏、吐谷渾等を破りて、江北を一統し、更に西域諸國を招撫し、宋軍を破り、高句麗より波斯に至るまで、悉く來貢せしむ、宗愛に弑せらる、

**タイヘイコーシユ 太平公主** 唐高宗の女にして、武后の出なり、性好嬖、薛紹、武承嗣、武攸暨に嫁し、武后の篡に與し、章后と軋り、睿宗と共に其反を誅し、功を待みて專横を極め、玄宗即位の時、廢立を謀りて誅せらる、

**タイヘイテンコク 太平天國** 西紀一八五〇年、清の長髮賊の魁洪秀全が稱したる國號なり、  
**タイヘキ 大辟** 支那上古五刑の一にして、死刑なり、  
**タイホ 大保** 周の三公の第三位にある天子

の輔佐役なり、漢、晋、五代、隋、唐にも置きたれとも、常に則闕の官なり、

**タイホ 太戊** 商第六代の王にして、太康の子、聰明にして、伊陟、巫咸等の賢臣を相とし、國內治り、諸侯來附せり、

**タイホー 泰封** 西紀九〇〇年頃、新羅の内亂に乗じて、弓裔が鐵原に建てたる國號なり、後二十餘年にして滅ぶ、

**タイホー 帶方** 今の韓國黃海、京畿二道の地にして、後漢に此郡をおく、

**タイボクケイ 大穆敬** 渤海の王なり、

**タイボクジ 太僕寺** 九寺の一にして、既牧、車輿の事を掌る、其長官は卿なり、漢以後唐に至り此官あり、

**タイミンリツ 大明律** 明の太祖の編したる刑法なり、

**タイヤンハン 太陽罕 Taiyang-khan.**

乃滿の部長にして、西紀十三世紀の初、鐵木真と

抗愛山附近に戦ふて敗死す、

**タイリ 大理** 今の清國雲南省以南にありし國にして、西紀九世紀の中頃、唐の雲南王(南詔)魯龍が自立せし時、改めたる國號にして、後、段智興の時、蒙古の忽必烈の爲めに敗れて降る、

**タイリジ 大理寺** 九寺の一にして、折獄、詳刑の事を掌る、其長官は卿なり、北齊、隋、唐此官あり、

**タイリョー 大梁(汴)** 今の清國河南省開封府にして、黃河の南岸にあり、支那の中央にあるを以て、古へより文明の中心となり、後梁、後晋、後漢、後周の都せし地なり、宋、金の時には北京に對して南京と稱せらる、

● **大遼** 遼を見よ、

**タイリョーカ 大凌河** 源を清國直隸省明安山に發し、遼東灣に入る、其左岸錦州府あり、西紀一六三六年、清太宗は明軍を此河邊に破りて、錦州を占領したり、

**タイレイノギ 大禮の議** 明世宗が即位の初、其生父獻王を追崇せんと欲して、群臣をして議せしめ、異論百出して決せざりしが、終に張璉等の説により、皇考の稱を以てすることゝなれり、

**タイレンワン 大連灣 Tai-lien-wan.** 清國遼東半島の東岸にある大灣にして、灣内數多の小灣に分る、ガルニーも其一なり、

**タイワン 臺灣 Formosa.** 日本極南の大島にして、清國福建省と相對す、西紀一六二二年、和蘭之を略有せしが、幾もなく明の遣臣鄭成功に逐はれ、其後清に屬す、一八九五年遂に日本に割讓せり、

**タエキ 多釋(トド)** (豫親王を見よ)、

**タクシツ Takish.** 花刺子模の主にして、イル・アルスランの子、西遼と和し、西紀一一九四年、セルジウク朝を滅ぼし、ナシル・ウツゲンを擁して、威を西方亞細亞に震ひたり、

**タククー 太沽 Tai-ko** 清國直隸省の東

南、白河の口にある要港にして、北京の咽喉たり、西紀一八六〇年、英佛同盟軍此地を攻めて、砲臺を抜き、一九〇〇年北清事變の際、日本軍亦之を陥る、

**タクソー 度宗(禔)** 宋第十五代の帝にして、理宗の從子、西紀一二六五年即位し、弊政を改革せしも、蒙古連りに逼り、賈似道事を用ふるに及び、政綱弛む、

**タクハツケイ 拒跋珪** (道武帝を見よ)、  
**タクハツシキョー 拓跋思恭** 黨項の人に於て、初め拓跋部の長たりしが、唐の咸通中、黃巢を討つて功あり、李姓を賜ひ、夏州に治し、公に封せらる、

**タクハツシユークケン 拓跋什翼健** 代王猗盧の從孫にして、西紀三三四年立ち、祖業を修めて國勢を恢復し、東纘貂より西破落那に至る版圖を得、雲中に都せり、

**タクハツシヨククン 拓跋寔君** 代王什翼



健の庶長子にして、諸弟及び父を弑せしが、西紀三七六年秦の符堅雲中に入るに及び、捕へられて殺さる、

**タクハツフ 拓跋部(索頭)** 鮮卑族の一部にして、世々北荒に居り、西紀三世紀の末、詰汾可汗、代、常山に據りて代と稱せしが、後、珪に至り、支那の江北を一統し、魏を建てたり、

**タクロ 澤潞** 唐の藩鎮の名にして、今の清國山西省澤州府、潞州府を管す、武宗の時叛し、幾もなく平定せらる、

**タクロク 涿鹿** 今の清國直隸省宣化府保安州の南にあり、太古黄帝が蚩尤を此地に破りて、都を奠めたりといふ、

**タージ 大食** Tazi. 西紀第六世紀の末、今の中、西亞細亞に跨る大版圖を有せしサラケン國の事にして、ムハメッドの建國なり、

**タシケンド 達失干** Tashkent. 中央亞細亞の中央、アラル海の南東シル河の東岸にあり、

敖罕國の一市なりしが、西紀一八六五年、露軍之れを陥れて、露領土耳其斯坦の首府となしたり、

**タスマニア Tasmania.** 濠州の南百哩の海上にある一島にして、英國に屬し、面積二萬六千餘方哩あり、西紀一六四二年、和蘭人タスマンによりて發見せられたるより此名あり、

**タスマン Tasmann.** 和蘭の航海家にして、西紀一六四二年、和蘭の印度總督ファン・ゲーメンの命を受けて、濠州探檢に従ひ、タスマニア、トンガ、ニウ・シールランド等の諸島を發見したり、

**タタル 塔々兒** Tartars. 蒙古と同族にして、興安嶺西に住せし部落なり、西紀十三世紀の初め、蒙古の部長也速該を殺して勢盛なりしが、終に鐵木眞に降る、今の中央亞細亞、蒙古等其後裔多く存す、

**タタルハハン 韃靼可汗** 西紀一四〇〇年頃、蒙古の臣鬼力赤が、其主坤帖木兒を弑して稱したる號なり、

**タッキ 妲妃** 有蘇氏の女にして、上古商(殷)の末葉、紂王(帝辛)の後宮に入り、其寵を肆にし、遂に周の爲めに滅亡するに至る、

**タットー 達頭** 西突厥の可汗にして、木杆可汗の從弟なり、突厥の木杆の命を以て、分れて西方諸國を統べ、千泉に牙を建て、東羅馬と連和し、波斯を攻めて、益、版圖を擴め、阿波可汗を援けて、東突厥を破り、遂に相敵視するに至る、

**タツラツ 撻懶** 金太宗の從弟なり、熙宗の立つや、粘沒喝の勢盛なるを忌みて、蒲魯虎と謀りて、其黨を黜け、代りて政權を握り、宋相秦檜と和を議し、自己の勢力を増進せんと欲せしが、帝其專横を惡みて之を誅す、

**ダバチ 達瓦齊** Davatzi. 準噶爾の噶爾丹策零の孫なり、其族阿睦爾撒納の援によりて、汗位に即きしが、西紀一七五五年、清軍と戦ひ、敗れて執へらる、

**タバリ Tabari.** アラビアの歴史家にして、

コーランの註釋、西紀三一四年より前の年代記等は其著書中有名なるものなり、九二二年歿す、

**ターフハ 太不花(台哈布哈)** 元の順帝の時、脱々に代りて將となりしが、驕縱にして朝命を奉ぜず、故を以て元の軍勢振はず、遂に内亂を熾定すること能はざるに至る、

**タブリーズ Tabriz.** 波斯北西の一市にして、商業上重要な地たり、西紀十三世紀の末、伊蘭汗旭烈兀茲に都せり、

**ダフリン Dufferin.** 英吉利人にして、西紀一八八四年リボンに代りて、印度大總督となり、翌年最後の緬甸戦争を開き、マンガレーに迫る、緬甸王遂に降り、地は英國の版圖に歸す、一八八八年國に歸る、

**ダマスク 的迷失吉** Damascus. 亞細亞土耳其にある一市にして、イエルサレムの東方に位す、西紀七世紀の中半、ムアヒア一世オミア朝を創め都とす、第十三世紀の末、旭烈兀此地を

略し、埃及に入らんとせり、

タンオト 赧王(延) 周最後の王にして、愼  
親王の子なり、諸侯と従を約し、秦を討じて勝た  
ず、遂に其封邑を秦に獻じて、國滅ぶ、

ダンギョクサイ 段玉裁(若膺) 清朝の儒

者にして、戴震の弟子なり、乾隆中出で、貴州  
に知縣たり、後致仕し、専ら古義を究め、著書頗  
る多く、説文解字最も行はる、

タング 唐古 蒙古の太宗の將にして、西紀  
一二四一年高麗を攻めて之を降す、

タンゲート 黨項 Tangut. 西藏種の一  
部にして、唐初吐谷渾の南方に住せしが、唐太宗  
に降る、唐末に漸く勢を得たり、宋の西夏國と稱  
せし拓跋氏は實に此一小部なり、

ダンクン 檀君 朝鮮最古の王なり、史に稱  
す、初めて檀木の下に降りて、國人を撫育し、推  
されて君となると、

タンソウ 端宗(昀) 宋第十七代の帝にして、

度宗の子、西紀一二七六年、弟恭宗の蒙古に降る  
や、群臣に擁せられて、福州に即位し、翌年蒙古  
と戦ふて、廣州に走り、尋で崩す、

ダンチコー 段智興 大理國の王なり、西紀  
一二五三年、蒙古の忽必烈に攻められ、敗れて擒  
せらる、

タンホア Thang-hoa. 清華を見よ、

タメルラン Tamerlane. チムル・レンクの  
轉訛なり(チムルを見よ)、

ダヤンカン 達延汗 Dayan. 蒙古の脱

古思帖木兒の裔孫にして、西紀一四七〇年汗位に  
即き、漠南、漠北を徇へ、河套、寧夏を略して、威を  
塞外に振ひたり、一五四三年卒す、

ダライスン 達賚遜 韃靼の博迪阿拉克の  
子なり、西紀十六世紀中、宣府に徙りて漠南に治  
す、察哈爾の始祖なり、

ダライラマ 達賴刺麻 Dalai Lama.  
黄教喇嘛の教祖宗喀巴の高弟にして、西紀一四一

九年、師の後を承けて、其教徒を統へ、拉薩に教

廷を置く、以後の教主は皆達賴刺麻と稱す、

タラス 恒遜斯(答刺斯没鞬、碎葉、垂)

Talas Muren. チャー(Tehu)を見よ、

ダリオス Darius 一世 ヘルシア王にして、  
國內の内亂を戡定し、印度トラキア、マケドニア  
等を服し、西紀前四九〇年までに、二回大軍を率  
ゐて、ギリシアを攻め、成功に至らずして崩す、

タルコン 多爾袞 睿親王を見よ、

ダルフージー Dalhousie. 英吉利人にして、  
西紀一八四八年、印度大總督となり、莫臥兒朝を  
滅ぼし、緬甸を併せ、印度の開化に務めたり、

ダルベク 答里已 Dalbek. 蒙古の本雅  
失里の子にして、瓦刺の馬哈木に立てられ、威を  
漠北に振ひしが、西紀一四三六年、明太祖の兵と  
戦ひ大敗す、

ダルマ 達摩 Bodhidharma ホーザダ  
ルマを見よ、

ち

ダルマテソカ 達摩阿育王 Dharmasoka

Asoka アソカを見よ、

ダルマカーラ 曇柯迦羅(漢譯法時) Dharmakala. 中印度の人にして、西紀二五〇年支

那に來り、洛陽に於て經を譯し又律宗を弘めたり、

ダルマバラ 答刺麻八剌 元世祖の孫、至

元の末懷州に鎮し、幾もなく薨す、其子海山、愛育  
黎拔力八達共に帝位に即く、

チアオモト 昭莫多 Chomodo 清國外

蒙古土拉河の南にあり、清の聖祖が、準噶爾親征

の時、その部長噶爾丹の大軍を茲に撃破せり、

チアガタイ 察合台(茶合帶) Tchaghai-

stan. 元の太祖の第二子なり、父の遠征に従ひ、西  
域を鎮定して後、西遼の故地を賜はり、察合台汗  
國を立て、阿力麻里に都し、西爾河外、天山附近

を領し、以て子孫に傳ふ、

チアガタイハンコク 察合台汗國 蒙古四大汗國の一なり、後帖木兒に滅さる、(チアガタイを見よ)、

チアサクトフ 札薩克圖部 清國外蒙古四大部の一にして、古の所謂喀爾喀部の地にして、達延汗の裔なる札薩克圖汗の領せし地なるを以て、此の名あり、清の聖祖の時降る、

チアズ 陽瑪諾 Diaz. 葡萄牙の航海者にして明の時來りて天文略を著す、一五〇〇年卒す、

チアニベク 札尼別 Djanibeg. 欽察汗にして月即別の子なり父の遺業を紹ぎ、匈牙利、波蘭土を侵し、又伊兒汗國を征して、大に武威を輝かせしが、西紀一三五七年死す、

チアバル 察八兒 Chabar. 元の太宗の玄孫にして、海都の子なり、海都自立して、大汗と稱し、蒙古に反對せしが、察八兒其不可なるを知

り、武宗の時、先づ入朝し、其罪を免されて、汝寧王に封ぜらる、

チアハル 插漢兒部 今の清國蒙古の察哈爾部なり、韃靼のト赤が此に據りて、明の邊境を窺へり、

チアムハ 札木哈 札答刺の部長にして、蒙古勃興の初め、成吉思汗を援けて諸部を征せしが、後其の威勢を妬み、局兒汗と稱し、成吉思汗を伐たんとし、却て大敗す、

チアンドラケフタ 旃陀掘多 Chandragupta. 印度摩揭陀國に建てたる毛利耶朝の始祖にして、亞歷山大王の侵入により、印度の争擾せるに乗じて、王朝を建て、悉く中北西の三印度を併す、其孫は有名なるアソカ王なり、

チアンバ 占城(占婆) Champa. 今の交趾支那の地にして、初め大越に服せしが、宋と同盟して、大越に叛し、伐つて之を破り、後元の世祖の時來貢せり、

チアロンホルン Chulalonghorn. 暹羅王モンカットの子にして、今王なり、歐洲の文化を移植し、内治を改良して、主權の鞏固を謀り、日本とも修好條約を結べり、

チエベ 哲別 Tehebe. 蒙古の太祖に仕へたる勇將なり、太祖の西征に先驅し、連りに敵軍を破り、速不台と共に花刺子摸王を追ひ、裏海の濱に至り、更に歐洲諸國の聯合軍を阿里吉河畔に破りしが、歸途に卒せり、

チエラルウツヂン 札蘭丁 (Djelal-uddin) ホラズム王ムハメッドの長子なり、一二二〇年、父王蒙古の成吉思汗に攻殺さるゝに及び、哥疾寧に退きしが、蒙古軍に追撃せられて、テール王國に逃る、

チガイ 智顛 隋代の名僧なり、惠思に就て佛を學び、五台山に入りて、天台宗を開く、王侯の尊重甚だ厚し、開皇十七年荊州に寂す、

チクホーラン 竺法蘭 Dharmarakha

チウ 垂(答刺斯沒釐) Tehu (Talas Muren) 中央亞細亞の大河にして、源をイシク

クル(湖)に發し、下流は砂漠の中に没入す、古へはシル河の支流なりき、

チウアンホア 順化 (Thuan-hoa) ユエを見よ、

チウチ 朮赤 Djutchi. 元の太祖の長子なり、太祖に従ひて、西域を征し、康里、欽察の地に封ぜらる、後太祖に従ひ、師を率ひて金を征し、屢々殊功ありしが、早世して、帝位を履まず、

チウチハツサル 糊只哈撒兒 元の太祖の弟なり、兄の勢盛んなるを見て、叛を謀り成らず、科爾沁部に封ぜられ、其の子孫に傳ふ、

チウプレース Duplex. 佛國人、一七四二年、佛領印度總督に任ぜられ、莫臥兒帝國を滅して、印度を兼併せんとし、英人と相拒ぎしが、本國の朝議一定せずして、呼び返され、不幸の末年を送りて、本國に死す、

中天竺の名僧なり、漢の明帝の時、蔡愔に伴はれて、漢に入り、洛陽の白馬寺に住して、譯經に従事す、蓋し支那に天竺學者有るの始めなり、其後年六十餘にして、洛陽に寂す、

**チクリス河** Tigris. アシヤ・トルコのシヤテル・アラッ河の支流にして、源をアルメニア高原に發し、バストラ附近にて、エウフラトと合し、波斯灣に注ぐ、河邊は世界最古文明の發生地にして、古跡多し、

**チクリン・シチケン** 竹林七賢 魏の王弼、何晏、阮籍、嵇康、晋の山濤、王戎、王衍を云ふ、三國の時夷狄跋扈し、政權移動の急遽なる間に處して、清談を事とし、竹林に入りて、空理を談ぜり、

**チクワン** 地官 周制六官の一にして、長官を大司徒と云ひ、農商の事務、及び教育、警察の事を掌る、

**チケン** 知縣 明の地方官にして、清にも有り、毎縣一人を置き、一縣の事務を掌る、

に卒す、

**チノン** 吉囊 蒙古最高の爵にして、副王の義なり、

**チフ** 知府 明の地方官にして、毎府一人を置き、一府の行政、司法の事務を掌る、即ち風化を宣べ、獄訟を平にし、賦税を均くし、以て百姓を教養するを任となす、清も亦これあり、

**チフー** 芝罘 Chih-fu. 清國山東半島の北岸、威海衛の西にある開港場なり、嘗て佛軍の占領する處となりてより、後兵備を嚴にし、現今三方に砲臺あり、

**チベット** 西藏(吐蕃、拓跋、土伯特) Tibet (Tibod, Bot) ホムラヤ、崑崙兩山系の間にある世界無比の高原地にして、唐の太宗の時、初めて中國に通ず、清は之を前藏、後藏に分ち、駐藏大臣をして治めしむ、首府を拉薩とし、喇嘛教の本山あり、

**チベットシユ** 圖伯特種 西藏よりカシミ

**チゲン** 智嚴 南北朝の禪僧なり、初め罽賓に到り、歸りて宋の武帝に従ひ、枳園寺に居り、清素寡慾、専ら禪道を修め、後又罽賓に入り、疾なくして化す、普曜、廣溥、嚴淨等の譯經あり、

**チコーシ** 地皇氏 支那古代の君にして、天皇氏に繼で、天下を治め、火徳を以て王たり、子孫繼ぎ、一萬八千歳に及ぶと稱せらる、

**チコナイ** 廸古乃(海陵王亮) 金第四代の帝にして、太祖阿骨打の孫なり、熙宗酒色を縱にするに及び、之を弑して位に即き、國都を燕京に遷し、宗族二百餘人を殺して、其婦女を入れ、淫虐度なし、後宋を征して、陣中に弑せらる、

**チシュー** 知州 明の地方官にして、清亦之を置く、毎州一人ありて、一州の事務を掌る、

**チツンルンツァン** 棄宗弄讚 唐の太宗と同時代に出でたる吐蕃の君なり、佛教を信じ、制度を定め、兵を出して、阿撤母、泥婆羅を降し、貞觀十二年唐に降りて、公主を娶り、永徽の初め

ル、ネパール、バルマ一帯の地に蔓延せる人種にして、殷、周時代の氏、羌、秦漢の際の月氏、唐時の吐蕃、宋時代の西夏は皆之に屬す、

**チムール** 帖木兒 Timur. 哈刺沙兒五世の孫にして、渴石の酋長より身を起し、察合台汗エリアスを追ひ、都を撒麻耳干に奠め、諸方を征服して、欽察汗の地を收め、明を征して、世界統一を成さんとし、中途シル河畔に病を得て卒す、

**チムールチョー** 帖木兒朝 帖木兒の建てたる蒙古國を云ふ、撒麻耳干に都し、中央亞細亞の地を領せしが、帖木兒の死後、子孫位を争ひ、第十四世紀の中頃、四分五裂し、アフサイドに至り、烏即別部に侵されて、印度に逃れ、帖木兒朝亡ぶ、

**チン** 陳 春秋の列國にして、虞舜の裔、胡公滿の封ぜられし國なり、宛丘に都し、河南の地を領せしが、二十五代にして、滑公に至り、終に楚に亡さる、時に西紀前四七九年なり、

●陳 南朝最末の國にして、西紀五五六年、陳霸先が梁の敬帝の禪を受けて、武帝と稱したるに始まり、建業に都せしが、四傳して後主叔寶に至り、民心を失ひ、隋兵に滅さる、陳帝を稱する凡て三十二年なり、

●陳 西紀一二三五年、太宗陳暉が黎氏の安南を滅して建てたる安南の王朝にして、十三代、百七十五年にして、少帝陳煇の時、權臣黎季犛に篡奪せらる、

チンアン 陳寔(少帝) 陳氏安南最後の王にして、順宗の子なり、西紀一三九九年、權臣黎季犛に擁立せられしが、終に季犛に弑せらる、

チンエン 鎮遠 清國貴州省の府名及び縣名にあり、又府城の面に鎮遠驛あり、日清戦争の際、私の奪ひたる軍艦鎮遠號は此地名に取る、

チンイケイ 沈惟敬 明の神宗に仕へたる遊客なり、萬曆中墓に應じ、使して日本軍に至り、行長を翻弄し、神宗を欺き、再度の交戦を見るに至る、後誅せらる、

至る、後誅せらる、  
チンオー ●陳暉(明帝) 陳氏安南第五代の王にして、陳焜の子なり、西紀一三二四年即位し、其在位十六年間は國內よく治まる、

●陳旺(憲宗) 陳氏安南第六代の王にして、陳暉の子なり、西紀一三二九年即位す、

チンキ ●陳豸 宛朐の人、漢の高祖に仕へて、列侯に封せられしが、漢の十一年、終に叛を謀りて誅せらる、

チンキ 陳照 太宗を見よ、

チンキコー 陳季擴 陳氏安南の庶族にして、陳日焜の姪なり、明の成祖安南を服して、交趾布政司を置きし時、之れに服せずして叛し、却て明の擒となる、

チンギスハン 成吉思汗 Tchinghis-Khan. 太祖(鐵木真)を見よ、

チンギチュウ 陳宜中 宋末の忠臣なり、帝昀の時、宋室の恢復に力めしも、帝昀に捕はる、

に及び、南して端宗を福州に立て、以て左相に任じ、兵を占城に募らんとし、占城に入りて終に歸らず、

チンキン ●眞金 Chingkim. 元の世祖忽必烈の子、夙に世祖の皇太子となりしが、未だ位を踐まずして早世す、

●陳昞(仁宗) 陳氏安南第三代の王にして、陳暉の子なり、

チンギョー 陳順(順宗、日焜) 陳氏安南第十一代の王にして、陳順の子なり、西紀一三八九年即位せしが、武臣黎季犛權勢を專にし、終に其奪を企て、其の弑する所となる、

チンギョクセイ 陳玉成 清の流賊洪秀全の部將なり、一時其勢非常に盛なりしが、壽州を攻めし時、敵の謀に陥り、遂に縛に就き、尋で殺さる、

チンギョーサ 陳堯佐(希元) 北宋の儒臣、仁宗に仕ふ、卒して文惠と諡す、著書多し、

チンクワツ 沈括(存中) 宋代の良吏なり、神宗に仕へて治蹟多し、光祿少卿を以て卒す、

チンケイ 陳暉(睿宗) 陳氏安南第九代の王にして、明宗の子なり、西紀一七七三年、兄陳暉の後を嗣ぐ、在位五年、

チンケン 陳睨(廢帝) 陳氏安南第十代の王にして、陳暉の子なり、西紀一三七七年、位に即きしが、暗愚にして爲すなく、廢せられて靈德王に降され、尋で縊殺さる、

チンケンシヨウ 陳獻章(公甫、石齋) 明の大儒なり、陽春臺に築き、晝夜講讀止まず、終に王陽明等と、並稱せられ、來學の徒甚多し、弘治中卒す、其學を親會派と稱す、

チンケンタツ 陳顯達 南朝齊の叛將なり、初め太祖の時、軍に従ひ大功あり、後東昏侯暗愚にして、多く功臣を殺すに及び、兵を尋陽に擧げて、建康を襲ひ、勝たずして死す、

チンコー ●陳晃(聖宗) 陳氏安南第二代

の王にして、西紀一二五八年即位し、元に破られて遂に降る、

● 陳暉(裕宗、日燧) 陳氏安南第七代の王にして、明宗の子なり、年六歳にして、兄憲宗の後を嗣ぎ、明に通じて、封冊を受く、

チンコーハク 陳康伯(長郷) 宋の名臣なり、直節を以て秦檜に忤ひ、家居するもの十餘年、高宗に仕へて、尙書僕射に拜せられ、帝寵甚だ厚し、卒して信國公を贈る、

チンシコト 陳子昂(伯玉) 唐代の文章家なり、富豪の家に生る、睿宗の時、進士に擧げられ、屢、慷慨の議を奉りしが、後家に歸り獄に死す、その文章は六朝徐庾の弊風を脱す、

● 陳日照 陳暉を見よ、

チンシツケイ 陳日焜 陳暉を見よ、  
チンシツコン 陳日焜 陳暉を見よ、  
チンシツセン 陳日焜 陳暉を見よ、  
チンシツソン 陳日焜 陳暉を見よ、

チンシツチュウ 陳執中(昭譽) 宋の眞宗、仁宗に歴仕し、司徒を以て致仕し、卒して榮靈と諡す、

チンシユウ 沈周(啓南、石田先生) 明代の畫人なり、峯巒、雲烟、花卉、鳥獸皆其妙を極めたり、正徳四年卒す、

チンシユン 陳峻 交趾王陳吟の將なり、元の世祖その將脱歡をして、交趾を討たしむるや、陳峻之を拒守して、元軍を却くると二回、王元に朝するに及んで、降を乞へり、

チンシヨ 陳書 唐の姚思廉の撰にして、南朝陳の正史なり、全部三十六卷より成る、

チンシヨウ 陳勝 嘗て人の爲に耕せしが、二世皇帝の秦室を亂るに及び、兵を斬に擧げ、公子扶蘇と稱し、天下の役徒を集合し、自立して楚王となりしが、後其の臣下に殺さる、

チンシリョト 陳子龍(臥子) 明末の武將なり、思宗に仕へ、京師陷るに及んで、福王に南

京に仕へ、時弊を言議せしもきかれず、後太湖の兵に結び、事を擧げんとして露はれ、水に投じて死す、

チンセン 陳焜(英宗) 陳氏安南第四代の王にして、仁宗の子なり、西紀一二九三年、位に即き、二十一年にして位を去る、

チンチュウ 陳壽(承祚) 晋代の文士、晋に仕へて、著作郎となり、吳、魏、蜀三國の歴史六十篇を編す、有名なる三國史これなり、

チンテンヘイ 陳天平 安南王陳喬の裔なり、黎氏の安南を篡奪するに及び、難を避けて、老嫗に往き、更に明に送らる、明成祖は之を安南に入れんとせしが、遂に黎氏の殺す所となる、

チントト 陳湯(子公) 西漢の元帝に仕へて郎となり、甘延壽と共に西域の都護となり、制を矯めて、郵支單于を斬る、元始元年卒す、

● 陳登(元龍) 三國魏の太祖に仕へ、伏波

將軍を加へられ、軍功を以て東城の太守に遷り、恩徳を布き、治蹟大に擧る、

● 陳東(少陽) 宋代の名臣なり、欽宗即位に及び、蔡京以下六人を彈劾し、高宗の時、李綱を用ひ、黃潛善、汪伯彦を罷めんことを請ひ、終に市に斬らる、

チンバン 陳蕃(仲舉) 東漢の名士なり、清節を以て鳴る、靈帝の時、竇武と謀り、宦者を除かんとし、却つて其の殺す所となる、

チンバセン 陳霸先 武帝霸先を見よ、

チンヘイ 陳平 漢初創業の功臣なり、初め項羽に従ひしが、後漢に降り、王を佐けて、天下を定め、官丞相に至り、文帝二年卒す、獻侯と諡す、

チンヤク 沈約(休文) 南朝梁の文臣なり、武帝に仕へて、光祿大夫となり、天監中官に卒す、有名なる宋書一百卷は其の撰ぶ所なり、又四聲の別を論じ、音韻の學を振む、

チンユウリョウ 陳友諒 元末の叛將なり、

初め縣の小吏たりしが、後徐壽輝に従ひ、尋て之を殺して、其衆を領し、湖南湖北江西の地を占有し、更に江東を併さんとして、鄱陽湖畔に於て、朱元璋に破られて死す、

チンヨ 陳餘 漢初の武將なり、趙王歇に仕へて、其の傅となりしが、後漢に攻められ、張耳、韓信等のために、泚水の上に斬らる、

チンリユーオト 枕流王 百濟第十四代の王にして、近仇須王の子なり、晋の大元九年即位し二年にして歿す、

チユーオー 紂王 商最末の君にして、帝乙の子なり、勇猛にして智辯あり、暴虐にして政を顧みず、天下大に亂れ、人心離反す、周の武王に滅さる、

チユーオーアジア 中央亞細亞 ヒンヅク シ山脈の北、葱嶺の西、シル河の南に在る露領土爾其斯坦を云ひ、古の大月氏、及び花刺子摸の故地なり、

チウトゲン 中原 今の清國直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅一帯の總稱にして、概ね黄河の流域なり、漢族歴代興亡の中心にして、兼て東洋文明の根本地なれば、支那歴代の國都皆この内を出でず、

チユーコー 仲康 夏第四代の君にして、啓の子なり、太康盤遊して歸らざるに及び、有窮の后、羿に擁立せらる、

チウトゴク 中國 支那人が自己を中心とし、四夷に對したる誇稱なり、初めは中原の地、これに當りしが、其勢力範圍の擴張と共に、終に支那十八省を含むに至る、

チウトザン 中山 今の直隸省定州にして、五胡十六國の一なる後燕の都せし地なり、

チウトザンホ 仲山甫 周の宣王を輔けて、中興の業をなしたる人なり、

チウトシヨシヤジン 中書舍人 中書省の被官なり、

チユーシヨシヨト 中書省 侍從、獻替及び別勅、冊令の事を掌る所にして、中書の號は、漢の時これあり、唐に至りては三省の一なり、長官を中書令と云ふ、

チユーシヨシロト 中書侍郎 中書省の次官なり、

チユーシヨレイ 中書令 中書省の長官にして、侍從、獻替、及制勅、冊令の事を掌り、二人を置く、

チユーセイドト 忠清道 朝鮮八道の一にして、又湖南と稱し、現今南、北兩道に分つ、南道の治所は公州にして、北道の治所は忠州とす、古は百濟の地なり、

チユーソー 中宗(哲) 唐第四代の帝にして、高宗の子なり、初め武后に擁立せられ、在位僅にニヶ月にして、房州に放たれ、後張柬之等の勸めによりて復位せしが、章皇后專權にして、安樂公主と謀りて、其毒弑する所となる、

中宗(誠孝王) 李氏朝鮮第十二代の王にして、燕山君の暴政の後を受け、銳意恢復を圖り、民治や、舉れり、

チユーゾーダイジン 駐藏大臣 西藏を管轄する支那の大臣にして、拉撒に駐す、西紀一七二四年、清の世宗の始めて置く所なり、されど今其の實權は喇嘛法主に在りて、駐藏大臣は之を監視するのみ、

チウトテイ 冲帝(炳) 東漢第八代の帝にして、順帝の子なり、西紀一四四年、父帝の後に即位せしが、在位僅に一年にして殂す、

チユーヨ 中庸 孔子の孫、子思の著にして、孔子の道を祖述し、誠は人間行爲の基本たる旨を説けり、後世四書の一として、儒家の經典となる、

チユーレッツオト 忠烈王(昉) 高麗第二十五代の王にして、元宗順孝王の子なり、元の忽必烈と婚を通じ、元軍に従つて、我を侵したることあり、

リ、  
**チヨ** 趙 戦國七雄の一國にして、晋の大夫趙籍の建國なり、邯鄲に都し、直隸の地を領せしが、十一代、百八十二年にして秦に亡さる。

**チヨ** アン 長安 今の清國陝西省西安府にして、黄河の支流、渭水の南、關中平野に位し、東に華山あり、函谷關を控へ、最も要害の地なり、周の武王は西都とし、鎬京と稱す、西漢、隋、唐も亦茲に都す、

**チヨ** アン セイ 張安世(子孺) 西漢の良相なり、武帝に仕へて、光祿大夫となる、霍光と謀りて昭帝を立つ、宣帝即位するに及び、擢んでられて衛將軍となる、

**チヨ** エキ 張掖 漢の武帝が河西の地に置きたる四郡の一にして、今の甘肅省甘州府に當る、五胡十六國の一なる北涼の都せし地なり、

● **張繹(思叔)** 宋の學者なり、卑賤の家に生れ、長ずるまで學をしらざりしが、後伊川先生に

就き、大に奮勵して、以て一代の大家となれり、  
**チヨ** エキシ 張易之 張行成の子にして、張昌宗の兄なり、唐の武后に倖せられて、權を弄せしが、張柬之に殺さる、

**チヨ** オーニョイ 趙王如意 漢の高祖の子にして、戚夫人の出なり、高祖戚夫人を愛し、如意を立てんとせしも果さず、呂后之を悪んで如意を鸞殺す、

**チヨ** オーリン 趙王倫 西晉宣帝の第九子なり、賈后專權にして、楊太后を弑するに及び、倫、齊王冏と謀り、后を廢殺し、自ら相國、都督中外諸軍事となり、惠帝を廢して、位を僭したりしが、幾もなく成都王穎に殺さる、

**チヨ** カク 張角 漢末黃巾の賊魁なり、黃老神仙の説を主張して、愚民を集合し、亂を山東に起す、旬月にして天下響應し、大に勢を得しが、幾もなく、軍中に死す、

**チヨ** カンシ 張柬之(孟將) 唐初の名臣な

り、武后の時、狄仁傑に薦められて、丞相となり、武后に逼りて、中宗を復位せしめ、銳意治を圖りしが、後旨に忤ひて憤死す、文貞と諡す、

**チヨ** キ 重貴 出帝(重貴)を見よ、

**チヨ** ギ 張儀 戦國魏の人、初鬼谷先生に從て縱横の學を學び、秦惠文王に仕へ、連衡の説を以て六國を降せしが、後事を以て秦を去り、魏の相となりて卒す、

**チヨ** キヒ 張貴妃(麗華) 南朝陳の後主叔寶の妃にして、兵家の女なり、後主と共に日夜酒色に耽りしが、隋軍來り侵すに及び、捕へられて青溪中に斬らる、

**チヨ** キュトレイ 張九齡(子壽) 唐初の名相なり、玄宗に仕へて中書右丞相となり、安祿山の反相あるを見て、殺さんと請ひしも許されず、玄宗の千秋節に、千秋金鑑錄五卷を奉りて、古今の興亡を論じたることあり、後貶せられて荊州に死す、

**チヨ** キョーイン 趙匡胤 太祖匡胤を見よ、

**チヨ** ギョサン 釣魚山 今の清國四川省重慶府合州に在り、西紀一二五九年、蒙古の憲宗が宋と交戦中病歿せし地なり、

**チヨ** キョセイ 張居世(叔大) 明穆宗に仕へて相となり、天下の急務六條を陳して信任を得、一時紀綱を張りしが、後漸く愛憎を以て事を處するに至る、後病を以て卒し、文忠と諡す、

**チヨ** クレイ 直隸 Chih-li. 支那十八省の一にして、本部の東北隅白河の流域なり、燕、趙の故地にして、北京、天津等の大都あり、  
**チヨ** クロク 勅勒(鐵勒) 古の丁零、北魏の高車の地なり、(鐵勒の條參照)

**チヨ** ケン 張騫 漢武帝に仕へて郎となり、月氏と攻守同盟の使命を帯びて西に往き、途に匈奴に囚はるゝもの十餘年、後亡げて月氏に至りしも、目的を遂げずして歸る、後復身毒、安息等に使用して交通を開く、校尉博望侯を以て死す、

**チヨ** ケンチュウ 張獻忠 明末の流賊なり



殺宗の時、兵を四川にあげ、成都に據りて、李自、成に應じ、大西國王と稱せしが、後清軍と鳳凰城に戦ひ、流矢に中りて捕殺せらる。

チヨコー ● 趙高 秦の始皇帝に仕へたる宦官なり、初め獄を掌りしが、始皇死するに及び、二世を擁立して、中丞相となる、後群雄各地に起るに及び、終に帝を弑し、三世帝を立てしが、宦者韓談に殺さる。

● 張郃 三國魏の武將なり、曹操に仕へて左將軍に進み、諸葛亮を祁山に防ぎ、後又亮と木門に戦ひ、流矢に中りて歿す。

● 姚興 後秦二代の主にして、葭の子なり、即位の初、河南を略し、西秦を征服し、後涼を滅し、南涼、北涼、西涼皆朝貢せり。

● 趙興 南越王陀の孫なり、年少なるを以て、太后政に預り漢に頼らんとせしが、宰相呂嘉に殺さる。

チヨコ 長江 楊子江上流の稱にして、重

慶より南京までの間を云ふ。

チヨコーガクハ 姚江學派 明の大儒王陽明の始めて稱へし學派なり、道は我が心に求むべく、事物に求む可らずとて、専ら良知を致すことを主張せり。

チヨコーハン 張弘範 元の世祖に仕へたる良將なり、宋を攻めて、五坡嶺に文天祥を執へ、匡山に陸秀夫を破り、全く宋を亡す、卒して獻武と諡せらる。

チヨサイ 張載(子厚、横渠) 宋代性理學の大家なり、神宗に仕へて王安石の新法に反對し、侯を以て致仕し、南山の下に屏居して、専ら理學を修め、一代の大儒となる、著書多し。

チヨサイ 冢宰 周官六卿の一にして、天官の長なり、天下の行政を總へ、内外の出納と、宮中の事務とを掌る。

チヨサオーガイ 長沙王父 西晋武帝の第六子にして、八王の亂に與りし一人なり、齊王閔

權を專にするに及び、兵を擧げて閔を殺し、代りて權を握りしが、幾もなく成都王穎の軍に破られ、東海越王に殺さる。

チヨシ 長子 今の清國山西省潞安府長子縣にして、五胡十六國の一なる西燕の都せし所なり。

チヨシ ● 張耳 漢初の武將なり、初め項羽に従つて、關中に侵入し、功を以て常山王に封ぜられ、信都に治す、漢の元年、陳餘に攻められ、漢王に降り、韓信と共に趙軍を井徑口に破り、功により趙王に封ぜらる。

● 重耳 文公重耳を見よ。

チヨシセイ 張子誠 元末の流賊なり、秦州にて運鹽を業とせしが、鹽丁を叫合して、紅巾の賊に應じ、江蘇に擧兵して、國を大周と號し、浙江一帶の地を侵略せしが、明の太祖に破られ、金陵に死す。

チヨシソン 張士遜(順之) 宋の名臣なり、淳化中進士に擧げられ、仁宗の時相となる、太傅

に拜し、鄧國公に封ぜらる、卒して文懿と諡す。

チヨイツオー 超日王 Vikramāditya. 印度のウヂアナ國の王にして、唐の太宗頃に當る、大月氏及び西、北、中印度を并せ武威の盛なりしが上に、學者、詩人多く集り、印度文の學黄金時代と稱せらる。

チヨシンカン 邵晋涵 清朝の學者にして、文字の古訓に委しく、爾雅正義の著あり。

チヨシユー 潮州 清國廣東省の東北岸に位する開港場にして、北京條約によりて開かれ、貿易頗る盛んなり、唐の文豪、韓退之の配流せられしも此地なり。

チヨシユオー 長壽王(臣璉) 高句麗第二十代の王にして、廣開土王の子、平壤に都し國內を治め、百濟の都城を陥れて、蓋鹵王を殺せり。

チヨシユケイ 張守珪 唐の玄宗に仕へて、瓜州刺史となり、武勳を立て、入つて右羽林大將軍を以て歿す。

チヨシユコク 趙充國 漢初の名將なり、武帝に仕へて、匈奴を征し、軍功を以て中郎となる、後昭帝、宣帝に歴仕し、外征の功最も多し、卒して文懿と諡す、

チヨシユン 張浚 南宋初の忠臣なり、高宗、孝宗に歴仕し、入ては機務に參し、出ては軍事を總べしが、後衡山の下に客死す、忠獻と諡す、

チヨシユン 張巡 唐の忠臣なり、安祿山の叛亂せし時、睢陽城を固守して、賊軍の重圍を受け、終に死守して擒となり、屈せずして殺さる、

チヨシヨ 長城 清國山東省山海關より、直隸、山西、陝西、蒙古の邊境をこえて、甘肅省嘉峪關に終る、延長八百餘里、高さ二丈五尺、厚一丈五尺、六十間毎に堡塞の設けあり、上代より北邊諸國が邊寇を防ぐために築きたるものにして、秦始皇帝の時増築し、以來修繕を加へて、今日に至り、東洋の一大奇觀をなす、

チヨシヨク 張栻(敬夫、南軒) 南宋理學

の大家なり、孝宗に仕へ、諛にあひてやめ、江陵に卒す、有名の著多し、

チヨシヨク 趙如愚(子直) 南宋の賢相なり、孝宗、光宗に歴仕し、寧宗を擁立して相となり、大儒朱熹を任用し、銳意民治に當りしが、韓侂胄に竄せられて、永州に卒す、

チヨスイリヨ 褚遂良 唐の名臣なり、遺詔を奉じて高宗を輔け、直諫を以て天下に鳴る、高宗王后を廢し、武氏を后に立てんとせし時、遂良之を極諫して旨に忤ひ、貶せられて卒す、

チヨセイケツ 張世傑 宋末の忠臣なり、皇子焘立ち、元軍益々南下するに及び、文天祥等と勤王の師を興し、恢復を計りしも、勢非にして、厓山に大敗し、安南に走らんとして溺死す、

チヨセキ 張籍 (文昌) 唐代の文豪なり、官は司業に至る、其詩警策の句多く、韓退之最も之を重んじたり、

チヨセキシ 張釋之(李) 漢代の名臣なり、

文帝、景帝に歴仕して、廷尉に遷り、大議を議して公平なるを以て、名聲噴々たり、後淮南王の相となりて卒す、

チヨセツ 張說(道濟) 唐代の名相、玄宗に仕へ開府儀同三司を以て卒す、

チヨセン 朝鮮 今の大韓帝國にして、アジア大陸の東端、日本海に臨める半島國なり、始祖を檀君と云ひ、其後箕子初めて國を朝鮮と稱す、これより衛氏、三國、高麗の世を経て、李氏に至り、又朝鮮と稱す、明治廿九年、我國誘掖の下に獨立帝國となり、大韓帝國と稱す、

チヨセンケン 朝鮮縣 漢の武帝が衛氏の朝鮮を亡して、今の平安道平壤府なる王險に改め置きたる縣にして、樂浪郡の治所たり、

チヨセンシケン 朝鮮四郡 西紀前一〇八年、漢の武帝が衛氏の朝鮮を滅して置きたる樂浪、臨屯、玄菟、眞番を云ふ、

チヨソ 鼂錯 漢の文帝に仕へて、太子家

令となり、景帝の時、頗に諸侯の削るべきを奏し、終に吳楚七國の亂を醸したり、後袁盎の議により、終に東市に腰斬せらる、

チヨソ 張蒼 漢初の名臣なり、秦の御史たりしが、曆律に精通せるを以て、漢に用ゐられ、孝文帝の時、丞相となり、職に在る十五年にして、病を以て卒す、

姚崇(元崇) 唐の玄宗に仕へたる賢相にして、權倖を抑へ、節儉を主とし、貢獻を斥け、勵精治を圖り、開元の隆治をなせり、

張璠(兼用) 明の武宗に仕へて、頗る寵眷を受く、世宗即位し、大禮の紛議ありし時、獻帝を皇考とせんと主張し、帝の意に叶ふ、

チヨソムキ 長孫無忌(輔機) 唐初の名相なり、太宗に従ひて功あり、齊國公に封せらる、高宗武氏を立て、后とせんとせし時、極諫して旨に忤ひ、武氏に讒せられて、黔川に竄死す、

チヨダ 趙陀 秦の南海、龍川の令たりし

が、二世皇帝の時、秦の長吏を誅し、桂林、象二郡を合せ、自立して南海王と稱し、漢の文帝の時卒す、  
 チヨ一チヨ一 姚萇 姚弋仲の子にして、後趙に仕へしが、後趙の分崩するに及び、其部衆を率ゐて、關中に獨立し、國を後秦と號す、

チヨ一チヨ一クワ 張重華(秦) 晋に仕へて、持節大都督、涼州牧となりしが、冉閔趙室を奪ふて、魏帝と稱するに及び、遂に河西によりて、前涼王と稱す、

チヨ一テイキョク 張廷玉(衡臣) 清初の文臣なり、康熙、雍正、乾隆三朝に仕へ、三朝實錄、國史、明史の編纂に總裁たり、卒して文和と諡し、大廟に配享す、

チヨ一テンシヤク 張天錫 前涼王にして、重華の弟なり、酒色に荒みて、國大に亂れ、前秦の苻堅に攻め滅さる、

チヨナンオーリヨ一 汝南王亮 晋の武帝の叔父なり、武帝の遺詔を受けて、惠帝を輔佐し、

賈后と謀りて、楊駿を殺し、國政を統べしが、幾もなく賈后に悪まれて、其殺す所となる、

チヨ一ナンセイ 趙南星(夢白) 明末東林の士なり、熹宗の時吏部尙書となり、勢ありしが、政治の改革に民望を失ひ、宦者魏忠賢の爲に貶竄する所となる、

チヨ一ハクエイ 張伯英 漢代の人、始めて草書を作る、

チヨ一ハクサン 長白山 韓國の北境、清國の境上に連亘せる山脈にして、長白山部の據りし所なり、

チヨ一ハクサンブ 長白山部 韓國の北境、長白山邊に居りし建州女眞の一部にして、更に納殷、鴨綠の二部に分れしが、共に滿洲の愛親覺羅部に併せらる、

チヨ一ハツツク 長髮賊 清の文宗の時、廣東の洪秀全の起したる流賊にして、胡服、辮髪を廢して、漢服となしたるより此名あり、亂起つて

より十五年、侵略したる省十六、六百餘城なりと云ふ、

チヨ一ハン 張範(公儀) 三國魏の名將なり、曹操の參軍となり、敬貴甚だ厚し、文帝も亦子弟の禮をとれり、

チヨ一ヒ 張飛(翼德) 三國蜀の勇將なり、劉備江南を定むるに及び、宣都の太守となす、車騎將軍に進む、最も勇壯威猛にして、威な萬人の敵となす、後吳を伐ちし時、其帳下の將張達範に殺さる、

チヨ一フ 趙普(則平) 宋初の名相なり、宋の太祖を輔けて制度を定め、文教を布き、功を以て許國公に封ぜられ、太師を以て卒す、

チヨ一ヘイブン 趙秉文(周臣) 金代の學者なり、進士に第し、直諫して黜られしが、章宗の時復用あられて、禮部尙書となり、開興中卒す、

チヨ一ホ 張輔(文弼) 明の武將なり、成祖の時、八十萬の師に將として、安南を征服し、功を以て、光祿大夫、左柱國に擢んでられ、正統中

死す、

チヨ一ヨ一 邵雍(堯夫、康節) 宋代理學の大家なり、尙書右丞を以て致仕し、神宗の時卒す、著書中最も有名なるものを皇極經世書とす、

チヨ一ヨク 趙翼 清代の文臣なり、乾隆中進士に第し、撰文に任じ、通鑑輯覽の編纂に參り、後安定書院を主る、詩をよくして、著書亦多し、  
 チヨ一ヨクチュ一 姚弋仲 後秦の姚萇の父なり、もと後趙に仕へ、西羌の大都督たり、

チヨ一リヨ一 張良(子房) 漢初の謀士、秦王を狙撃して中らず、汜上に遊びて、兵書をうけ、沛公に屬す、是より帷幄の中に策して、終に沛公をして天下を一統せしむ、漢の六年留侯に封じ、後六年にして薨す、文成侯と諡す、

チヨ一リヨ一ヒツ 趙良弼(輔之) 元の世祖に仕へて、祕書監となり、日本に使用するもの二回、何れも太宰府に留められて、使命を全ふする能はず、卒して韓國公に封ぜられ、文正と諡す、

チラウ 赤老温 元の四猛將の一人なり、  
チンギスハンの西征に殊功を立つ、

つ

ツア 都哇(篤哇) Dus. 元の太祖の玄  
孫八刺の子なり、父について察合台汗位に即き、  
窩闊台汗海都と共に、元の世祖に叛して勝たず、  
西紀一三〇六年死す、

ツエツェンハン 車臣汗 外蒙古喀爾喀四部  
の一にして、達延汗の季子、格埒森札の子孫の稱  
する所なり、清の聖祖康熙廿七年、來降して一外  
藩となり、現今は本旗、外旗二十を設けて管轄す、

ツェリン 策凌 Chering. 土謝圖汗の  
族にして、清世宗の時、屢、軍功を立て、封ぜら  
れて賽音諾顏部の始祖となれり、

策零 準噶爾汗にして、屢清に侵入した  
り、

屢、波蘭土、匈牙利を劫略せり、

● 蔑里部の長なり、蒙古の鐵木眞に降りしが、  
乃蠻曲出律と恢復を計り、イルチン河畔に敗れ、  
流矢に中て死す、

● 元相伯顔の義子なり、順帝の時父の専恣を  
忌み、貶して之に代る、

ツクタフハ 脱々不花 韃靼の脱古思帖木  
兒の曾孫にして、脱歡に擁立せられて、韃靼の可  
汗となりしが、後明と通するを疑はれて、脱歡の  
子也先に殺さる、

ツタマンギー 脱々蒙哥 Tuda Mangui  
拔都の孫にして、忙哥帖木兒の弟なり、兄の後を  
うけて、欽察汗となり、威を振へり、

ツバン 杜蠻(杜並足、猪蠻) Toeban  
ツァパ島の一州の名なり、

ツンガル 準噶爾 Jungar. 清國天山北  
路の地なり、瓦剌部長也先の遺裔が、伊犁地方によ  
りて立てし部落にして、清の聖祖の時、其の部長に

ツオンカバ 宗喀巴 Tsong Khaha. 西  
紀一四一七年、西寧に生れ、喇嘛の腐敗に激して、  
黄教喇嘛を起す、

ツガンキシホンマツ 通鑑紀事本末 宋  
の袁樞の撰にして、司馬光の資治通鑑に現れたる  
史實を、凡て一題の下に事の本末によりて編録し  
たるものなり、これを紀事本末體の始めとす、

ツガンシューラン 通鑑輯覽 清の乾隆帝  
の勅撰にかゝる精密なる支那史にして、太古より  
明末までの事實を一貫す、此の書には乾隆帝の祖  
父なる康熙帝が、古き事實に批評を加へたれば、  
又御批通鑑輯覽とも云ふ、

ツクシチムル 脱古思帖木兒 元の昭宗の  
子なり、昭宗の後に大汗となり、元の恢復を計りし  
が、明將馮勝、藍玉等に破られ、僅に身を以て、逃れ  
和林に奔らんとし、途上長子也速迭兒に殺さる、

ツクタ 脱脱 Tula. 蒙古帖木兒の  
子なり、欽察汗となり、阿羅思の諸侯を率ひて、

嘴爾丹あり、青海圖伯特を服し、天山南路を併せ、  
一時非常に盛なりしが、高宗の時清に征服せらる、

ツングースツク 通古斯族 Tungus

比利亞種に屬し、朝鮮の北部より、滿洲を経て、黒  
龍江附近の地に蔓延せる人種にして、東胡、鮮卑、  
靺鞨、契丹、女眞等、皆之に屬し、現今の清朝も  
亦この族より出で、支那を一統せり、

ツौर 土刺河(獨樂、土帆刺) Tula.

外蒙古にあり、明の成祖が大に瓦剌の大軍を撃破  
せし所なり、

ツルイ 拖雷 Turui. 元の太祖の子にし

て、太祖に従て、西域を定め、蒙古の本土をうけ  
つぎ、其の子孫世々元の帝系をつげり、

ツルファン 吐魯番 Turfan. 清國新疆

省哈密の西にして、古の車師の地なり、畏吾兒族  
茲に居り、明の景宗の頃、阿力其部長となり、瓦  
剌を誘ふて、連年河西の地を攻略せしが、清の康  
熙中に至り、準噶爾の嘴爾丹に滅さる、

て

テイ ● 鄭 春秋の列國の一にして、周の宣王の弟桓公友の封ぜられたる國なり、新鄭に都し、河南の地を領せしが、十三代にして、韓に滅さる。

● 鄧 今の清國湖北省荊州府にあり、戦國七雄の一なる楚國の都せし所なり。

テイ 氏 圖伯特種にして、青海の東南、岷山附近より巴蜀の間に散在せり、西漢の時、趙充國に征服せられしが、王莽の時、叛し、東漢の時復征服せられ、移つて塞内に居り、晋室の大亂に乗じ、成、前秦、後涼等此族によりて建國せらる。

テイイ ● 帝緯 北齊第五代の帝にして、武成帝の子なり、昏愚にして嬖倖事を以る、國政大に亂れ、北周の武帝に滅さる。

● 程願(正叔、伊川) 甄の弟にして、北宋

理學の大家なり、胡瑗、濂溪に學び、英宗の經筵に侍す、時に蘇軾とあはず、其學徒と共に龍門の下に遷りて、經を講じ、大觀元年歿す、有名なる易傳の著あり。

テイエキ 帝奕(廢帝) 東晋第七代の帝にして、成帝の子なり、大司馬桓温に廢せられ、太元十一年吳に歿す。

テイキツ 鄭吉 西漢の武將にして、宣帝の時額に功を西陲に建て、西域都護に任ぜられ、西域に振ふ、功成つて安遠侯に封じ、邑千戸を食み、歿して穆公と諡す。

テイキヒ 鄭貴妃 明の神宗の妃にして、帝寵甚だ厚く、皇子三人をあげ、其所生を立てんとしたるも果さず、後挺擊の事ありしが、全きを得、光宗の崩後、李選侍と乾清宮に在りて政をきき、崇禎中歿す。

テイギョー 帝堯 堯を見よ。  
テイキョシハク 提舉市舶 唐代の税關に

して、廣州、泉州、杭州等の諸港に設けられ、外來貿易商人より、海關税を徵集したり。

テイクワ ● 鄭和 明成祖、仁宗、宣宗に歴仕したる宦官にして、永樂三年大船六十艘、水兵四萬を率ゐて、南海諸國を巡撫してより以來、南海に使用すること七回に及べり。

● 鄭華 Phaya Chakri. 鄭昭の弟にして、漢人なり、兄の後に暹羅王の位に即き、乾隆五十一年清の封冊を受く、これを今の暹羅王家の祖とす。

テイクワンノチ 貞觀の治 唐の太宗一代の治世を云ふ、太宗の朝には名臣甚だ多く、秦漢以來比類なき太平と稱せらる。

テイケイ 鄭經 鄭成功の子なり、父の遺志を繼ぎ、明室を恢復せんとし、屢々清軍を苦しめたれど、臺灣孤立して援なく、志を得ずして歿せり。

テイゲキ 挺擊 明末三案の一なり、初め神宗鄭貴妃の出を立てんとして、久しく皇儲を定め

ざりしが、朝臣の請によりて、長子常洛を立てしに、一日狂人太子の宮に入りて、門者を挺擊す、世人或は貴妃の使喚する所と論じ、當時を變動せり。

テイケン 鄭檢 安南黎朝の舊臣にして、阮塗の婿なり、權臣莫登庸、黎朝を篡奪するに及び、阮塗と共に黎氏の後を奉じて、清華により、恢復を謀りしも、果さずして止む。

テイケン 鄭玄(康成) 東漢の大儒なり、大學に遊び、馬融に師事し、後大將軍何進の徵に應じ、一宿して去る、建安五年卒す、實に漢代第一の註釋家にして、大抵の經書には皆悉く註釋せり。

テイコク 帝嚳 支那古代の君にして、黃帝の曾孫なり、天の義に順ひ、民の急を知り、知にして威あり、年一百五にして卒すと云ふ。

テイコー 程顥(伯淳、明道) 北宋理學の大家なり、弟頤と共に周子に學び、神宗に仕へて

監察御史となりしが、後辭して専ら讀書講學し、士大夫従ふもの多し、其の著定性書最も有名なり、

テイシン 鄭森 鄭成功の幼名なり、

テイシユ 鄭衆 後漢孝和帝に仕へたる宦官なり、帝衆と議して、竇憲を誅し、功を以て大長秋となる、宦官跋扈の基を開く、

テイシユ 庭州 今の清國新疆省迪化府の東なる濟木薩の地にして、唐の太宗貞觀十四年、西突厥を征服して、北庭都護府を置きし所なり、

テイシユガク 程朱學 宋の大儒朱熹が二程の説を採つて立てたる學派にして、其學大抵敬に居るを主となし、理を極めて、其知を致し、躬に反して、其實を踐むにあり、

テイシヨ 鄭昭 Phaya Tak. 漢人にして、暹羅に來寓せしが、暹羅の緬甸に滅されし時、義兵を擧げて、恢復を唱へ、都を盤谷に奠め、現今の暹羅王家の基を開けり、時に西紀一七六七年なり、

テイシヨシヨ 丁汝昌 清の武官なり、英

テイフリヨ 丁部領 交趾の人にして、五代の末、南漢の衰微せるに乗じ、其地によりて盟越國を立て、宋の太祖の時入貢して、交趾郡王に封ぜらる、

テイホー 帝芳 三國魏第三代の帝にして、明帝の子なり、時に朝威既に衰へ、軍臣司馬師の廢する所となる、

テイホー 帝髦 三國魏末の帝にして、明帝の姪なり、司馬昭に弑せらる、

テイリンシ 鄭麟趾 朝鮮初代の儒者にして、世宗に仕へて、高麗史を編纂し、又蒙古の巴思八文字に基きて、諺文を作る、朝鮮の開化始めて見るべきものあり、成宗の九年卒す、

テイレイ 丁零 通古斯族にして、其地は匈奴の北部、今の露領イルクツク近傍に當りしが、後柔然に侵略せられて、振はず、後魏の邊患をなしたる高車は其後なり、

テイレン 丁璉 暹越國王丁部領の子なり、

國に留學して、専ら海軍戰術を研究し、歸朝後、北洋水師提督となりしが、明治二十七八年の役の時、威海衛にありて、日本艦隊に圍まれ、兵器、軍艦を我に入れて、降を請ひ、自分は毒藥を服して、節に殉せり、

テイシリョ 鄭芝龍 明の熹宗天啓三年、

日本平戸に來り、日本人の女を娶りて、二子を擧げしが、後明の招きに應じ、唐王を擁して、明室の恢復を圖りしも成らず、終に清朝に降る、後その子朱成功の事によりて殺さる、

テイセイコ 鄭成功 朱成功を見よ、

テイソ 定宗(貴由) 元第三代の帝にして、太宗の長子なり、金を伐ちて、其親王を擒にし、

後拔都西征の時にも従ふ、在位僅に三年にして崩す、

テイチュ 鄭注 唐の文宗に仕へて、守太

僕卿、兼御史大夫となり、李訓と共に宦者を誅せんと謀り、甘露の變の時共に殺さる、

南漢の滅後、宋に入貢して、交趾郡王に封ぜられしが、後權臣黎桓の廢する所となる、

テキシンケツ 狄仁傑(懷英) 唐中世の賢

相なり、武后に仕へて、親任甚だ篤く、屢々面貴廷奏して用ゐらる、後武后に説きて、中宗を復位せしめ、聖曆三年卒す、文惠と諡す、

テツソ 哲宗(昀) 宋第七代の帝にし

て、神宗の子なり、太后高氏政を攝し、安石の黨を黜け、司馬光以下の舊法黨を用ゐしが、後親政に及び、章惇、呂惠卿を用ひて復新法を行ふ、

● 哲宗(英季王) 朝鮮第二十五代の王にして、全溪大院君瑊の子なり、在位十四年にして崩じ今上皇帝つく、

テツポ 徹法 周の採用したる租法にし

て、徹は通なり、夏の貢法と、殷の助法とを通用したるより此名あり、一井を九百畝となす、

テツロク 鐵勒 古より漠北に散處し、薛

延陀、回紇、葛邏祿等の數十部あり、東西突厥に

分屬せしが、後薛延陀最も強大にして、諸部を率ひて唐に降り、燕然都護府に屬し、勢甚だ盛んなりしが、終に黠戛斯に破られて振はずなれり、

テムガオチギン 鐵木哥幹赤斤 元の太祖の弟にして、乃顔の祖先なり、

テムチン 鐵木眞 太祖鐵木眞を見よ、

テンウシ 轉運使 唐の地方官にして、開元廿一年始めて之を置き、水陸發運の事を掌る、

デンエイ 田榮 戰國齊の王にして、田儼の從弟なり、齊王都を弑して、悉く三齊の地を合せ、後項羽に敗られて、平原の人に殺さる、

デンオー 田横 田榮の弟なり、齊王廣が韓信に破らるゝに及び、自立して齊王となり、島中に居る、漢高祖其罪を赦して召すに及び、遂に洛陽に至り自頸す、

デンカ 田何(子裝) 漢代の儒者なり、易を東武孫虞子に學び、一代の易學者となる、何の易を稱して、田氏易と云ふ、

疆省を云ひ、回疆又は東土耳其斯坦と云ひ、所謂西域の地にして、回紇のよりし所なり、

テンザンホクロ 天山北路 天山の北なる新疆省を云ひ、新疆又は伊犁と云ひ、所謂西域の地にして、烏孫の據りし所なり、

デンシ 殿試 清國今日の官吏登庸法にして、會試を終りし翌月に、天子親しく進士を宮殿内に集めて試験するを云ふ、

テンシン 天津 Tien-tsin. 清國白河の江口にある要港にして、北京の門戸をなし、天津運河を以て、中部支那と通じ、内外の百貨輻湊す、

テンシンカカン 天親可汗(頓莫賀) 回紇の可汗、もと牟羽可汗の相たりしが、牟羽が唐に入寇せんとするを諫めてきかれず、終に牟羽を殺して自立し、婚を唐に求め、德宗の皇女咸安公主を受く、

テンシンジョーヤク 天津條約 英佛同盟軍に關して、西紀一八五八年六月廿六日、英國使

分屬せしが、後薛延陀最も強大にして、諸部を率ひて唐に降り、燕然都護府に屬し、勢甚だ盛んなりしが、終に黠戛斯に破られて振はずなれり、

デンクワ 田和 戰國齊の大夫にして、田盤の孫なり、周の安王の時封せられて諸侯となる、これを田齊の祖とす、大公と諡す、

テンクワン 天官 周制六官の一にして、其長を家宰と云ひ、天下の行政を統へ、内外の出納と宮中の事務とを掌る、

テンコク 滇國 今の清國雲南省雲南府附近一帯の地によりたる西南夷にして、楚の襄王に征服せられしが、漢の武帝も郭昌をして之を征せしめたり、

テンコーシ 天皇氏 支那最古の帝にして、木徳を以て王たり、無爲にして化し、子孫相繼で一萬八千歳に及べりと云ふ、

テンザン 天山 Thian-Shan. パミール高原の東境なる葱嶺より起り、東西に連亘し、東北に連続して、アルタイ、ヤプロノイ、スタノボイ等の諸山脈となる、

節エルゲン卿、佛國使節グロイ男と、支那の全權委員穆親王との間に、天津に於て締結せられし條約なり、翌年批准條約を交換せんとして、英佛兩公使白河口に至り、清軍に砲撃せられ、事再發するに至れり、

清佛。戦争に關し、西紀一八八五年六月、李鴻章とパトノートルとの間に、天津に於て結ばれたるものにして、此條約にて東京は佛國の領地と認められたり、

朝鮮に於ける甲申の役に關し、西紀一八八五年我全權大使伊藤伯と、清國全權大使李鴻章との間に天津に於て結ばれたるものにして、朝鮮に居る兩國の兵を撤し、兵を朝鮮に出すの必要ある時は、兩國互に知照することを約せり、日清戦争は畢竟清國が此の條約を蹂躪したるより起れる戦なり、

テンシユキョー 天主教 Jesuit. 基督教の一派なるエスイヤ教を云ひ、明の神宗の時布教

節エルゲン卿、佛國使節グロイ男と、支那の全權委員穆親王との間に、天津に於て締結せられし條約なり、翌年批准條約を交換せんとして、英佛兩公使白河口に至り、清軍に砲撃せられ、事再發するに至れり、

に來れるリツチが、天主實義なる書を著して傳搬したるより此の名あり、是より清の世宗の禁止まで非常の隆盛を極めたり、

**デンシヨシ** **田承嗣** 唐の安祿山の部將にして、後唐に降り、魏博の節度使に封ぜられ、姦を肆にし、遂に貢賦を入れず、連年邊寇を事とせり、

**デンセイ** **田齊** 戰國齊の太夫田和が、周の安王の時、諸侯に封ぜられしに始まり、臨淄に都し、七雄の一たりしが、後秦に併せらる、

**テンソテイ** **天祚帝(延禧)** 遼の末帝にして、道宗の孫なり、淫虐にして國勢を顧ず、金の太祖に攻められ、黨項に投ぜんとし、遂に金軍のために捕へらる、

**テンダイサン** **天台宗** 今の清國浙江省台州府天台縣の北に在り、山上の國清寺は智者大師智顛の天台宗を唱へし所にして、天台宗の本山なり、

**テンダイシエー** **天台宗** 佛教の一派にして、開祖智顛が天台山に棲みたるによりこの名あり、法華經を基とし、一心三觀の妙理を明にするにあり、隋、唐の頃最も盛に行はれ、我國には桓武の朝最澄之を傳へたり、

**デンタン** **田單** 戰國齊の將軍なり、潘王の時、臨淄の市掾たるや、燕の樂毅の侵略を受け、將軍となり、齊の七十餘城を復し、襄王を迎へ立て、功を樹て安平君に封ぜらる

**田儼** 齊王田氏の疏族にして、秦末自立して齊王となり、東齊の地を略定せしが、後魏を救ひて、秦將章邯に臨淄に殺さる、

**テンヂク** **天竺** 印度を見よ、

**テンボー** **天方** アラビアを云ふ、

**テンボノラン** **天寶の亂** 唐の玄宗天寶十四年間の失政を云ふ、李林甫、楊貴妃、安祿山寵用せられて政事紊れ、武備弛み、安史亂を惹起す、  
**テンユートイ** **天祐帝** 德宗(耶律大石)

を見よ、

**デリー** **Delhi.** 莫臥兒帝國の首府たりし地にして、印度の北中央にあり、

と

**ト** **徒** 五刑の一にして、罪人を貶竄するを云ふ、一年、一年半、二年、二年半、三年の五等あり、隋、唐、宋、明、清皆これあり、

**ト** **湯** 商の始祖にして、契の後なり、内伊尹に任じて、内政を改革し、外四方を征伐して、諸侯を服し、終に夏を滅して、天下の主となり、亳に都す、

**ト** **唐** 唐公李淵が隋を滅して帝位に即きし時の國號なり、其の後盛衰あり、凡そ二十代、二百九十年にして、權臣朱全忠の篡奪する所となる、長安に都す、

**ト** **道安** 印度の僧、佛圖澄の門弟、

學成つて襄陽の檀溪寺に住す、博學にして、詞想に善し、佛法の規儀は凡て安に至つて備はる、秦苻堅之に師事せり、東晉の孝武帝の時入寂す、

**トイ** **東夷** 今の安徽省江蘇省邊に居りし夷にして、淮夷、徐夷最も強大なり、周の時甚盛んにして、王號を僭するに至る、宣王に征せられ漸く振はず、春秋の時に至りて、終に齊、楚、吳の征服する所となれり、

**トイ** **インドシヨクワイ** **東印度商會** **East Indian Company.** 西歐人が東印度の貿易を専有せんがために設立せられし商業會社にして、一六〇〇年英國の組織せるを始めとし、次で和蘭、佛蘭西、丁抹、澳地利皆之を組織せしが、英國の東印度會社のみ獨盛んにして、終に印度全部を支配せしが、一八五八年に至りて、其の權を政府に收め、會社は解散せらる、

**トウ** **鄧禹(仲華)** 東漢の元勳なり、光武學兵の時、前將軍に拜せられ、安邑を圍み、河



を定め、大司馬となり、鄧侯に封ぜらる、明帝時太傅に拜し、尊寵甚だあつし、

**トエツ 東越** 閩越王無諸の弟余善が、無諸の叛を誅したる功を以て、漢の武帝より封ぜられたる國にして、今の浙江省の地を保つ、後南越の叛に坐して國滅ぶ、僅かに一代なり、

**トエン 杜衍(世昌)** 宋仁宗に仕へて、相となり、范仲淹富弼と共に僥倖裁抑して政弊を革めんとして劾せられ、後大師に進み、邦國公に封ぜられ、正獻と諡す、

**トエン 道衍** 明初の僧なり、惠宗即位の初め、燕王棣にすゝめて靖難の師を起さしむ、

**トエンメイ 陶淵明** 陶潛を見よ、

**トオーチョーケン 唐王聿鍵** 紹宗隆武帝を見よ、

**トカ 道家** 老莊の道を修むるものを云ふ、

**トガイ 鄧艾** 三國魏の名將にして、征西

て死す、

**トカン 陶侃(士行)** 東晋の名臣なり、明帝の時、征西大將軍となり、荆湘の軍事を督し、蘇峻の叛を平ぐ、儉素、吏職に勤め、善く人を愛せり、後長沙に遷つて死す、

**トカン 東漢(後漢)** 光武帝秀が王莽を滅して、漢室を再興してより、洛陽に都し、二十代、百九十七年間、獻帝に至て滅ぶ、長安の都に對して、東に當れるを以て、東漢の名あり、

**トカラ 吐火羅 Tochara.** 大月氏の裔が建てたる一國にして、今の露領亞細亞のバルクの邊に據る、唐の高宗安西都護府を龜茲に遷せし時に隸屬す、後西突厥に屬し、尋て大食の領に入る、

**トギ 東魏** 後魏の孝靜帝善見が高歡に擁せられて、鄴に都してより、歡の子洋に位を禪りしまで一代、十七年間を云ふ、孝武帝の長安に都せし魏と相對し、其東にあるを以て稱す、

**トキ 道希** 北魏の學僧なり、淨土論を翻

將軍に拜せられ、遷南の太守となる、後蜀を攻め、姜維の軍を破り、成都に入りて蜀帝を降し、功を以て鄧侯に封ぜられ、太尉に任じ、二萬戸を食みしが、後讒にかゝり誅せらる、

**トカイオーエツ 東海王越** 晋の王族にして、八王の亂に黨したる一人なり、成都、河間の二王專權なるに及び、惠帝を擁して、政を輔け、後懷帝に仕へて、國政を執りしが、石勒の劉聰の命を受けて大軍を率ひ攻入しり時、之を討たんとし軍中に殞す、

**トガクトー 東學黨** 明治二十七年、韓國全羅道古阜に起りたる西教排斥の保守的學者の團體を云ふ、政府を怨めるものに附和し、勢猖獗を極め、國兵を以て鎮定する能はずして、兵を清國にかり、以て日清戦争を起せり、

**トガン 脱歡** 瓦剌の部長にして、瑪哈木の子なり、韃靼を破り阿魯台を殺し、脱々不花を擁して、權を専らにし、展明を侵す、英宗の時に至り

譯せり、

**トキンザン 都斤山** 外蒙古抗愛山の分支にして、突厥の木杆可汗が牙を立て、本營としたる所なり、

**トキョー 道教 Taoism** 老子を祖とし、道徳經によりて、清淨無爲、欲を制し、心を養ふを以て法とす、現今支那の下流に最も多く行はれ、修養、仙丹、神符等の術あり、此教を行ふものを道士と云ふ、黄衣を着け、妻帯肉食せず、

**トクソー 德宗(适)** 唐第九代の帝にして代宗の子なり、時に藩鎮外に跋扈し、國庫空乏せしを以て、勵精治を求め、兩稅の法を出せしが却つて天下の怨を招き、朱泚、李希烈の叛亂を誘致し、天下益多事となれり、

**德宗(耶律大石)** 遼の宗族にして、西遼の建國者なり、遼の亡びし時、衆を率ひて西に走り、中央亞細亞に入り、尋思罕を取り、黑契丹と稱せしが、恢復の素志を遂げずして死す、

**トクタムシカン** Toktamush Khan. クリム部の人にして、帖木兒に授けられて、欽察汗となり、ロシアの叛藩を征し、莫斯科を降し、恩に背きて、帖木兒の領地に侵入し、一三九〇年帖木兒にアム河畔に撃破られて、キエフに逃る、

**トクハツウコ** 禿髮烏孤 鮮卑の部酋にして、西紀三九七年、五胡十六國の一なる南涼國を建設し、河湟、青海の間を領せり、

**トグラク** Toghlak. 西紀一三二〇年、アラ一ウッヂンの部將ギアス・ウッヂンが奴隸より起りて、印度のデリーに建てたる王朝にして、殆ど全印度を支配せしが、其子ムハメッドの時に至り、國內の諸侯に獨立するものあり、一四一四年滅ぶ、

**トグラクチムル** Toghlak Timur. 也先不花の子にして、察合台汗なり、西紀一三六〇年、マベランナハルの地に侵入す、有名なるチムルは其の將なり、

**ドクリツト** 獨立黨 壬午の變後、朝鮮

に起りたる黨派にして、日本によりて獨立の體面を保たんとする者なり、朴泳孝、金玉均其首領たり、明治十七年亂を起して、事大黨を殺し、清兵來援するに及んで大敗す、

**トグルルベグ** Togrul Beg. セルヂウクの孫にして、セルヂウク・トルコの王なり、一〇三七年ガズニの大軍を破りてホラサンを奪ひ、徐沙不兒に都し、エミールとなり、一〇六三年歿す、

**トクワ** 湯和 明初の武將なり、太祖の命を奉じて、四川、雲南地方を平定す、

**トクワン** 冬官 周制六官の一にして、其長を太司空と云ひ、勸工、勸農、土木等の事を掌る、

**ドクワン** 童貫 宋の徽宗に仕へたる武將なり、金宋聯合して、遼を攻めし時、童貫は蔡攸と共に遼の南京を攻めしも、終に進む能はずして歸り、欽宗の時、昭代軍節度副使を以て死す、

**ドクワン** 潼關 清國陝西省同州府華陰縣の東、潼關關の東南、古桃林にありて、山河の險

あり、魏曹操は馬超を此に破れり、

**トクケン** 竇憲 東漢の武將にして、竇太后の兄なり、和帝十歳にして立ち、竇后朝に臨むに及び、事を用ゐ、後匈奴を破りし功を以て、大將軍となり、勢威朝廷を傾け、遂に帝を弑せんと謀り、事露はれて黜けらる、

**トクセントク** 竇建德 隋の煬帝の將帥なり、隋室分崩するに及び、河北に據りて、長樂王と稱し、後夏王となり、王世充と合して、唐の世民を伐たんとし、擒となりて長安に斬らる、

**トクコ** 竇固 東漢の武將なり、光武帝に仕へて、奉車都尉となり、大軍を發して、北匈奴を破り、遂に車師の地を奪ひ、章和中卒す、

**トクコ** 東胡 蒙古族にして、戦國の時より秦、漢の時代を通じて頗る強大となり、遼西の地に居りて、殆んど匈奴と匹敵するの有様なりしが、漢の初めに冒頭單于に追はれて、東の方に移りて烏桓、鮮卑の二族となる、

**トクコ** 悼公(周) 春秋の晉侯にして、襄公の曾孫なり、よく文公の遺業を繼ぎ、國政を修めて鄭を伐ち、霸を中國に稱す、

**トクコ** 鄧后 東漢和帝の皇后にして、鄧隲の妹なり、廢帝即位するに及び、太后となりて、政を執る、既にして帝崩じ、兄隲と謀りて、安帝を擁立し、尙政に參し、永寧中崩す、

**トクコ** 竇后 東漢桓帝の后にして、竇武の子なり、父と謀り、靈帝を立て、朝に臨みて、政を執る、海内の名士多く朝に列し、天下太平を想望せしが、幾もなく宦者を誅せんとして失敗せり、

**トクコ** テイ 道光帝 宣宗旻寧を見よ、

**トクコ** ノキン 黨錮の禁 東漢靈帝の時、名士李膺、陳蕃等、大學の書生三萬餘人と共に、國政を評論し、朝臣を非難し、宦官を誅せんとして成らず、竇武以下百餘人殺され、六七百人は、黨人と名けて禁錮せられる、之を黨錮の禁といふ、

**トクゴン** 脱歡 トガンを見よ、

**トサツイン 都察院** 唐宋の御史臺と同一にして明の時に置かれ、清亦之によれり、百司を糾劾し、冤枉を辯明し、各道を提督する事を掌り、左右都御史、左右副都御史等の職員あり、

**トシエト 土謝圖** 清国外蒙古四大部の一にして、もと韃靼の大汗達延の末子札賚爾の後なり、外蒙古の中部に位し、土拉河流域を占め、一大部をなせしが、清の聖祖の時降り、今定邊左副將軍の管下に屬す、

**トシツ 鄧騭** 東漢の大將軍なり、小妹竇氏、和帝の后たるによりて、終に大將軍に進み、安帝即位するに及び、政に預りしが、後宦官の讒に遭ひて、廢死す、

**トシビ 杜子美** 杜甫を見よ、

**トシシ 東晋** 西晋滅亡の時、琅琊王睿が建康に立ちて、晋の帝統を嗣ぎしより、恭帝徳文が宋に併せらるゝまで、十一代百三年間を云ふ、武帝の建てし帝都の東に當るを以て此名あり、

**トシユ 東周** 平王東遷後の周室を云ふ、東遷以後は周室益々衰微して、春秋の時、五霸迭に興りて、會盟の主となり、戰國に至りては、諸侯益々相侵伐し、王命少しも行はれず、後二十六代にして秦の滅す所となれり、

**トシユクク 唐叔虞** 周の成王の弟にして、晋侯に封せられ、絳に都し、山西省の西部を領し、晋室の基礎を開く、

**トシヨ 唐書(舊唐書)** 五代唐の劉昫が修めたる唐一代の紀傳體歴史にして、全部二百卷より成る、脱漏の點多きを以て、宋の時改削して新唐書を著す、よりて之を舊唐書とも云ふ、

**トシヨククイ 杜如晦(克明)** 唐太祖、太宗に仕へたる名相にして、房玄齡と共に朝政を輔け、殊に決断に長じ、貞觀の治世を致せり、

**トセイチュ 杜世忠** 元の世祖に仕へて禮部侍郎となり、國信使として日本に使し、高麗使と共に長門室津に至りて、國書を京都に奉せしが、

其書辭無禮の故を以て、鎌倉に送られ、龍の目に斬らる、

**トセシ 陶潜(淵明、元亮)** 東晋末の大詩人なり、嘗て彭澤の令となりしが、去つて潯陽に歸り、歸去來の賦を作り又仕へず、宋元嘉中卒す、夫婦自ら耕し、詩を作つて一生を送る、其詩冲淡雅遠にして、自然に近く、實に六朝第一なり、

**トソ 道宗(洪基)** 遼第八代の帝にして、興宗の長子なり、宋の神宗事を西夏に構るに乗じ、境を定むるを名として、宋の北邊數十里の地を奪へり、されど耶律乙辛事を用ひて後朝政紊る、

**トソハチダイカ 唐宋八大家** 唐及び宋の時代に於ける大文章家八人を云ふ、即ち韓退之、柳宗元(以上唐)歐陽修、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石(以上宋)これなり、

**トタク 董卓** 東漢末の將軍なり、帝辨立ちし時、召されて入京し、悉く宦官を誅し、帝辨を廢して、獻帝を擁立し、何太后を殺し、袁紹を

逐ひ、威福を恣にし、天下の怨を招きて、初平三年、將軍呂布等の殺す所となる、

**トヂテイ 同治帝** 穆宗載淳を見よ、  
**トチユ 董仲舒** 漢代の文學者なり、武帝の時仕へて、江都の相となり、後膠西王に仕ふ、公羊傳は仲舒によりて始めて世に顯はれたりと云ふ、又最も論説を能くせり、

**トッキン 突騎施** 突厥の別部にして、唐初興りて、伊麗、碎葉二河の邊に據り、西突厥の全部を領せしが、天寶以後漸く衰亂し、代宗の時、北庭の葛邏祿部に奪はれ、又振はす、

**トツケツ 突厥** トルコを見よ、  
**トツリ 突利** 突厥の可汗にして、始畢の子なり、唐の高祖の時、頡利可汗と共に、隋の舊臣を集めて、唐に入寇す、後太宗と好を通じて、兄弟の國となり、唐に降り、西紀六三一年病歿す、

**トテイコ 洞庭湖** 支那第一の大湖にして、湖南省にあり、衡山の秀峯、その南部に聳立

し、風景明媚を以て著る、

**トトト** 陶唐 今の山西省太原府なり、堯帝の起りし所にして、堯は之を姓とす、

**トト** 都統 八旗の長を云ひ、每旗一人を置き、其の軍政を統治す、

**トトシ** 都統使 唐肅宗の乾元中に之を置き、總管の諸道を監す、或は三道を領し、或は五道を領す、皆古の方岳、牧伯の任なり、

**トナウ** 禿納河 Danube ヨーロッパの大

河にして、源をアラック・フォレストに發し、黒海に流入す、延長一六五〇哩あり、

**トノ・シューセツドシ** 唐の十節度使 平

盧、范陽、河東、朔方、北庭、安西、河西、隴右、劍南、嶺南の十鎮を云ひ、高宗の時、涼州に河西の節度使を置きたるを始めとし、玄宗の時に至りて、備はる、

**トノ・シュード** 唐の十道 貞觀の初め

天下を分割したる、關内、河東、河北、河南、山南、

隴右、淮南、江南、劍南、嶺南の十道を云ふ、

**トノ・ハンチン** 唐の藩鎮 高宗、玄宗の時に置かれたる節度使が、兵馬と民政の權を有して、邊藩に鎮したるを云ふ、是より藩鎮益々盛大にして、命令行はれず、終には安祿山の大亂となり、唐室の滅亡を來せり、

**トバ** 東坡 蘇軾を見よ、

**トハチムル** 脱哈帖木兒 Foka Timur. 欽察汗拔都の弟にして、朮赤の子なり、西域平定の後、黒海の邊に國を立つ、克里姆汗、及び喀散汗は共に其後なり、

**トバノック** 銅馬の賊 王莽の漢室を篡奪せし時、河濟の地に起りし群盜にして、漢の劉秀に滅さる、

**トバン** 吐蕃 西藏を見よ、

**トフ** 竇武 後漢の竇后の父なり、后と謀りて靈帝を擁立し、大將軍に拜し、名士を多く朝に薦め、陳蕃等と謀りて、悉く宦者を誅せんと謀り、

風骨ありと稱せらる、

**トボクノヘン** 土木の變 明の英宗が宦者

王振の勧めに従ひ、瓦剌の也先を征して、土木堡に至り大敗して、終に擒となりしを云ふ(西紀一四四九年)、

**トボクホ** 土木堡 清國直隸省宣化府懷來縣の西にあり、

**トボーケンフンロク** 東方見聞錄 *Marabilia Mund* 元の世祖に仕へたるイタリヤ、

ベニスの人ポーロが、二十年間東洋に於て見聞せしことを語り、ルスチチアノをして、筆記せしめたるものなり、

**トボーサク** 東方朔 漢の武帝の時に出現したる大文學家なり、最も詞賦に巧にして、司馬遷、司馬相如、董仲舒と並び稱せらる、

**トボルスク** *Tobolsk* 露領西部西比利亞の都府にして、もとシビル汗のよりし所なり、西紀一五九〇年、チャルコフの建設にかゝり、露人の亞

未だ發せずして事露れ、終に自殺す、  
**ドーフテイ** 道武帝(珽) 後魏初代の帝にして、拓跋氏、代王什翼健の孫なり、苻秦の勢衰ふるに及び、代を回復し、盛樂によりて國を建て、魏と稱す、後燕を滅して、平城に徙り、帝位に即きしが、晩年躁怒多くして、内訌漸く萌せり、  
**トヘイカカン** 頭兵可汗 醜奴の弟にして、柔然の可汗なり、兵に長じ、塞外の諸部を平定し、後魏の歲幣を受けて、益々驕傲なり、突厥の部長土門の婚を求めしを拒み、其怨む所となりて、終に殺さる、  
**トホ** 杜甫(子美、老杜) 唐代の大詩人なり、進士に落第せし貧乏書生なりしが、詞賦を以て玄宗に仕へ、時勢を慷慨す、安史の亂、賊に捕へらる、後又肅宗に仕へ暫くにして辭し、江南の名勝を探りて、詩を賦して古今獨歩の妙境に達す、  
**トボク** 杜牧(牧之、小杜) 晩唐の詩人なり、官は中書舍人を以て卒す、其詩は豪放にして、

一五九〇年、チャルコフの建設にかゝり、露人の亞

細亞に設けし最古の都府とす、もと西比利亞總督府所在地たり、

トーマス・スチーヴンス Thomas Stephens. 英のエスイタ教徒にして、西紀一五七九年、印度に航し寶石香料等を得て歸り、東洋貿易の利を説けり、

トミツ 杜密(周甫) 東漢の正士なり、桓帝の時太僕に至りしが、黨錮の禍起るに及び、黨して罪せられ、終に自殺す、

トムスク Tomsk. 露領西部亞細亞のオプ河畔に位せる、西部西比利亞最盛の都邑にして、西紀一六〇九年の建設にかゝり、商隊貿易盛に行はる、

ドン Don. 大露西亞を南流して、裏海に注ぐ大河なり、全長凡一千一百哩、近傍は有名なるドン・コサックの根據地なり、

トンガン・シク 東干族 回紇の後裔にして、回教徒なり、清の穆宗のとき、亂を天山南路の

烏魯木齊に起し、回疆諸部一時之れに應じて盛んなりしが、和卓木の將ヤクープベグに征服せらる、

トンキン 東京 Tong-king. 佛領インド、シナの最北部に當る、首府を河内と云ふ、漢代の交趾、宋代の大越にして、西紀一八八三年の條約により佛領となる、

トンコー 敦煌 漢の武帝が匈奴を征し、河西の地を收めて置きたる、四郡の一にして、今の清國甘肅省安西州敦煌縣一帶の地なり、

トメッド 吐迷度 回紇の部長なり、薛延陀の部長、夷男死して、國亂れし時、鐵勒の諸部を平定して、唐の太宗に降り、燕然都護府に屬せり、

トメット 土默特部 Tunet. 韃靼の達延汗の孫、俺答が陰山附近によりて、立てたる部族なり、明末勢盛にして、屢々山西に入寇し、殺掠を恣にせしが、清に至り、太宗天聰三年來降し、今左翼旗の鎮する所となる、

トモン 土門 柔然の鐵工なりしが、第六世紀の初め突厥の部長となり、終に柔然に叛きて、伊列可汗と稱し、柔然を撃て、頭兵可汗を殺し、突厥隆興の基をなせり、

トニー 竇融(周公) 東漢初の名將なり、王莽天下を亂りし時、河西によりて、五郡大將軍と稱せしが、後光武に降り、冀州の牧に封ぜらる、後病を以て歸養す、

トヨ 杜預(元顛) 晉の名臣なり、文帝に仕へて、鎮南大將軍に拜し、吳を撃て功あり、又經學にくわしく、著書頗る多く、殊に其左傳の註釋は最も有名にして、廣く行はる、

トヨクコン 吐谷渾 鮮卑の支族なり、東晉の末、青海附近に國を立て、隋、唐の時、屢々隴西に寇せしが、西紀六三五年、唐の太宗李靖をやりて之を撃破し、是より唐に隸屬す、

トヨゴ 統葉護 西突厥の可汗にして、達頭の孫、射匿可汗の弟なり、北鐵勒諸部を併せ、

西波斯を破りて、州となし、本營を千泉に定め、地の廣きこと東突厥にすぎたり、後叔父莫賀咄に殺さる、

ドラビタ 達羅毘荼 Dravida(Damila, Tamil) 印度のマドラスよりクマール岬に亘る地方に住する人種なり、

トリゴ 金尼閣 Trigault, Nicolas. 佛國エスイタ派の宣教師なり、西紀一六二〇年、支那に來りて布教す、エスイタ教會史の著あり、

トリンガノ 登牙儂 Tringano. マライ半島のシラム領の一州なり、

トリンジョイン 東林書院 今の清國江蘇省常州府無錫にありし學校にして、宋の楊時の創建にかゝり、明の神宗の時、顧憲成これを再興し、四方の學者寄り集り、終に東林黨なるものを生じ、明末の紛議をいだせり、

トリン トー 東林黨 明の神宗の時、無錫に設けられし東林書院の士、及び之と同志のもの

のを稱し、一時天下の輿論を動かし、熹宗の時、葉向高首輔となるに及び、東林黨のもの一時勢ありしか、幾もなく宦者魏忠賢に排撃せられて、復振ふ能はず、

トルキスタン 土爾其斯坦 Turkestan.

露領中央亞細亞の一部にして、古の大月氏、花刺子摸の地なり、西紀一八三三年、露國の占領する所となり、タシケントにトルキスタン總督府を設く、

トルコ 突厥 Turks. 匈奴の別種にして

姓は阿史那氏、世々金山の南に居り、柔然に仕へしが、土門部長となるに及んで獨立し、終に叛きて柔然を滅ぼし、都斤山を本營とし、隋唐の間、其勢最も強く、頡利可汗の時、中國奢侈の風を慕ふて、舊俗を變じ、連年の戦争に、下民の怨を招き、終に唐の太宗に滅さる、

トルコシユ 土耳其種 西比利亞人種に

屬し、もと内外蒙古の地に蕃殖せしが、後次第に

西に移り、今は天山南路より、中央亞細亞一帯の地に據る、匈奴、柔然、突厥、回紇皆是に屬す、現今歐洲の土耳其帝國も其族の建設する所なり、

トルファン 吐魯番 ツルファンを見よ、

ドレイチョー 奴隸朝 西紀二二〇六年、印度のゴール家の奴隸クタブ、ウッザンの建設する所

なり、屢々蒙古の侵入に遇ひ、争亂絶ゆる時なく、一二九〇年に至り、キルヂ朝のセラル・ウッザンに滅さる、

トレカナ 脱列哥那 馬皇后を見よ

な

ナイマン 乃蠻 唐代の黠戛斯の後にして、

抗海按蓋の地を保ちしが、太陽汗の時、蒙古の成吉思汗に破られ、太陽汗斃れ、國滅ぶ、

ナイモイコ 内蒙古 戈壁沙漠以南の蒙古

を云ひ、現今二十四部、四十九旗に分たる、古匈奴、元等の據りし廣大なる地域なり、

ナーガセーナ 那迦犀那(龍軍、那先)

Nāga-sena. 佛滅後五百年に出でたる佛哲なり、

ナーガールジュナ 龍樹(龍猛) Nāgārjuna.

二世紀の半頃南天竺に大乘佛教の新派を興發したる有名の菩薩なり、著書頗る多し、

ナクヂャオン Nacdon. 柬埔寨の王なり、

暹羅の援を得て、安南と戦ひしが、利なく、西紀一八四七年、二州を割きて和を講じ、是より暹羅の藩屬となれり、

ナヂルシャー Nadir Shah. 波斯人なり、

西紀一七三二年、ソフイ朝を顛覆して、波斯王となり、四方を侵略して、領土を擴張せしが、ヒバを屠りて歸途、ホラサンに於いて部下に殺さる、

ナッスル 納速刺 Nassir. 元の世祖の部

將なり、西紀一二七七年、シムを征伐せり、

ナムガン 那木罕 Namugan. 元の世祖

の末子なり、海都の叛せし時、昔里吉、安童等を従へて防がしめしが、昔里吉叛し、那木罕は安童と共に捕へられ、海都に送らる、

ナムヂン 南定 Nam-dingh. 佛領イン

ド・シナ東京の首府なり、

ナンエツ 南越(百越、楊越) 印度支那族に

屬し、今の廣東、廣西、佛領東京の地方に居りしが、秦始皇之を征して、桂林、南海、象の三郡を置き治めしむ、

ナンエツクン 南越九郡 漢の武帝が今

の廣東、廣西、東京、安南を征服して、置きたるものにして、南海、蒼梧、鬱林、合浦、珠崖、儋耳、交趾、日南、九真を云ふ、

ナンエン 南燕 五胡十六國の一にして、西

紀三九八年、鮮卑族の慕容徳が、後燕の亡びし時、

滑臺に據りて建てたる國なり、二代十三年にして、宋の滅す所となる、

ナンカイ 南海 秦の三十六郡の一にして、今の清國廣東省の地なり、秦の亂れし時、南海郡の尉、趙佗、桂林、象の二郡を併せ、自立して南越王と稱せしが、漢の高祖の時、之に屬し、武帝の時、路博德之を攻め、其併す所となる、

ナンカン 南漢 五代の傍國にして、西紀九〇五年、上蔡の人劉隱が、廣東、廣西の地に建てたる國なり、五代六十五年にして、王銀の時宋太祖に滅さる、

ナンカンザン 南漢山 今の韓國京畿道廣州の地に在り、百濟三百七十五年間の古都にして、朝鮮の仁祖が清の太宗に攻められて蒙塵せられし事あり、

ナンキン 南京 江寧府の事にして、北京に對して此稱を得たり、

ナンキンジョーヤク 南京條約 西紀一八四〇

ナンセイシヨ 南齊書 南朝梁の蕭子顯の著にして、南朝齊の歴史なり、八紀、十一志、四十四列傳よりなる、

ナンソウ 南宋 高宗南渡して南京に即位したる後の宋朝を云ふ、宋一度南渡してより、江北悉く金に入り、復昔日の勢なく、第九代帝昺の時に至り、元の滅す所となる、

南巢 今の清國安徽省廬州府巢縣にして、夏桀の放たれし所なり、

ナンソーギガクノキン 南宋偽學禁 宋の寧宗の時、權臣韓侂胄が正士朱熹等の徒の就職と、著書の流布とを禁じたるを云ふ、

ナンソハ 南宗派(文人畫) 唐の王維の創むる所なり、破墨の致を貴び、其筆簡にして、氣は壯、其景少くして、意多しと評せらる、

ナンチョー 南朝 宋、齊、梁、陳の四代を云ふ、(南北朝参照)

ナントー 南唐 五代の傍國にして、徐州の

二年八月廿九日、阿片戦争の結果として、清國の全權委員伊里布書英と、英國全權大使ポテンシアーとの間に結ばれ、清國は賠償金二千百萬兩を出し、香港を割き、上海以下の五港を開く事を約せり、

ナンクロー Nangro. 暹羅の王にして、ロットラ王の子なり、安南を伐ちて、メコン河東の地を取り、西紀一八四七年、柬埔寨の二州を得て、暹羅の藩屬とせり、

ナンシ 南史 唐の李延壽の撰にして、八十八卷あり、宋、齊、梁、陳の諸史の煩蕪を憂へて、之を簡約したるものなり、

ナンシヨ 南詔 六詔の一にして、其の最南に在りしを以てこの名あり、今の雲南の地に當り、唐の時、部長皮邏閣他の五部を併せ、唐の封を受けて、雲南王となる、王六世の孫酋龍雄略にして、帝を稱し、大理國と云ふ、後宋を経て、元の憲宗に時に滅さる、

人李昇の建國なり、子璟江北の地を割きて、周の世宗に與へ、帝號を去る、璟の子煜の時、宋に攻滅さる、凡二世、三十六年なり、

ナンボクチョー 南北朝 宋、齊、梁、陳四代の南朝と、後魏、北齊、周の三代に、隋の未だ陳を併せざる間を加へたる四代の北朝とを云ふ、南朝は江南によりたる漢人にして、北朝は江北によりたる夷狄の立てたる國なり、宋の武帝の即位せしより數ふれば、百七十年にして、隋の一統する所となる、

ナンポフキョー 南方佛教(小乘佛教) 第四回の結集に加はらざりしを以て此の名あり、錫蘭を中心として、緬甸、暹羅及び南洋諸島に傳はれり、

ナンリョー 南涼 五胡十六國の一にして、鮮卑の秃髮烏孤が、甘肅省西平によりて立てたる國なり、四代凡そ十七年にして、西紀四一四年、終に西秦の滅す所となる、

ナモチオー 奈勿王 新羅第十七代の王にして、未仇の子なり、王の時我神功皇后の親征にあひ出て降る、

ナヤン 乃顔 元の太祖の末弟鐵木哥幹赤斤の曾孫なり、滿洲吉林の地を領せしが、世祖即位の時、海都汗と相應じて叛せしが、却つて世祖のために遼河畔に破られ、終に擒となる、

に

ニウーチアン 牛莊 Niū-chwang. 清國

盛京省遼河の下流に位せる要港にして、北清及び韓國に對する兵備、及び貿易上の中心に當り、滿洲の産物多く茲に集まる、

ニコライエフスク Nikolajevsk. 黒龍江の河口にある一港なり、

ニコラス Nicolas II. 現今の露西亞皇帝にして、先帝アレキサンダー三世の長子なり、一

八九四年十月即位す、

ニシアシア 西亞細亞 阿母河の西に當り、阿拉海、裏海の南に横はれる波斯、小亞細亞、阿刺比亞の諸國を云ふ、

ニシトケツ 西突厥 木杆可汗の徒弟、達頭可汗が、千泉によりて、突厥の西部を分領したるに始まり、貞觀の初め更に東西に分れて争ひしが、沙鉢羅可汗に至り、高宗の軍に破られ、庭州都護府の下に屬す、

ニシューイッシ 二十一史 二十四史の中一六、一八、二四を省きたるをいふ、明代の稱なり、

ニシューシシ 二十四史 左の如し、

- (一) 史記、(二) 漢書、(三) 後漢書、(四) 三國史
- (五) 晉書、(六) 宋書、(七) 南齊書、(八) 梁書
- (九) 陳書、(一〇) 魏書、(一一) 北齊書、(一二) 周書
- (一三) 隋書、(一四) 南史、(一五) 北史、(一六) 舊唐書
- (一七) 新唐書、(一八) 舊五代史、(一九) 新五代史、(二〇) 宋史
- (二一) 遼史、(二二) 金史、(二三) 元史、(二四) 明史

に宋代理學の大家なり、

ニフチャ 尼布楚 ネルチンスクを見よ、

ニミツ 捏迷思 今の獨逸にして、蒙古拔都の西征の時、蹂躪せられ、諸部民皆荷擔して去れりと云ふ、

ニンクタ 寧古塔 Ninguta. 滿洲吉林省の一市にして、西北利亞及び韓國に出づる要路に當り、滿洲朝の發祥の地なり、

ニンポー 寧波 Ning-po. 清國浙江省の要港にして、道光廿三年、南京條約によりて開く所、我王朝遣唐使の往來せし地なり、數百年前葡萄牙人に通商し、本國の重要港たりき、

ぬ

ヌシユテギン Nushtegin. 第十一世紀の末頃、ホラズムの知事となり、セルシウク朝の羈絆を脱せんと計りしも、果さずして死す、

合計三千二百六卷あり、右の中明代には一六、一八を除き、一より二三までを、廿一史と稱し、又一より二〇までの中、一六、一八を除いて、十八史と云ひ、史記より明史までの中、一六と一八とを除き、二十二史と云ふ、

ニセイコーテイ 二世皇帝(胡亥) 秦第二代の皇帝にして、始皇の子なり、李斯、趙高に擁立せられしが、暗愚にして、權臣事を用ゐ、天下亂を思ふ、群雄各地に起るに及び、趙高に弑せらる、

ニチナンケン 日南郡 漢の武帝が南越を定めて、置きたる、九郡の一にして、今の安南の瀾滄江の東岸の地を云ひ、漢代東西兩洋貿易の中心たり、

ニツクオー 日逐王(先賢揮) 匈奴の宗親にして、西域諸國を管せしが、握衍胸鞬單于と隙あり、鄭吉によりて漢に降り、

ニテイ 二程 程頤、程頤の兄弟を云ふ、共



ヌルハ

ヌルハチ 努爾哈赤 Nurchachu. 太祖  
を見よ、

ね

ネイカ 寧夏 清國甘肅省の東北境に在り、  
北方の要地にして、其の南靈州は唐の朔方節度使  
の鎮所たり、

ネイソー ●寧宗(擴) 宋第十代の帝にし  
て、光宗の子なり、趙汝愚に擁立せられ、賢臣朝  
に集まりしが、汝愚黜けられ、韓侂胄政を用ゐる  
に及び、亂兆漸く萌せり、

●寧宗(懿憐質班) 第元十代の帝にして、  
明宗の子なり、文宗の皇后政を攝せしが、在位二  
ヶ月にて崩す、

ネストリウスシユー Nestorianism. ケイ  
キヨヲを見よ、

ネッカ 熱河(稱徳) Niho. 清國直隸省

必齊河、額爾古納河を以て境とし、アルバザン城  
を破毀するを約せり、

の

ノフホロド Novgorod. ロシアのボルガ河  
畔に在る一市にして、第十三世紀の頃まで有名な  
る市場なりしか、西紀一四七八年、イワン三世に  
降されてより、稍々衰へたり、

ノン 嫩河 Non 松花江の一支流にし  
て、康熙帝の創建にかゝれる齊々哈爾はその河畔  
に在り、

は

ハバ 秦の三十六郡の一にして、今の四川  
省の西部に當る、

ハイ 沛 今の江蘇省徐州府治にして、漢高

ノフコ

ネバト

二九〇

に在り、清帝避暑遊獵の地にして、宏大なる離宮  
あり、英佛同盟軍の時、清の文宗の蒙塵せられし  
所なり、

ネパール 泥波羅 Nepal. ヒマラヤ山地  
の一獨立部にして、土人の酋長之を治め、首府を  
カドマンヅーと云ふ、

ネモカ 粘沒渴 宗翰を見よ、

ネンピ 撚匪 清の咸豐の末、大河の南北に  
起りたる流賊にして、長髮賊に應じ、一時衰へん  
とせし髮賊の勢を恢復せしめしが、髮賊滅ぶるに  
及び、遂に平定せらる、

ネルチンスク 尼布楚 Nerchinsk. 露

領シベリア外バイカル州の一市にして、尼布楚條  
約の締結されし地なり、

ネルチンスク・ジョーヤク 尼布楚條約 西

紀一六八九年、清國使臣索額圖と、露國公使ゴロ  
ーウインとの間に、尼布楚に於て締結せられし條  
約なり、この條約に於て、兩國は外興安嶺、格爾

祖の勃興せし所なり、

ハイアリック 海押立 カヤリクを見よ、

バイカル Baikal. 東部西比利亞の淡水湖

にして、清人の所謂北海なり、

バイキ 馬維熙(天御) 山海衛の人、清の

順治の初、忻州同知となり、偏關廳事を攝す、姜  
瓖叛して、維熙執へられ、屈せずして害に遭ふ、

バイギョーシン 梅堯臣(聖愈、宛陵) 宋代

の詩人なり、歐陽修と同時代にして、官は國子監  
直講に至る、其の詩集を宛陵集と云ふ、

ハイコーケン 裴行儉(守約) 唐初の武將

なり、高宗に仕へて、屢々突厥を征し、遂に阿史那  
伏念を降し、餘黨悉く平定す、永淳元年卒す、

ハイザン 海山 武宗海山を見よ、

ハイザン 海東 Hai-dzon. インド・シナ

東京の北部にある一市なり、

ハイタク 斐度 唐の武將なり、憲宗に仕

へて出て、藩鎮を制し、下民を撫育して、後同平

ハイア

二九一

章事となり、淮西招討使として軍を督し、吳元済の叛を平げ、唐の大愛たりし藩鎮の跋扈を定めた

り、  
ハイダル 拜達兒 Paldar. 察合台の子なり、拔都の西征に従ひ、別軍を以て波蘭に入り、各地を蹂躪して歸れり、

ハイヂュー 拜住 元代の名臣なり、仁宗、英宗に歴仕して、右丞相となりしが、後姦臣の悪む所となり、也先鐵木兒等のために殺さる、

ハイツ 海都 Khaidu. 元の太宗の孫にして、合失の子なり、世祖の時叛を謀り、一部の大會に推されて、大汗と稱し、元に逼り、遂に敗死す、

ハイテイ 廢帝(辨) 東漢第十二代の帝にして、靈帝の子なり、何太后政を攝し、宦者を誅せんとして、將軍董卓を召し、卓の廢する所なる、

●(髦) 三國魏第四代の帝にして、丕の孫、東梅王孫の子なり、司馬師に擁立せられしが、司馬

昭の専權なるを惡んで、之を誅せんとし、却つて其黨の弑する所となる、

●(東昏侯寶卷) 南朝齊第六代の帝にして、明帝の子なり、帝喜戲度なく、殘虐日に甚しく、六貴事を用ぬ、天下大に亂れ、王珍國等に弑せらる、

●(欽) 北朝西魏第三代の帝にして、文帝の長子なり、父帝崩して立ち、權臣宇文泰を誅せんと謀りて廢せらる、

●(從珂) 五代唐最末の帝にして、明宗の養子なり、初め鳳翔の節度使たりしが、部下の將士に推されて、閔帝を弑して、位に即きしが、在位二年にて、晉の高祖に滅さる、

●(少帝義符) 南朝宋第二代の帝にして、武帝の子、西紀四二三年即位せしが、群少に親狎し、暴虐なりしかば、廢せらる、

●(永濟) 金第七代の帝にして、世宗の子なり、在位五年にて宦者に弑せらる、

●(眼)

陳暉を見よ、

ハイバル (黒嶺) Khaibar. 北印度ペシヤワールの西、アフガニスタンへ出づるの通路なり、アレクサンドル大王遠征の時、及アフガン戦争の時、此險を扼せり、

ハイフォン 海防 佛領東京の一良港なり、東臺灣に臨む、

ハイフインフ 佩文韻府 支那典故の書にして、康熙帝の勅撰なり、全部二百六卷より成る、張王書以下七十五學士の纂修なり、

バイフンテイ 梅文鼎(九定) 清初代の曆數學者なり、聖祖の六十年卒す、曆學駢枝以下著書甚だ多し、

バイン 馬殷(覇圖) 五代唐の武將なり、屢、戦功を立て、漂州の刺史となり、明宗の天成二年楚國公に封ぜられ、長興元年卒す、

バエン 馬援(文淵) 東漢初代の武將なり、光武の擧兵に應じ、隗囂を討ち、西羌を征し、二

十二年蠻夷を伐たんとし、途上瘴氣に觸れて卒す、

ハカン 馬韓 三韓の一にして、今の韓國全羅道の一帯、及び忠清、京畿二道の大牛を占めたり、箕準の衛滿に逐はるゝや、馬韓を破りて、子孫に傳へしが、後終に百濟に滅さる、

ハク 亳 今の清國河南省歸德府商邱縣の地にして、成湯の奠都以來、夏の都せし所なり、

ハクイ 伯夷(公信) 叔齊と共に孤竹君の子なり、父初め叔齊を立て、嗣とせんとす、父卒して兄弟相讓り、位に即かず、周武王に仕へんとし、武王夏桀を伐つを諫めて聽かれず、共に周の粟を食ふを耻ぢ、首陽山に餓死す、

ハクカ 白河 Pe-ho. 直隸省を横断せる河にして、源を山西省に發す、北京天津の門戸を扼し、河口に太沽の砲臺あり、

ハクカンジョー 白巖城 盛京省奉天府遼陽州の東北に在りし高勾麗の城なりしが、唐の太宗親征の時陥れらる、

ハクキ 白起 秦の將軍なり、昭王に仕へ、上將軍に拜せられ、屢、六國の兵と戦ひ、城を拔き、人を殺し、こと擧て數ふ可らず、功を以て武安君に封せられしが、後旨に忤ひ、自裁せしめらる、  
ハクキヨイ 白居易(樂天) 唐代の大詩人なり、憲宗に優遇せられ、官刑部尙書に至る、其詩平易の詞を以て稱せられ、長恨歌、琵琶行の如き人口に膾炙す、其詩文集なる白氏文集は、古く我國に行はる、

ハクサール Bakhar. 英領印度ベンガルの小市にして、莫臥兒帝シア・アラム二世が、東印度會社の英人を討ちて、大敗せし地なり、

ハクシュー 亳州 今の清國安徽省亳州府亳州にして、元末紅巾の賊のよりし地なり、

ハクスウノコク 莫須有の獄 宋の秦檜が忠臣岳飛を誣殺したる疑獄を云ふ、莫須有とは韓世忠が、秦檜に、其無罪を責めし時に、飛の子雲張憲と誓す、其意明かならずと雖、其の事體莫須有

安南都統使を授けらる、

バクトリア 大夏 Bactria. 西紀前二百年の頃、バクトリアの知事サオドツスが、ア

△河兩岸の地に建てたる國にして、後月氏に征服せらる、

ハクバジ 白馬寺 後漢の明帝が洛陽雍關の西に建てたる支那最初の寺にして、此時西域に佛典を求めたる蔡愔が、白馬に經を載せて歸りたるより此名あり、

バクナン 漠南 コビ大沙漠の南を云ふ、即ち内蒙古の地なり、

ハクレンキョート 白蓮教徒 清の嘉慶中に起りたる叛徒なり、奸民の治病、持齋を假り、經呪を造り、劫を救ふを名とす、安徽省の劉松、これが首となり、湖北より起り、四州、陝西、甘肅等の諸州を亂す、朝廷之を平ぐ、

ハクロク 白鹿 清國陝西省西安府藍田縣の西にあり、

有と云ひしによる、

バクダート 報達(白達、八吉打) Bacth Dard. ナグリヌ河畔に位する亞細亞土耳其の繁華なる市にして、バクダートのカリフ朝のありし地なり、

ハクチョーコク 白帳國 拔都の兄斡魯朶が、欽察汗國の東北、康里の地に建てし國にして、後に阿斯特拉汗、及び乞兒吉思喀薩克汗に分れ、共に露に滅さる、

ハクテキ 白狄 周初今の陝西省延安府より、山西汾州の間に蔓延したる北狄の一種にして、晋の盛大なるに及んで衰滅に歸す、

ハクトージョー 白登城 今の清國山西省大同府陽高縣の南に在り、漢の高祖が匈奴を討ちて、重圍を受け、苦戦したる所なり、

バクトーヨー 莫登庸 安南の人なり、安南王黎暉の時陳暹の叛亂を討ち功あり、政權を得、黎暉を弑して、位を奪ひ、嘉靖十九年、明に降り、

ハクワイ 馬嵬 清國陝西省西安府興平縣の西にあり、唐の玄宗が楊國忠を殺し、楊貴妃を縊りたる所なり、

バクワンジョーヤク 馬關條約 明治廿八年四月十七日、日清戦争終局のため、我伊藤博文、陸奥宗光と清國大使李鴻章との間に結ばれたる條約なり、清國は朝鮮の獨立を認め、償金二億兩を納れ、遼東半島、臺灣、澎湖島を割き、五港の開放を約したり、

バシンコー 馬真后(脱列哥那) 元の太宗の後なり、太宗崩じて、制和林に稱するもの四年にて、定宗を立て、世祖の至元二年崩す、

バシヨク 馬謖(幼常) 三國漢の名將なり、諸葛亮の參軍となり、魏を攻めて、祁山に至り、亮の節度に違ひて大敗し、斬に處せらる、

ハシヨク 巴蜀 巴と蜀との總稱なり、巴は今の四川省重慶府の附近、蜀は四川省成都府附近を云ふ、

バスコダガマ Vasco da Gama. 有名な  
る葡萄牙の航海者なり、西紀一四九八年、始めて亞  
弗利加の喜望峯を廻りて、印度のマラバル海岸に  
達せり、

バスバ 八思巴 吐蕃の人、元の世祖に仕  
へて、帝師に拜せられ、蒙古新字を作り、大寶法  
主を加へられ、至元十六年に卒す、

バスハンツ 婆藪婆豆(漢名世親) Vasu-  
vandu. 上古印度摩迦陀の高僧なり、西紀第  
一世紀の頃迦膩色迦王が第四回の結集をなせし  
時、其命を受けて其上首となる、尋で大乘佛教を發  
揮せり、

バセイ 馬成(君遷) 東漢の將軍なり、光  
武を助けて、潁川、河北を伐ち、楊武將軍に拜せら  
れ、後武谿の變を伐ちて利なく、國に就きて卒す、  
バタニ 大泥 Patani. シアム國の南端に  
ある一港なり、  
バタビア Batavia. 和蘭領ツバ島の首府

の八王交々興りて相争ひ、十六年間骨肉相殘害し  
たる大亂なり、

バツ 拔都 Batu 元の太祖の嫡孫にして、  
朮赤の子なり、太宗の西征に従ひ、ホルガ河畔に  
欽察汗國を立つ、憲宗の六年卒す、

ハッキヘイ 八旗兵 清の兵制にて、天子の  
親軍なり、太祖の時、滿洲兵を八旗(黄、白、紅、  
藍に各々正と鎮とあり)に分ちたるを始めとし、後  
蒙古を征し、支那本部を略するに及び、更に各々  
八旗を置き、二十四旗となる、此等の八旗兵は主  
として滿洲地方及び京城の警備に任ずるものな  
り、

ハッコファン 八股文 明の成祖が四書、五經、  
大全を作られてより、科擧に應ずるものが、大全  
の説を諳記して、其説に従ひて作りたる一種の文  
體なり、

パトナ 巴達弗(華子城) Patna. 今の  
印度のパトナなり、摩揭陀國の都せし所にして、

なり、初め葡萄牙人之を建設し、尋で蘭人之を占  
め、一時隆盛を極めたり、

バダフシアン 鉢鐸創那(八答黑商) Bad-  
dakhshan. 葱嶺の西、アフガニスタンの東北  
の地名なり、隋の時交通す、

バダン Padan. スマトラ島の西海岸の地  
名なり、和蘭の殖民地とす、

バタンリン 馬端臨(貴輿) 宋末の儒者な  
り、初め宋に仕へ、宋亡びて復仕へず、唐虞より  
南宋に至る、典故を研究して、文獻通考の大著を  
なせり、

バートリアトラ 華子城(巴達弗) Pat-  
liputra. パトナを見よ

ハチツラ 哈出刺 蒙古哈不勒汗の兄にし  
て、有名なる帖木兒七世の祖なり、

ハチオーノラン 八王の亂 晋の惠帝の  
時、汝南王亮權を專にしてり、楚王暭、趙王倫、齊  
王冏、河間王顒、成都王穎、長沙王乂、東海王越

阿輪迦王が千餘の僧を茲に集めて、第三回の結集  
を行へり、

バドマサンババ 蓮生 Padma Sambha-  
va. 印度ウヂャーナの僧なり、西紀七四七年、吐  
蕃に到り、始めて喇嘛教なる一宗教を開く、

パニパット Panipat. 英領印度パンジッア州  
の一市なり、西紀一五二六年、莫臥兒朝のバーベ  
ルが、ロザー朝を破り、一五五六年、マールの  
子アクマルが、印度阿富汗聯合の兵を破りたる古  
戰場とす、

ハノイ 河内 Hanoi(Kesho) 印度支那東  
京の首府にして、一八八二年以來佛國の領する所  
となれり、

バハツール 冒頓 Bahatur 漢初匈奴の  
單于なり、東は東胡を斥け、西は月氏を破り、大  
に其疆土を擴む、嘗て南下して高祖を白登に圍み、  
歳幣を納れしむ、

ハバン 巴蠻 今の清國四川省重慶府附近の

地に居りし蠻族にして、秦の興るに及んで征服せらる、

パハン 嫫皇(婆鳳、蓬豊、彭亨) Paha-

ng. マライ半島の東岸の一州なり、

ハバロフ Khabarov ロシアの探險家なり、

西紀一六四七年來、シベリアの探險に従事し、雅克薩城を占領し、ハバロフスクを建設したり、

ハフル 哈不勒 蒙古の祖先にして、哈出

刺の弟なり、不兒罕山の邊に遊牧し、始めて汗を稱したり、

バベル Baber 印度莫臥兒帝國の建設者に

して、アフサイドの孫なり、國を失つてカブールに

徙り、兵力を養ひ、西紀一五二六年、パンツァア

に攻入り、ロダー朝を敗り、其子アクバルと印度

に還り、アム河よりガンガ河までを平定せり、

ハミ 哈密 内蒙古にあり、西域に通ずるの

要路に當り、明に哈密衛あり、

ハミール 波迷羅 Pami. 中央アジアの

丁の子なり、位に即きて都を殷に遷し、先王の政

に従ひ、百姓を治め、諸侯來朝し、殷道また揚れ

り、

バンコク 盤谷 Bangkok. 暹羅國湄南河

の下流に位する大都會なり、西紀一七七八年來、暹

羅の國都となる、

パンジャブ Panjab (Pañca-nada) 印度

の西北部、インドス河の上流地方なり、

パンジェルマン 文郎馬神(文狼) Ban-

djermassin. ホルネオの東南の地名なり、今テ

ンマルクに屬す、

バンドラン 賓瞳龍 Pandarang. 眞臘

國の一都府なり、今の安南柴棍附近に當る、

○ハンショウ 班昭 東漢の女學者にして、彪

の女、超の妹なり、夫賈世叔の死後、寡居し、勅

書を大成し、和帝に信任せられて、皇后以下の師

高原にして、アフガニスタンの東北にあり、

ハンアイザン 抗愛山 今の清國外蒙古に

在り、突厥の木汗可汗が牙を立て、號令したる

所なり、

ハンカ 彭家 Banka. マライ群島の一に

して、スマトラ島とホルネオ島との間にあり、

ハンガク 潘岳(安仁) 晋代の文人なり、

仕へて、給事中、黃門侍郎たり、辭藻を以て名あり、

晩年讒に死す、

ハンクワイ 樊噲 屠狗を以て業とす、沛公

に従ひ、諸方に戦ひ、鴻門の會、項羽、沛公を殺

さんとせし時、楯を持して入り、沛公事なきを得

たり、後舞陽侯に封ぜられ、惠帝の六年卒す、

○ハンコ 班固(孟堅) 東漢の學者にして、超

の兄なり、能く文を屬し、詩賦に長ず、父の志を

嗣ぎて、前漢一代の史を編す、漢書是なり、永元

の初め竇憲に従ひ、匈奴を征して利なく、座せら

れて獄に死す、

となる、

ハンスイ 范雎(叔) 戰國の名士なり、秦の

昭王に事へて、客卿となり、遠交近攻の策を勧め、

用ゐられて丞相となり、應侯と號し、秦に死す、

ハンチアウ 杭州 Han-chau. 清國浙江

省の首府にして、錢塘江岸にあり、西紀一八九五

年、馬關條約によりて開きたる五港の一なり、

ハンチューエン 范仲淹(希文) 宋代の賢臣

なり、仁宗に仕へて、參知政事に進み、施政見るべ

きもの多し、青州に客死す、文正と諡す、

ハンチョウ 班超(仲升) 東漢の名將にし

て、彪の子なり、明帝の時、西域に使し、頗りに

功を樹て、西域五十餘を服し、西域都護に任ぜら

れ、十餘年洛陽に歸り、一月にて卒す、

ハンツェンライマ 班禪喇嘛 黃教喇嘛に

して、宗喀巴の次高弟なり、拉撒の西、札什倫布

に居り、達賴喇嘛と黃教喇嘛を分管す、今尙其後

をつぎ、班禪喇嘛と稱す、

ハンテンリ Khan-Tengri. 天山を見よ、  
ハントシヤ 龐迪我 Pantoja. 西班牙の  
エスイタ派の宣教師にして、明の萬曆二十九年、  
利瑪竇等と北京に入り、神宗の信任を得、布教の  
傍ら西洋文明を輸入せり、

ハンヒョー 班彪(叔皮) 東漢の儒者なり、  
命を奉じて、司馬遷の史記の後を繼述し、未だ成  
らずして死す、其子に超、昭、固の三人あり、皆  
一代の名士を以て稱せらる、

ハンアンコ 范文虎 初め宋の將なりしが、  
異志を抱きて、元將伯顔に降り、罪をさけて、蒙  
古、回紇の軍を併せ、日本を侵し、颯風に遇ひて、  
僅に身を以て免れ歸る、

ハンユー 班勇(宜僚) 班超の子なり、永初  
元年軍司馬となり、後西域の長吏となりて、匈奴  
を征し、屢々邊功を立つ、後事によりて獄に下さ  
れ、家に卒す、

ハンヨー 范雍(伯純) 宋世北京の忠臣な

り、仁宗に仕へて、西夏の李元昊を伐ちて敗れ、左  
遷せられしが、次で許され、禮部尙書を以て卒す、  
忠獻と諡す、

ハンヨー 范陽 唐の郡名にして、即ち幽州  
なり、

ハンヨーコ 鄱陽湖 清國江西省の北部に  
在り、鄱江、錦江、盱江等の水を入れて、楊子江  
に注ぐ、湖畔に九江、南昌等の都會あり、

ハンレイ 范蠡 春秋の名將なり、越王勾踐  
に仕へ、十年は成聚し、十年は教訓し、終に吳の仇  
を報ず、後勾踐の樂を共にする人に非るを知り、去  
つて江湖に遊び、鉅萬の富に達せりと云ふ、

バヤン 伯顔 Bayan. 蒙古巴隣部の人、  
元の世祖に仕へて、宋軍を降し、功を以て中書左  
丞相に任じ、次で海都及び諸王の亂を平定し、世  
祖の死後、大保を加へられ、卒後淮安王を贈り、忠  
武を諡す、

ハユー 馬融 東漢の學者にして、馬援の從

ハリカオ 八里溝 Pa-li-kao. 清國北京  
と通州との間にあり、

ハリフア 哈利發 Caliphate. ムハンマ  
ド教主を云ひ、教義繼續者の意なり、

ハリョー 霸陵 清國陝西省西安府咸寧縣の  
東にあり、故の芷陽なり、

バルク 縛喝(班)必里罕、阿刺黑、班勒  
紇) Balh. ホンドクシ山とオクス河との間  
の地方にして、古のバクトリアの地なり、

バルチア 番兜(安息國) Parthia. 西  
亞細亞地方にアルサクの建てたる國にして、後の  
ヘルシア帝國の種子なり、西紀二二七年ササン朝  
に亡さる、

バルトリハリ 代救呵利 Bhartrihari.  
印度の詩人、超日王の弟なりとも云ふ、

バルハイ 別兒哥 Barhai. 元の朮赤の子  
なり、拔都の遠征に従ひ、拔都の死後、金鞮汗の位  
に上る、治績あり、

ハラヒタイ 合刺乞塔 (Kara-khitai)  
カラキタイ(黒契丹)を見よ、

ハラホチオ 哈刺霍州(哈刺火者、和州)  
Karahodjo. 清國新疆省迪化府の東南附近にし  
て、海都が其子都哇をして、兵を進めしめたる地  
なり、

ハラホルム 黒林(和林) Karahorum.

蒙古の北部、庫倫の西南にあり、元の世祖の北京  
奠都以前、蒙古の都せし所なり、

ハラルヂ 哈蘭只 蒙古の土拉河の上流に  
ある平野にして、蒙古の成吉思汗が克烈部長王罕  
を遊破したる所なり、

バルマ 緬甸 Burma. 英領インド・シナの一大國なり、漢には罽國、唐には驃國、北宋には緬と云ふ、元の世祖之を征し、王をして朝貢せしむ、明の時來貢し、清に至りて一時暹羅を滅せしことあり、後歐洲人の來航するに至り、三たび英國と戦ひ、終に一八八五年全くその併呑する所となる。

パールミキ 跋彌 Valmiki. 印度に於けるラマヤーナの著者なり。

パレンバン 巴林馮(淳淋邦) Palembang. スマトラ島の東岸にある一市なり。

ひ

ヒ 刑 肉刑の一にして足を斬る事なり、漢の文帝の時、之を廢す。

ヒ 鼻 肉刑の一にして、鼻をきる事なり、漢の文帝の時廢せらる。

ビアーサ 毘耶娑(廣博仙) Vyasa.

七如來の一にして、アラマの孫なり、吠陀を編す、

ピアノカルピニ Piano Carpini. イタリ

アのフランシスカン派の宣教師にして、西紀一二四五年、法王イノケント四世の命を奉じて、支那に使し、元のバツを諭し、定宗の王庭に至れり、

ピオーキユー 未央宮 今清國陝西省西安府

長安縣の西北に在り、漢高帝七年これを修營す、

ヒガシトクツ 東突厥 木杆可汗の姪ガザ

の東部を領して立てたる部落なり、後唐の創業を援け、頗る唐を輕んじ、太宗は李世勣、李靖等を

して滅さしむ、

ヒガシローマ 東羅馬(希臘帝國) ローマのテオドシウス帝が、アルカゲウスをして、ローマの東半を領せしめたるに始まり、コンスタンチノプルに都し、紀元三九五—一四五三年間持續し、トルコに滅さる。

ヒカン 比干 殷の直諫の士なり、紂王の暴を極諫して怒にふれ、遂にその殺す所となる。

ビクラマチチア 超日王 Vikramaditya. 西紀六二〇年の頃、北印度の烏菴國に出でたる王にて、屢々嚙噬を破り、印度の黄金時代をなせり、

ビクトリア・バン Victoria Bay (Peter the Great B.) 日本海に面せる西比利亞の一大灣なり、浦鹽斯德は其中にあり、

ビサヤ 毗舍耶 Visaya. 印度ビンダア

山南にありし一國にして、一五六〇年の頃、回教徒に滅さる。

ヒシ 非子 舜の臣、伯翳の裔にして、周の

孝王の時、伯に封ぜられ、秦國の基を開く、

ヒシ 微子(啓) 殷帝乙の子にして、紂王の庶兄なり、紂の淫亂甚しきを見て、屢々諫めしも聽かれず、去つて周の武王に歸し、紂の子武庚の後をうけて、殷祀を續ぐ、

ビシバリク 別十八里(北庭都護府、回鶻

五城(鼈思馬) Bishbalik (Cumtisi)

清國夫山北路の首都にして、元の世祖の時置かれたる、ビシバリク元帥府のありし所なり、

ヒシヨカン 秘書監 秘書省の長官にして、後漢桓帝始めて之を置き、經籍、圖書、古今文學の異同を考合する事を掌る。

ヒスイ 肥水 清國安徽省鳳陽府壽州東に在り、西紀三八三年、晋の謝石、謝玄が秦の苻堅の大軍を撃破したる所なり、

ビスカイノ Viscaino. イスパニアの航海家なり、日本にも來りその日記あり、一六一五年卒す、

ビセンオー 美川王(乙弗) 高麗第十五代

の王にして、咄固の子なり、

ヒタイ 契丹 キツメンを見よ、

ヒダスベス Hydaspes. 印度パンジッアなるインドス上流の一支なり、アレクサンデル大王

印度を征せんとして、此河を渡れり、

ヒツ 邲 今の清國河南省開封府鄭州に在り、  
晉の景公三年、楚と晉との大戦せし所なり、(春秋  
五大戦の一)

ヒツゴ 畢公(叔高) 周の文王の庶子にし  
て、武王の時、畢に封せられ、成王の時、司馬とな  
りて、政を輔佐し、成王卒し、康王を輔け、成康  
の良政を致せり、

ヒトリーントー 非東林黨 明末、顧憲成  
等の起したる東林書院の意見に反對するものを云  
ひ、東林黨と連りに相排斥し、黨争甚しかりしが、  
熹宗の時、宦官魏忠賢と結托して、一時勢を得し  
も、思宗の時に至りて衰ふ、

ピナン 檳榔 Pinang (Georgetown)  
マライ半島の北端にある一島なり、明の商船に  
に交通せり、

ピニョー Pigneaux de Bataine. フラン  
スの宣教師にして、安南に布教中、一七八五年、  
安南王阮福映の請を入れて、フランスの援軍を求

ピンエツ 閩越 越王勾踐の後にして、今の  
福建の地に建てられたる國なり、吳楚反亂の時、漢  
に叛し、東甌を破り、南越を伐つ、漢の武帝兵を  
發して來り攻む、王弟餘善、王を殺して、漢に降  
り、東越王に封せられ、閩越の地を領す、

ピンエツオームシヨ 閩越王無諸 越王勾  
踐の後にして、漢の封爵を受けしが、吳楚叛亂の  
時、吳王濞の子駒を入れて、東甌の仇を撃ち、勢  
に乗じて、南越を伐ち、終に漢と兵を交へ、其弟  
餘善に殺さる、

ピンエツオーヨセン 閩越王餘善 無諸王  
の弟にして、兄が漢と兵を交ふるを見て、終に兄  
を殺して、漢の武帝に降り、賞せられて東越王に  
封せられしが、後南越の叛に通じ、誅に服す、

ピンオー 濬王(地) 田齊第五代の王にして、  
宣王の子なり、宋を滅ぼして驕色あり、燕の昭王  
に攻められ莒に奔り、楚將淖齒に殺さる、

ピンコー 閩江(建江) 福建省を横流する本

め、福映をして恢復の業を完ふせしむ、一七九九  
年軍中に死す、

ヒバ 基華 Khiva. トルキスタンの一州  
にして、アラル海の南、中央アジアに在り、往昔  
ヒマ汗國のありし所にして、西紀一八七三年以來、  
ロシアの侵略する所となる、

ヒマラキルチ 昆摩羅詰(維摩詰) Vima-  
lakirti. 印度バイサリの人、釋迦牟尼と同時  
に生る、

ヒマラヤ 喜馬拉亞 Himalaya. 支那  
人の所謂雪山にして、西藏高原の南境を劃する世  
界最高の山脈なり、山上積雪、氷河絶ゆる事なき  
を以て、東洋文明の分立をなさしめたり、

ピン 閩 今の清國福建省の別稱にして閩越  
國の領せし所なり、

ピンエイヨク 閩泳翊 朝鮮閩氏の一族にし  
て、事大黨の領袖なり、明治十七年甲申の亂の際、  
大臣たりしが、朴泳孝、金玉均等に襲はる、

省第一の巨流なり、

ピンシ 閔氏(明成皇后) 朝鮮今上の  
皇后にして、驪城府院君閔致祿の女なり、英明にし  
て政治に参りしが、明治廿七年王城騷擾の際、誰  
人にか弑せらる、

●(驥興大夫人) 朝鮮大院君李昱應の妃に  
して、今上陛下の生母なり、

ピンチア 頻閣邪 Vindhya. インドの  
中央を東西に横される山脈なり、

ピンテイ 愍帝(業) 西晋第四代の帝にし  
て、武帝の孫、懷帝の從子なり、懷帝漢兵に執へ  
られし時、長安に即位せしが、劉曜に攻められて  
出で降り、次で殺さる、

●閔帝(從厚) 五代唐第三代の帝にして明  
宗の第五子なり、明宗の養子李從珂叛し、王師伐  
て利あらず、洛陽陥り、衛州に逃れて、弑せら  
る、

ヒンツキョー 溫都教 Hinduism 婆羅



門教が佛教の影響を受けて、改良發達したるものにて、西紀八百年の頃、南羯羅阿蘭梨等の盟が大成し、是より佛教を壓倒して、盛んに行はれ、現今全印度にわたる、

ヒンツークシ Hindukush. 中央アジアのイラン高臺をなせる大山脈なり、

ビンヒ 閔妃 閔氏(明成皇后)を見よ、

ビンビサラ 頻毗娑羅(頻婆娑羅) Bim-bisara(Bimbisara.) ラーシヤグリハに都せし

マカダ王なり、釋迦牟尼に歸依し、ベヌバナ園を捧ぐ、後に其子アツタサトルの爲めに弑せらる、

ピンホア 平化 Pinhoa. フンニシメの南部、サイゴン港の北に當る都會なり、

ビヤクサイ 百濟 所謂三韓の一にして、鄒牟王の子、溫祚の建國なり、今の忠清、全羅兩道を領し、北漢山に都す、神功皇后四十六年、始めて我國に朝貢し、爾來我の保護を受けしが、三代義慈王に至り、唐將蘇定方に滅さる、

ビヤクヂョーノコト 百丈の高塔 大月氏の迦膩色迦王が佛教弘布のため、ゾルシアアラ城に建てし高塔にして、當時世界第一の高塔たりしが、今は崩壞してなし、

ビヤクリケイ 百里奚 秦の大夫なり、年七十餘にして、穆公に贖はれ、其友蹇叔と共に公を輔佐し、霸を稱せしむ、

ヒョーイ 馮異(公孫) 東漢光武の大業を輔けたる人なり、光武即位の時、陽夏侯に封ぜられ、征西大將軍に拜し、槐菴を伐ち、軍中に卒す、

ヒョーウンザン 馮雲山 廣西の人なり、長髮賊の亂に、逆賊秀全と往來し、頑民を迷ぼす、後桂平に至るの途に滅さる、

ビョーエツ 苗越 古代支那本部に在りし人種にして、漢人の移殖と共に、次第に支那の南部に逐はれ、雲南、貴州の諸省より安南、暹羅等に住す、其の文化、其の勢力共に東洋史上の大立物に非ずして、常に被征服者の位置に立てり、

ヒョーシサイ 馮子材 清の武將なり、光緒十一年清佛戦争の時、一軍を率ひて、南關に向ひ、佛將ドネグリエーを諒山より撃ち退け、次で停戦の命に接せり、

ヒョーチン 馮沈(少青) 西晋武帝の寵を得て、御史中丞に拜し、侍中に遷る、太康七年歿す、

ヒョードー 馮道(可道) 五代の文臣なり、後唐の四帝、晋の二帝、遼の一帝、漢周各、二帝合計五朝十一君に歴仕し、國の存する時は祿位を保つ事のみ考へ、興亡運を接するの時代に於て、常將相師傅の位にありたるは破廉耻漢と云ふべし、

ヒョーバツ 馮跋(文起) 漢人にして後燕の將なり、後燕を滅ぼし、龍城によりて、北燕を興し、民心を收め、宋の元嘉七年卒す、

ヒョーホーセイ 馮奉世 漢の武將なり、武帝の時、西域を巡撫し、莎車の叛を征して功ありしも、議者ありて、光祿大夫に止りしが、後典屬

國に進み、關内侯に封ぜられて卒す、

ヒラ 于羅 Hira. アツア土耳其のエウフラト川の中流にある一港なり、紀元第二世紀頃、東西兩洋の貿易盛にして、支那船も入港せり、

ヒラコー 皮羅閣 唐代南詔の酋長にして、雄略あり、五詔を兼併し、唐の封冊を受けて、雲南王となりしが、後事によりて唐を怨み、吐蕃と通じて、四川、貴州に寇し、勢盛大を極む、後七年にて卒す、

ビルマ 緬甸 バルマを見よ、

ピロス 卑路斯 Pythos. 波斯サ、ン朝最後の王にして、ホラッサンの地を保ちしが、トルコに攻められて、敵する能はず、西紀六六一年唐に降る、

ピワキ 琵琶記 支那四大奇書の一にして、元代南曲の冠たるものなり、元の高則誠の著とす、

ふ

フヤ・タン Phaya Tak. 鄭昭を見よ

フヤ・チャクリ Phaya Chakri. 鄭華を見よ

フイ 武威 今の甘肅省涼州府にして、漢の武帝の時置かれし、河西四郡の一なり、

フイツ 武乙 殷第二十五代の帝にして、庚丁の子なり、都を亳より河北に移す、河渭に獵して、雷に遭ふて震死す、

フイノ・ワザワイ 武韋の禍 唐の高宗多病なるを以て、皇后武氏朝政を執り、帝の崩後唐の宗室貴戚數百人を殺して、政治を亂せり、武后の崩後、中宗の皇后章氏また政治に預り、中宗を弑し自ら政を專にす、以上二后の禍を武韋の禍と稱す、

フリピン 菲律賓 Philippine. マニラ

諸島中の一群島にして、西紀一五二年、西班牙人マゼランの發見にかゝり、後西班牙王フィリプ二世の時に至り、王の名によりて菲律賓と名け、馬尼刺を首府として、貿易を營み、西班牙領東洋貿易の中心となる、近年西米戦争の結果、米國の領有に歸せり、

フルガナ 怖桿 Ferghana 露領トルキスタンの一州なり、古への大宛の地に當る、

フルベースト 南懷仁 Verbiest, Ferdiand. エスイタ派の宣教師にして、ベルギー人なり、西紀一六五九年支那に入り、基督教の布教に従事し、清の聖祖の親任を得て、欽天監副に任ぜられ、西洋學術の弘布に貢獻せし所多し、

フオー 武王(發) 周初代の王にして文王の子なり、諸侯を率ひて東征し、紂を牧野に敗り、終に天子の位に即く、海内始めて治り、人民漸く安んず、

武王(蕩) 春秋戰國秦第二代の王にして、

惠文王の子なり、嘗て孟詵と鼎を擧げ、傷を蒙りて卒す、

武王(武藝) 渤海第二代の王にして、祚榮の子なり、父の業を繼ぎ、地を今の韓國の平安、咸鏡二道及び吉林、盛京に開き、又日本と交通せり、

フカン 巫咸 殷の賢臣なり、太戊王に仕へて、相となり、伊陟、臣扈と共に政を輔け、天下泰平にして、諸侯來歸せり、

フキ 傅毅(王中) 後漢の明帝、章帝に歴仕し、郎中に拜せられ、班固、賈逵と共に校書を典す、又能く文を屬し、その著多し、

フキ 武舉 唐の武后の長安二年、始めて設置せられし武官の登庸法にして、兵部之を掌り、馬槍、翹關、負重、身材等の選によりて、驍勇材藝あるものを取れり、

フクー 不空(阿目佉跋折羅、不空金剛) Amogha (Amoghavajra.) 唐代の高僧な

り、年十五にて金剛智に師事し、開元二十五年印度に入りて、諸國を歴遊し、經典を集め、天寶中唐に歸り、智藏國師の號を賜はる、代宗の九年寂す、

フクエイ 福映 阮福映を見よ、

フクオー 福王(由松) 明毅宗の從弟なり、毅宗北京に敗死するや、王は南走し、史可法等に擁立せらる、翌年清軍揚州を屠り、南京を陥れ、王遂に清軍に執へらる、諡して安宗といふ、

フクギシ 伏羲氏 支那古代三皇の一にして、始めて八卦を劃し、又網罟を結びて、佃漁を教えたりと云ふ、其の世系年代共に明ならず、

フクケン 服虔(子慎) 東漢の儒者にして、河南滎陽の人なり、孝廉に擧げられ、中平の末、九江の太守に任ぜらる、春秋左氏傳解等の著書世に行はる、

フクケン 福建 Fuh-ken. 支那十八省の一にして、西は江西に接し、南は廣東に境し、

北浙江に連り、東は遙に海を距て、臺灣と相對し、首府を福州と云ふ。

**フクケン** **カンタイ** **福建艦隊** 清の西洋各國と戦を交へてより、設けられし所にして、福建水師の許に屬す。

**フクコー** **福皎** 安南の世祖福映の子なり、佛蘭西の宣教師を虐待し、又は殺戮して、佛軍の征戦を蒙れり。

**フクコーアン** **福康安(瑤林)** 清の名臣なり、乾隆二十三年侍衛に拜せられ、次で定西將軍に遷り、臺灣の逆賊林爽文を平げ、廓爾喀を征し、六十年軍に卒す、文藝と諳す。

**フクシン** **福信** 百濟の王族なり、義慈王の唐軍に殺さるゝや、福信回復を計らんとし、日本の援軍を乞ひしが、軍敗れて國亡ぶ。

**フクシユ** **福州** フーチアウを見よ。  
**フクシヨ** **伏勝** 前漢の儒者なり、書經は秦火に遭ひてより亡びたりしを、伏勝口づから二

十編を祖籍に傳へ、其學を張生に授けたり、之を今文尙書とす。

**フクネイ** **福寧** フーニンを見よ。  
**フクワン** **武關** 今の清國陝西省南州府の東に在り、西域に通ずるの要處に當る。

**フケン** **巫賢** 殷の賢臣にして、巫成の子なり、王祖乙の相となり、紀綱また大に振へり、關中に在りて、大に國政を治めたりしかば、秦の勢漸く盛なり、桓温來り攻めしむ、却つて敗れ退く、明年殂す。

**フケン** **符堅(永固)** 健の子なり、兄生狂暴にして、誅殺を恣にせしかば、堅恐れて生を弑し、自立して秦王となり、前燕を滅し、前涼、代を併せ、勢に乗じて、晋を伐ち、肥水に大敗して歸り、部將姚萇のために弑せらる。

**フケンコ** **武元衡(伯蒼)** 唐の賢臣なり、

德宗、順宗、憲宗に歴仕し、劍南、西川の節度使となり、臨淮郡公に封ぜられ、尋で朝に入り、政に參し、正を持して敢て違附するなし、承宗の時射殺さる、忠愍と諡す。

**フコ** **蕪湖 Wu-hu** 清國安徽省太平府に在り、揚子江に臨める開港場にして、西紀一八七八の開放にかゝる。

**フコー** **苻洪(初蒲洪)** 前燕の將なり、姚弋仲と互に關中に據らんとし、相争ひしが、終に弋仲を破り、大都督、大將軍、大單于と稱し、姓を符と改む、既にして其下に殺さる。

**フコ** **傅恒** 清の名臣なり、高宗に仕へて大學士たり、乾隆十三年命を受けて、金川の賊を伐ち、後三十三年緬甸を征し、金沙江に至りて、大に敵兵を敗り、師を班せり。

**フコー** **武庚** 商王紂の子なり、紂、周の武王に滅されし後、諸王に封ぜられて、商の祭祀を行ひしが、後成王の時、叛を謀りて誅せらる。

後、高宗の宮に入りて、皇后となり、高宗多病なるに因りて、政を決し、皆旨に稱ひしかば、大權悉く其手に歸し、天后と稱し、中宗、睿宗を廢立し、國號を改めて周と云ふ、所謂則天武皇なり。

**フサ** **夫差** 春秋の吳王にして、闔閭の子なり、薪に臥し膽を嘗むること三年、南越を征して、勾踐を會稽山に降し、黃池の會盟をなせしが、勾踐に虚に乗せられて敗死す。

**フサン** **釜山 Poo-san** 朝鮮國慶尙道に在る開港場にして、文祿の役小西行長の上陸せし所なり、是より後對島の宗氏との交易場となる。

**フサンシ** **武三思** 唐の姦臣にして、武后の姪なり、武后の太子たらむを求めて得ず、後宮禁に入して、韋后と通じ、大權韋后と三思とに歸し、專恣極まりしが、李多祚に殺さる。

**フシノラン** **武氏の亂** 唐の太宗の才人武氏は、太宗の殺役、尼となりしが、高宗の時髪を

後、高宗の宮に入りて、皇后となり、高宗多病なるに因りて、政を決し、皆旨に稱ひしかば、大權悉く其手に歸し、天后と稱し、中宗、睿宗を廢立し、國號を改めて周と云ふ、所謂則天武皇なり。

**フサ** **夫差** 春秋の吳王にして、闔閭の子なり、薪に臥し膽を嘗むること三年、南越を征して、勾踐を會稽山に降し、黃池の會盟をなせしが、勾踐に虚に乗せられて敗死す。

**フサン** **釜山 Poo-san** 朝鮮國慶尙道に在る開港場にして、文祿の役小西行長の上陸せし所なり、是より後對島の宗氏との交易場となる。

**フサンシ** **武三思** 唐の姦臣にして、武后の姪なり、武后の太子たらむを求めて得ず、後宮禁に入して、韋后と通じ、大權韋后と三思とに歸し、專恣極まりしが、李多祚に殺さる。

**フシノラン** **武氏の亂** 唐の太宗の才人武氏は、太宗の殺役、尼となりしが、高宗の時髪を

蓄へ、宮に入り、帝寵を恣にする、帝風眩を病むに及び、政務を裁断し、中宗、睿宗を廢立し、尋で自ら周の聖神皇帝と稱し、多く大臣を誅戮す、既にして病歿し、中宗遂に位に復せり、

フシユク 夫椒 清國江蘇省常州府無錫縣太湖濱に在る山にして、春秋五大戰の一なる吳越の大戦ありし地なり、

フシヨウ 武昌 Wu-chang. 清國湖北省の首府にして、漢江と揚子江との合流點にあり、漢江と相對し、開港場なり、

フズオルダ 骨斯訛魯朶 Huzorda. 中央亞細亞のチャー河上に在り、西遼の德宗の都せし所なり、

フセイ 苻生 前秦の苻健の第三子なり、狂暴にして誅殺を恣にし、人民大に怨む、弟苻堅の爲めに弑せらる、

フセイシ 布政司 明の地方廳にして、太祖の時各省に置かれ、一省の財賦を掌る所たり、

清も亦此の制あり、

● 布政使 布政司の長官にして、一省の財政を掌り、朝廷、德澤禁令あれば、承流宣播して、以て有司に下す、

フセイテイ 武成帝(湛) 北朝齊第四代の帝にして、高洋の弟なり、初め長廣王たりし時、常山王演と謀りて、權臣楊暉を殺し、演の後に自立せり、

フソ 扶蘇 秦の始皇帝の長子なり、帝が咸陽の儒生を坑殺せんするを諫めて、怒りにふれ、出されて、蒙恬の軍を監す、帝の死後、宦官趙高、丞相李斯の謀にか、り自殺す、

フソ 武宗(炎) 唐第十五代の帝にして、穆宗の子、文宗の弟なり、文宗の崩後、宦者に擁立せられ、英邁にして澤潞の叛を平げ、天下無事を致せり、

● 武宗(海山) 元第七代の帝にして、世祖の曾孫答剌麻八剌の子なり、即位の初めなほ海都

の兵力強かりしが、海都死して、欽察汗内附し、篤睦察八兒皆和を請ふ、

● 武宗(厚照) 明第十一代の帝にして、孝宗の子なり、小人を近づけ、宦者劉瑾に惑はされ、政治を顧みず、安化王眞鐸先づ叛し、寧王宸濠次で兵を擧げ、天下頗る多事なりき、

フソクン 武宗訓 唐の姦臣武三思の子にして、安樂公主の婿なり、左衛中郎將を授けられ、鎬國公に封せられ、専横なり、後父と共に節愍太子に殺さる、

フダガヤ 佛陀迦耶 Buddha Gaya.

今の英領印度パトナの南ガヤの西北に在り、釋迦四大靈場の一にして、三十六歳の時、成道せし所なり、

フタン 潤端 Khutan. カタンを見よ、

フチアウ 福州 Fu-chau. 清國福建省の東岸に位する本省の首府なり、南京條約によりて開かれたる五港の一にして、商業盛なり、

フチアチン Poutiatine. 露國の公使にして、西紀一八五九年、英佛聯合軍の時、支那との間に奔走して、天津條約を結ばしめたり、

フチャルク 屈出律 Khitchluk. カチャルクを見よ、

フッキョウ 佛教 Buddhism. 西紀前第五世紀の頃、印度にて釋迦牟尼の唱へし宗教なり、何人も能く邪念を去り、世間的繫縛を脱離せば、未來は必ず無限の幸福を受くべしと云ふに在り、夙く印度に擴まり、四方に弘通し、世界最盛の一大宗教となれり、

フッキョーノナンボクニハ 佛教の南北二派 又大乗小乗とも稱し、阿育王の第三回の結集を證典として、第四回の結集に加らざりし河南の佛教を小乗とし、錫蘭を中心として、緬甸、暹羅、等に傳はり、第四回の結集に加りしものは、之を大乘として、罽賓を中心とし、天山南路を經、支那、日本、朝鮮等に弘布せり、

フッキョーハッシー 佛教八宗 唐代に隆盛なりし八宗を云ふ、左の如し、  
 (宗名) (支那の起り) (日本に傳來)

律 三國の末 孝謙天皇の世  
 三論 東晋の末 推古天皇の世  
 淨土 右同 (我國の淨土と無關係)  
 禪 梁代 後鳥羽天皇の世

天台 陳代 桓武天皇の世  
 華嚴 右同 桓武天皇の世  
 法相 唐太宗の世 齊明天皇の世  
 眞言 唐玄宗の世 桓武天皇の世

フッコクキ 佛國記 東晋の末、法顯がインドに入り、セイロンに赴き、南海を経て、佛典を求めたる時の數年間の紀行なり、  
 フテイ ① 武丁 殷第二十一代の帝にして、小乙の子なり、甘盤、傅説等の諸賢を得、鬼方の地を伐ち、殷道復興るを得たり、  
 ② 武帝(徹) 西漢第五代の帝にして、景帝の

子なり、位に即きて、始めて年號を立て、儒學を興し、學者、文人輩出す、又諸將を任じて、地を四方に拓き、使を外國に遣はして、國威を耀かし、疆域漢初に倍す、晩年人民征伐に苦しみ、財貨頗る窮し、帝詔を發して、前政を悔ひ、天下事なきを得たり、

③ 武帝(操) 曹操を見よ、  
 ④ 武帝(炎) 西晋の始祖にして、司馬昭の子なり、魏の元帝に迫りて、位を禪らしめ、意を國治に注ぎしが、吳を滅して以來、内は遊宴に耽り、外は州郡の武備を徹せり、  
 ⑤ 武帝(裕) 南朝宋の始祖にして、初め晋に仕へ、安帝を輔けて、軍事大都督となり、河内の地を略し、長安に入りて、後秦を滅ぼし、建康に還りて、安帝を弑し、恭帝を立て、尋て其禪を受く、

⑥ 武帝(賸) 南朝齊第二代の帝にして、高帝道成の子なり、聰明にして能く斷ず、在位の間、

海内善く治まり、晩年には蕭鸞に政を委せり、  
 ⑦ 武帝(衍) 南朝梁の始祖にして、齊の疎族蕭懿の弟なり、齊の和帝を擁立し、尋て其禪を受け、侯景の降を容れ、江南久しく無事にして、武備全く廢る、又佛教を信じて、仁慈の政多し、後侯景叛し、景を大丞相となし、和を結びしも、幾ならずして憂憤を以て死す、

⑧ 武帝(霸先) 南朝陳の始祖なり、王僧辨等と兵を擧げて、梁の侯景の叛を平げ、蕭方智を立て、梁主となせしが、三年にして位を篡へり、  
 ⑨ 武帝(邕) 北朝周第三代の帝にして、孝愍帝覺の弟なり、權臣宇文護を殺し、釋老の教を禁じ、淫祀を去り、妃嬪を省きて、大に其政を改め、國勢大に盛なりき、

フトー 苻登 晋王苻堅の族子にして、安南に在りしが、堅の子丕の死をきいて帝と稱し、屢、後秦を撃ち、後秦主苻萇死し、其子興立ちて、又興と争ひ、利あらずして、興に殺さる、

フトジョー 浮圖城 今の清國新疆省迪化府の東なる濟木薩にして、西突厥の葉護可汗が此地を以て唐に降り、庭州としたる所なり、

ブドチンガ 佛圖澄 Buddha-ching-a. 印度の僧にして、後趙に來りて、石勒、石虎に尊信せられ、佛教ために大に隆盛を致せり、長壽を保ちて、鄴宮寺に寂す、

フーニン 福寧 Fu-ning 清國福建省の一府にして、一八九八年より開港す、  
 フムベン 南旺 Pnom-penh. カンボジアの首府なり、今佛國の保護を受く、  
 フヒ 苻丕 秦の苻堅の子なり、燕の慕容垂と襄陽に戦ひて大敗し、南走して洛陽を取らむとして、果さずして晋の將に殺さる、

フヒツ 富弼(彦國) 宋の名臣なり、神宗に仕へて、同平章事となりしが、王安石新法を行ふに及び、議合はざるを以て、病と稱して相を罷め、青苗法を格して行はざるに坐して、汝州に徙され、

後洛に歸りて老を養ふ、卒する後文中と諡す、

フビライ 忽必烈 Khubilai (Kublai)

世祖忽必烈を見よ、

フマユン Humayun. 莫臥兒國の帝にして、

パベルの子なり、阿富汗人に國を奪はれ、波斯のサフイー朝に依りしが、西紀一五五六年、子アクバルと印度に還り、パニパットの戦に、印度、阿富汗の聯合兵を破り、其年歿す、

フン 匈奴 Hun. キョードを見よ、

フンエンカク 文淵閣 清國皇城文華殿の後

に在り、明には文淵閣大學士を置き、政治の顧問となせしが、後經師を以て尊重を受け、漸く權力を有するに至れり、清に至りて内に四庫舎を作り、四庫全書を藏す、

フンオー 文王(欽茂) 渤海第三代の王に

して、武藝の子、領土を擴めて、忽汗河の東に徙り、上京となす、

● 文翁 西漢景帝の時、蜀郡の太守たり、始

めて蜀に學校を設け、司馬相如の如き文人を出すに至れり、

フンケンツォー 文獻通考 宋の學者馬

貴興(端臨)の著にして、歴代の制度、文物、皆集めて其中に在り、二十四類、三百四十卷、序目を併せて三十八冊あり、

フンゲンハク 文彦博(寛夫) 宋の名臣な

り、西夏主元昊の來寇を防ぎ、其州の王則の叛を平げ、仁宗の相となり、神宗の時、王安石の新法に反對し、市易法を論じ、太子小保を以て卒す、

フンコー 文公(斯) 春秋戰國魏の始祖にし

て、魏桓子の子なり、周の威烈王三十三年封せられて、諸侯となる、

フンコー 文公(重耳) 春秋晉の覇者にし

て、獻公の子なり、難を避けて、諸國に流寓し、秦の穆公の助により、國に歸りて、中國諸國の盟主となり、赤狄を破りて、周室を安んじ、楚の北上を挫けり、

● 文宗(圖帖睦爾) 元第十二代の帝にし

て、武宗の子なり、燕帖木兒に政を委ぬ、在位五年にて崩す、

● 文宗(奕訖) 清第九代の帝にして、宣宗

の子なり、其在位十一年間は長髮賊の亂を以て滿たされ、又英佛聯合軍と事を交え、流賊の亂未だ平定せずして崩す、其年號によりて又咸豐帝と稱せらる、

フンチュォーシ 文中子 王通を見よ、

フンチュォーメイ 文徵明(徵仲) 明代の文人

なり、書に巧にして、又畫を能くす、世人其畫を稱して、趙孟頫、倪瓚、黄公望の體を兼ねたりと評す、嘉靖三十八年歿す、

フンテイ 文帝(恒) 前漢第三代の帝に

して、高帝の子、惠帝の弟なり、専ら仁儉を事とし、肉刑を除き、振窮養老の禮を定め、田租を免じ、宮苑事服一も増益する所なし、

● 文帝(丕) 曹操の子にして、三國魏の始祖

フンシユ 文種(子會) 春秋越王勾踐に仕へ

て大夫となり、范蠡と共に十年は成聚し、十年は教訓したりしが、後勾踐の難を共にし、樂を共にする人に非るを知り、病と稱して朝せず、讒に遭ふて死す、

フンセイテイ 文成帝(濬) 魏第四代の帝

にして、景穆太子晃の子なり、權臣宗愛、太子晃を殺し、尋でまた太子金を殺すに及び、群臣に推されて即位し、宗愛を誅せり、

フンセンテイ 文宣帝(洋) 高歡の子にし

て、澄の弟なり、東魏の位を篡ふて、帝位に即き、初めは心を政治に留めしが、其功業を矜り、宮室を作り、酒色を縱にして、魏の宗室七百人を殘害せり、

フンソ 文宗(昂) 唐第十四代の帝に

して、穆宗の子、敬宗の弟なり、奢侈を斥け、節儉を尙び、宮女を出し、宦官の專横を患ひ、之を誅せんとして果さず、

なり、東漢の天下を篡ひて、帝位に即き、吳を伐たんとして、廣陵に至り、江水の漲るに遭ひ、功なくして歸る、翌年又吳を征し、嘆じて曰く、恠に天の南北を限る所以なりと、終に師を還し、翌年崩す、

◎文帝(義隆) 南朝宋第三代の帝にして、武帝の子なり、魏と屢、事を構へ、悉く諸州を蹂躪され、國政大に衰へ、太子劭を廢せんとして、却て其弑する所となる、

◎文帝(堅) 隋の高祖にして、楊忠の子なり、齊に仕へ、父の爵を嗣ぎて、隋公となり、其女を宣帝に入れて、皇后とし、終に齊の讓を受け、陳を滅ぼし、南北を一統し、心を政治に用ひ、節儉を尚びしが、太子廣に弑せらる、

フンテンシヨウ 文天祥(宋瑞) 宋末の忠臣なり、恭宗の時、元兵入寇す、天祥萬餘人を集めて、募に應じ、命を受けて元軍に使して、執へられしが、終に逃れて眞州に入り、端宗を福州に援け、

しが、藍玉の獄に坐せられて殺さる、

フヨ 扶餘 朝鮮の北に住みし貂種(高句麗)の國にして、其別部は次第に朝鮮半島を南下し、前漢の末に、郡卒なるもの出で、高句麗國を立てたり、

フヨオンソ 扶餘温祚 高句麗の始祖朱蒙の次子にして、事を以て國を逃れ、南の方馬韓に行き、慰禮城附近に百濟なる一部落を立てしが、次第に勢を得て、一國を成すに至る、

フヨホー 扶餘豊 百濟の義慈王の弟にして、我國に質たり、百濟は新羅に滅され、故將福信、義故を糾合し、援兵を我に請ひ、王弟を迎へて王となさんと請ふ、我齊明帝筑紫に幸し、兵を遣せしが、唐軍に白江口に破られ、王は高句麗に奔り、その終る所を知らず、

フラグ 旭烈兀 Khilaghu. 元の太祖の孫拖雷の子、世祖の弟なり、太宗の命を受けて、西征し、西紀一二五八年、バグダードを屠り、アッバース朝を滅ぼし、エジプトに向ひ、アルメニア、ア

又帝昺を立て、匡山に遷りしも、終に敗れて執へられ、大都に送られて、屈せずして、正氣の歌を作り、其志を示す、世祖其材を用ひんとせしもきかず、終に死に就く、

フンフー 文王(昌) 周の武王の父にして、季歴の子なり、天下の諸侯多く歸す、後紂に讒せられ、羑里に囚はれしも、賂によりて免れ、都を豊に定む、

フンフオー 文武王(法敏) 新羅第三十代の王にして、武烈王の子なり、聰明智略あり、唐の援兵を請ふて、百濟、高麗を滅ぼし、後高麗の餘衆を煽動して、叛旗を擧げしめ、唐の高宗と兵を交へしも、終に大事に至らざりき、

フユク 貴由 Khuyuk (Cuyuc.) 定安貴由を見よ、

フユートク 傅友德 明初の功臣なり、初め朱元璋に降り、夏主明昇を攻め、次で雲南を征して、大に其兵を破り、功を以て順國公に封せられ

ナトリアを略して、伊兒汗國の基を開けり、  
フラゴベシチェンスク Blagoveshchensk. シベリアのアムール州の一都會なり、滿洲との交通上の要路に當る、

フラッシー Plasey. 英領印度ベンガル州に在り、西紀一七五七年、英國印度總督クライブが佛國の大軍を此處に撃破し、佛國をして再び印度に手を延ばす能はざらしめたり、

フラバーカラミトラ 波羅頗迦羅蜜多(明友、波頗、光智) Prabhakarimitra. 中印度の沙門にして、刹帝利の階級に屬す、西紀六二七年(唐太宗貞觀元)支那に來れり、又三種の著書を翻譯せり、

フラマプトラ Bramaputra. 印度の三大河の一にして、源を西藏に發し、ヒマラヤ山を迂回して、印度に出で、海に入る、

フラーマン 婆羅門 Brahman. 印度四姓の最上に位し、僧族にして、祭祀、宗教を掌り、

種々の研究をなし、神意を傳ふるにより、最高の權利を有す、然れども其生活は極めて低くして、殆ど乞食同様なり、其の生活を四期に別つ、

(一) 少年時代は宗教其他の學問研究、

(二) 壯には妻を娶り、家をもつ、

(三) 強には山林に入り、仙人に就て難行苦行を行ひ、精神を清淨にし、身を苦しめ、ブラ

ーマに合一する準備をなす、

(四) 老には衆生濟度のために行脚し、政治の顧問となり、最も權力あり、

フラン 呼蘭 Khulan. 滿洲哈爾濱の北方にある一城市なり、

フランク 佛郎機 Franks. 中古に支那人が西洋の耶蘇教國民を呼びたる名なり、

フリルタイ Kurultay. クリルタイを見よ、

フルシアフラ 布路沙布羅 ヘシアワールを見よ、

フルハンザン 不兒罕山 外蒙古肯特山の

一支、必爾喀嶺にして、十三世紀に至り、歐亞に跨る大帝國を建設したる蒙古部の遊牧せし所なり、

フレツオー 武烈王 新羅第廿九代の王なり、英主にして、國力益々張る、嘗て高麗、百濟の聯合軍に遭ひ、兵を唐に求め、大に兩國の兵を破れり、西紀六六一年殂す、

フレツテイ 武烈帝(堅) 孫堅を見よ、

フワリズム 貨利習彌伽 Khwarizm. ホラズムを見よ、

へ

ヘイ 昇 宋最末の帝にして、度宗の子、恭宗の弟なり、歳僅に八歳にして、陸秀夫等に迎立せられしも、元の侵攻益々激しく、崖山の戦に、陸秀夫と共に入水して崩す、

ヘイアンドー 平安道 朝鮮八道の一にし

て、國の西北端に在り、漢の武帝の時置かれたる樂浪郡の故地なり、

ヘイオー 平王(宜臼) 周第十三代の王にして、幽王の子なり、王室益々衰へ、戎狄益々強きを以て、避けて洛邑に遷る、是より諸侯放恣なり、

ヘイカ 兵家 孫武、吳起を祖とし、兵を談じ、戰陣の法に通じ、多く其法を以て、諸侯に仕へ、一時多少の勢ありき、

ヘイキツ 丙吉 漢の名相にして、宣帝に仕へて、御史大夫となり、魏相の死後、丞相に拜し、中興の良政を輔行せり、

ヘイゲン 平原 今の清國山東省濟南府にして、唐玄宗の世、安史の亂の時、この地の太守顔真卿、兵を起して之に抗せり、

ヘイゲンクン 平原君(勝) 趙の庶公子にして、戰國四公子の一人なり、趙の惠文王及び孝成王の相となり、東武侯に封ぜられ、多く賓客を養ひ、其人材多きを誇る、

ヘイシュ 并州 漢の武帝の時置かれたる十二州の一にして、今の山西省の北部に當り、漢代に強大となり、匈奴は劉氏と稱して、此地にょれり、

ヘイジョー 平城 今の清國山西省大同府の東に在り、漢の高祖が匈奴の冒頓單于を征して、大敗したる所なり、

平壤 今の韓國平安道に在り、古の王儉にして、檀氏、箕氏、衛氏の都せし處なり、文祿の役には、國王難を茲に避け、日清戦役には我軍清兵を茲に撃破せり、

ヘイセイ 平西 今の清國雲南省の地にして、清の三藩の一なる、吳三桂の封ぜられし所なり、

ヘイテイ 平帝(衍) 前漢第十一代の帝にして、元帝の孫、中山王興の子なり、年九歳にて即位し、太后朝に臨み、王莽諸政を總攬し、終に王莽に毒殺せらる、

ヘイナン 平南 今の廣東省にして、清の三



藩の一なる尙可喜の封ぜられし所なり、

ヘイブ 兵部 唐制六部の一にして、天下の軍衛、武官の選叙に關する事を掌る、其後歴代概、れあり、其長官を兵部尙書と云ふ、

ヘイブシヨシヨ 兵部尙書 兵部の長官にして、一人を置く、

ヘイヨ 平陽 清國山西省平陽府にして、堯帝及び五胡の一なる漢の都せし所なり、

ヘイリン 平林 清國湖北省德安府隨州の東に在り、前漢の末、王莽の篡奪せし時、平林の兵の起りし所なり、

ヘイリンノツク 平林ノ賊 漢末王莽篡奪の時、荊州の陳牧が起したる義軍の名にして、新市、春陵の兵と合して、劉玄を立て、終に漢室を再興せり、

ヘイレイブン 駢儷文 専ら六朝の時代に行はれし文體にして、一字一句の排偶を論じ、聲韻を講ずるに至り、其弊は刑體のみを論じて、其情

神を問はず、されど灼爛として人目を驚かすものあり、王勃、揚炯、盧照隣、駱賓王は駢儷文の四大家と稱せらる、唐に韓退之出で、所謂八代の衰を興して、駢儷文を退けたり、

ヘイロ 平廬 内蒙古土默特なる營州にして、唐の十節度使の一なる、平廬節度使の鎮せし所なり、河北の三鎮と共に、其勢力最も強くして、河北道の東を領し、終に安祿山の節度使となるに及んで、叛を企つるに至れり、

ヘキテイクワン 碧蹄館 韓國京畿道京城の北に在り、文祿の役、我小早川隆景、明將李如松を逆撃して、大に之を破りし所なり、

ヘキン 北京(燕京) Peking. 清國直隸省順天府の俗稱なり、清國の首府にして、明の成祖永樂元年、奠都以來、明、清の都せし所なり、

ヘトク Pegu. 緬甸のラングーンの東北にある一都邑にして、古ヘパーグ王國の首都たり、ヘンアワール 布路沙市遷(佛樓沙)

を祀るに用ふる歌、

三 耶柔縷吠陀は神に犠牲を供する時と、其儀式を集めたるものにて、第二と同時代、

四 阿他縷吠陀は祈禱、又は咒詛をなす時に用ふる歌にて、西紀前一〇〇〇年頃になる、ヘツラ Pegira. ムハメッド教の紀元にして、ムハメッドが異端と稱せられて、メッカよりメヂナに走りたる西紀六二二年を紀元元年とす、ヘツラとは逃走の義なり、

ベナレス 波奈羅斯 Benares. (Bharā-nasi.) インド教の聖地にして、ガンガ河上にある、

ベハラ 蒲花羅(捕喝)蒲華、亭哈里、卜花兒) Bokhara 露領トルキスタンに在り、西紀一七一七年始めて露人の侵入に遭ひ、一八六八年露のカツフマンに迫まれて、サマルカンドの地を割き、鉅萬の償金を出し、終に其隸屬國となれり、

Pushawar (Puruchapura) 印度の西北部に在り、昔プルシアプラと稱し、大月氏の迦賦色迦王の都せし所なり、

ヘースチンクス Hastings, Waren. 英領印度最初の總督なり、十七歳にして東印度商會の書記となり、一七七四年始めて印度大總督に任ぜられ、第一ネパール戦争、及び前後のマラータ戦争に於て、印度を侵略し、後嫌疑を受けて、彈劾せられ、一八一八年に死す、

ペスト Pesth. ドナツ河の左岸に在る一市にして、匈牙利の都ブダペストの半分を成す、元の太宗の時、拔都、速不台に降さる、

ベダ 吠陀 Vedas. 印度最古の經典にして、四部より成り、婆羅門の誦誦せし所なり、  
一 梨俱吠陀は西紀前二〇〇〇年頃より、神の歌祭式の歌等を不規則に集めたるもの、  
二 娑馬吠陀は西紀前一四〇〇年頃より、一二〇〇年頃の間成りし、印度人が蘇摩の樹

ベン 汴(大梁) 今の清國河南省開封府なり、五代、宋、金の都せし所にして、江南の要地なり、

ベンカン 辨韓 三韓の一にして、今の慶尙道の西南部に韓人の建設したる國なり、西漢の末に、新羅の朴赫居世のために併せらる、

ベンガル 榜葛刺 Bengal. 英領印度ガంగా河の下流に在る一州にして、地味肥え、物産甚だ多し、首都カルカッタは又印度の首府なり、西紀一七六四年の收税權を得てより、總督を置かれ、終に英領となれり、

ベンジダイジン 辦事大臣 清の雍正二年置く所の官にして、西寧府に治して、青海、西藏を鎮撫せしむ、

ヘンジャク 扁鵲 春秋時代の名醫にして、後世稱して斯道の名手となす、

ヘンショウ 遍昭 高麗の恭愍王に仕へたる教僧にして、政權を握にし、其子辛禔は終に高麗

の王位に即く、

ベンハツレイ 辨髮令 清の世祖順治三年、漢人に此令を下し、漢人をして已に服従する證として、盡く辨髮して、滿洲の俗に従はしめ、令に服せざるものは、叛逆を懷くものとして誅戮したり、

ベーンボロ 貝勒博洛 清朝の宗親にして、明の隆武元年清の太祖の命を奉じて、浙江を定め、魯王を逐ひ、福建に入り、終に明の紹宗を擒にせり、

ベンヤシリ 本雅失里 Benyashili. 坤帖木兒の弟なり、亂を避けて、撒馬兒罕に在りしが、阿魯台に迎立せられて、韃靼の可汗となり、明の成祖の招諭を奉ぜず、終に成祖と幹難河畔に戦ひ、瓦剌の部長馬哈木に殺さる、

ベラサケン 別喇薩軍 Belasagun. トルキスタンの吹河附近に在り、回紇のボクラ汗の奠都せし所なり、ヘラット 哈烈(也里、黑魯) Herat. ア

フガニスタンの一市にして、カプールの西三百哩に在り、西紀一八八四年以來、露國展、南下の勢を示すにより、英國は堅固なる砲臺を築きて、之を警戒す、

ベーリング Behring. アシアと北米アラスカ半島との間、約五十哩の海峡にして、西紀一七二八年、露帝ペテロの派遣せし、デンマルクの航海家ベーリングの發見によりて命名す、

ベルカ 別兒格 Barkai. 元の宗族朮赤の子にして、拔都の弟なり、熱心なる回教信者にして、屢、歐洲の耶蘇教徒を苦しめ、歐の十字軍を孛烈兒に破り、旭烈兀を伐ち、功なくして歸り、病歿す、

ヘルシア 波斯 Persia. 西部亞細亞の一獨立國にして、皇帝をシャーと云ふ、沙漠不毛の地多し、本國最初の建設者は、西紀前五三七年キロメにして、其後諸王朝を經、現王朝は一七九五年の建設なり、今は英露の勢力國內に盛なり、

ヘルシアジ 波斯寺 波斯人阿羅本が景教を傳へし時、唐の太宗の建てたる寺にして、高宗の時に至り、諸州にも波斯寺を建てしが、玄宗の末年に改めて、大秦寺と云へり、

ヘロス 卑路斯 Hiruz. ヘルシア王イブデゲルトの子なり、回教徒に國を滅せられ、唐高宗に歸して、回復を計りしが、其目的を達せず、唐に走りて卒す、

ほ

ホイム 卜彌格 Boym, Michael. エスイタ教の宣教師にして、ポーランド人なり、支那に來り、傳導に従事して、明の末此地に卒す、

ホーエツ 彭越 西漢の武將なり、初め項羽に従ひしが、後魏の地を收めて漢に歸し、魏の相國となり、項羽を垓下に破り、漢の天下を定めて後、梁王に封ぜられ、韓信の叛に坐して誅せらる、

**ホーカ 法家** 名を以て形を正すを本とし、天下を治むるには、法術を以てし、仁義を以てす可らずと説き、申不害、これを前に唱へ、韓非これを後に和せり、

**ホーカンド 浩罕** Khokand. 今の露領アツアのフェルガナ州にありし一獨立國にして、

清の高宗の時、和卓木の子孫と兵を合して、回疆を侵略し、道光中、宣宗に年金を入れしめて、和を約せり、

**ボキューケン 母丘儉** 後魏の幽州の刺史なり、魏の命を受けて、高句麗を討ち、遼東の地を攻争せり、

**ホクエン 北燕** 五胡十六國の一にして、後燕の將軍馮跋が、今の内蒙古土默特なる龍城に據りて建てたる國なり、二世二十八年にして、後魏太武帝に滅さる、

**ボクオー 穆王滿** 周第五代の王にして、昭王の子なり、諸賢を用ひ、國內よく治まる、晩年

られ、梁武帝之を除く、隋亦此刑あり、晋の時奴逃亡すれば、墨黥を兩眼に加へ、再亡すれば兩頬上に施し、三亡すれば横に目の下に黥す、長さ各一寸五分とあり、

**ボクコー 穆公** 戰國秦第九代の侯にして、五霸の一人なり、兵を中國より歛め、専ら西戎を征して、地を西に拓き、内政の改良と、國力の増進とに力め、秦強大の基をなせり、

**ボクシ 墨子(翟)** 先秦の諸子なり、宋の大夫人にして、孔子より少し後れ、子思より稍、先に出で、天下騷亂の世に出で、兼愛の説を唱へ、天下に遊説すること甚力む、後世其流をくむものを墨家と稱す、

**ホクシ 北史** 唐の李延壽が後魏、齊、周の諸史の煩雜を變へて、北朝を一貫して論じたる史書なり、全部百卷より成る、

**ホクシンシヘン 北清事變** 明治三十三年、義和團と稱する暴徒、山東より起り、直隸に入り、

驕恣の念を生じ海内を周遊し、犬戎を征して威信を失へり、

**ボクカ 墨家** 墨翟を祖とす、其説天は知且つ貴にして、天地萬物を主宰し之を兼愛する者なれば、人も之を敬愛せざる可らずと云ふ、儒墨並び稱せらる、

**ボクカクキョセイ 朴赫居世** 新羅の始祖なり、父を蘇公伐と云ふ、大徳あり、年十三にて君となり、高墟の村長より、六部に推載せらる、

**ホクカン 北漢** 五代の傍國にして、周が漢に代りし時、劉知遠の弟、劉崇が河東によりて建てたる國なり、四代三十一年にして、繼元の時、宋に滅さる、

**ホクカンザン 北漢山** 韓國京畿道京城の北三角山に當り、百濟の近肖古王が高句麗の故國原王を殺し、都を是に移して對抗したる所なり、

**ボクケイ 墨刑** 入れ墨の刑罰なり、支那に古くより有り、漢の文帝の時廢す、宋の時又用ひ

清兵の之に應ずるもの多く、終に京師に入り、列國の公使館を攻撃す、日英米露獨佛伊奧八國の兵聯合して、公使館を救ふ、清帝、皇太后は難を避けて、西安に奔り、慶親王、李鴻章を留めて、和を請はしめ、元兇を誅し、謝罪使を出す事を約し、卅五年の初めに至り、兩陛下の還幸ありて、事全く治まる、

**ホクシュ 北周(後周)** 北朝の第三にして、西紀五五七年、孝閔帝覺が西魏の禪を受けて建てたる國なり、漢水、湘江以西の地を領し、五代二十五年にして、靜帝の時、太后の父楊堅に禪る、

**ホクセイ 北齊** 北朝第二にして、西紀五五〇年、文宣帝洋が東魏の文宣帝の禪を受けて、建てたる國にして、江北一帯の地の占め、三傳して帝緯に至り、國政大に亂れ、終に北周の武帝に滅さる、時に五七七年なり、

**ホクセイシヨ 北齊書** 唐の李百藥の撰にして、五十卷あり、北齊一代の正史なり、

ホクソ ① 穆宗(恒) 唐第十二代の帝にして、憲宗の子なり、宦者に擁立せられ、皇甫鎛を斥け、道士を殺す、既にして聲色を縦にし、紀綱を修めず、在位四年にして崩す、

② 穆宗(載庵) 明第十三代の帝にして、世宗の子なり、時に倭寇息み、淹答は明の封冊を受く、在位六年にして崩す、

③ 穆宗(載淳) 清の先帝にして、文宗の子なり、即位の時、長髮賊の亂あり、在位十三にして痘を病んで崩す、同治は其年號なり、

ホクソハ 北宗派 繪畫の一派にして、唐玄宗の時、左武衛大將軍李思訓の創むる所なり、思訓は唐の宗室にして、好みて金碧の山水を作る、筆格適勁なり、宋元を通じて、大に行はれ、足利時代に我國に傳はる、

ホクチヨ 北朝 後魏、北齊、周の三代に隋の未だ陳を併せざる間を加へたる四代にして、江南の南朝と對抗したる百九十二年間を云ふ、終に

隋の一統に歸す、

ホクテイトゴフ 北庭都護府 唐の六都護府の一にして、武后の置く所なり、今の天山路迪化府なる庭州に治し、天山北路を管轄せり、

ホクテキ 北狄 支那の北境に在りし夷にして、最も有名なるは獠狁なり、支那の北境により、屢、山西、陝西に寇して、頗る強大となり、周室をして終に東遷の止むなきに至らしむ、獠狁は即ち後の匈奴なり、

ホクテキ 墨翟 墨子を見よ、

ホクトツ 冒頓 マハツールを見よ、

ホクリヨ 北涼 五胡十六國の一にして、匈奴の將、沮渠蒙遜が今の甘肅省甘州府なる長掖によりて立てたる國なり、西涼を滅ぼして、河西の地を統一せしが、二代三十八年にして、後魏に滅さる、

ホクリヨナンワ 北虜南倭 北虜とは元の餘裔の漠北に存するを云ひ、南倭とは連年明の濱海に出没して、掠略を恣にしたる倭寇を云ふ、倭

寇は穆宗の時熄み、蒙古の淹答は明の封冊を受けたれども、其根底既に深く、是等の滅亡と共に、明室も終に滅ぶるに至れり、

ホーケンセイ 封建制 地を割きて諸侯を封するを云ふ、夏殷の際に稍々備はり、周に至りて完成せり、周は公侯伯子男の五爵を立て、諸侯を封せしが、秦は之を廢して、天下を郡縣にす、漢起りて秦の滅亡に鑑み、大に宗室を諸侯に封じ、

ために吳楚の大亂を惹起し、以後は封建たりと雖、實は郡縣の制となる、後元及び明初、此制を用ゆ、  
ホーケンレイ 房玄齡(喬松) 唐の名相なり、太宗を輔けて、賢才を擧げ、文教を興し、貞觀の治を致さしむ、官司徒に至り、梁王に封せらる、貞觀中卒す、文昭公と諡す、玄齡最も謀略に長じ、杜如晦と並び稱して、房杜と云ふ、

ホーゴ 法護 Dharmaracha. 月氏國の僧なり、晋の時、西域を旅行し、經典を得て長安に来る、

ホーコクチン 方國珍 元末の潛主なり、天下皆亂を思ふ時に當りて、兵を台州に起し、浙江に割據せしが、後に朱元璋に攻められて降る、

ホーコージュ 方孝孺(正學) 明初の名儒なり、靖難の變、惠帝に屬し、燕王の罪を赦して、師を罷めんとして成らず、守城の策を獻じ、城終に陷る、燕王即位の詔を草せしめんとすれども、従はずして、三族を誅せらる、

ホーコト 澎湖島 臺灣と清國福建省との間に横る島嶼にして、元清國の領たりしが、日清戦役の結果、馬關條約により我領有となる、

ホーコホー 保甲法 王安石の新法の一にして、一種の民兵制度なり、十家を保とし、五百家を都保とし、衆の服するものを選んで、都保に正副二人を置き、其部下の保丁をして、弓箭を貯へ、武藝を講習せしむ、

ホーシ 方士 神仙の術を修むるものを稱し、不老不死の仙薬を作り、不思議の術を使用し、初

は道士と異りしが、二家は次第に合併して、魏の寇謙之に至りて、全く同一とせり、歴代の天子方士を用ひ、神薬を求めしもの甚多し、

ホーシユク 方叔 周初の名臣なり、宣王の政を輔け、南荊蠻を平定し、中興の治蹟をあげしむ、

ホーシツノガク 法術の學 戦國の末、韓非の説く所にして、術は君の吏を使ふ所以、法は吏の民を治むる所以にして、法家を大成したるものなり、

ホーシユン 彭春 清國北鎮の都督なり、聖祖康熙二十二年、愛理城の都統となり、二十四年アルバツン城を攻めて、露兵を破り、之を陥る、

ホーシヨ 彭城 今の清國江蘇省徐州府に在り、秦末、楚王項羽が西楚の霸王として都したる所なり、

ホシヨトブ 和碩特部 衛拉特四部の一にして、元の太祖の弟、朮只哈薩爾の後なる阿魯台

の裔なり、明末固始汗、青海、西藏に威を振ひしが、後終に清に屬す、

ホシラ 和世球 元第八十代明宗帝の名なり、

ホーゼン 封禪 支那にて最も重んぜらるる祭祀の一にして、土を築きて、天を祀るを封と云ひ、土を低くして地を祀るを禪と云ふ、

ホータク 彭澤 今の清國山西省九江府湖江縣にして、晋の代に、陶淵明の縣令たりし地なり、

ホタン 于闐(忽炭) Khotan. 西域三十六國の一にして、今の和闐の地なり、漢の時、中國に屬す、

ボチ ト赤 韃靼の達延可汗の孫なり、明の衰亂に乗じて、挿漢兒部によりて、明の邊境を窺ふ、

ホーチェンド 霍爾(俱戰提、苦蓋) Khodjend. 露領トルキスタンのシルゲリア州の一市なり、

ポーヂダルマ 達摩大師(菩提多羅)

Bodhidharma. 支那禪宗の第一祖にして、南

印度の王子なり、梁の武帝の時、海路より廣州に至り、宮中に召されて、帝と佛理を談ぜしむ、帝の支旨を領する能はざるを知りて、魏に往き、面壁九年にして、後に嵩山の小林に寂す、

ホッカイコク 渤海國 通古斯種の國にして、

西紀七〇〇年の頃、大祚榮の建國なり、其子武藝、其從玄孫、仁秀等皆賢明にして、國勢益々張り、其領土東は日本海より、西は契丹に接し、隱然東方の一強國なりしが、仁秀の後四傳して、湮滅に至り、國勢漸く振はず、九〇八年終に契丹の太祖に滅さる、

ホツカイコケイ 渤海五京 上京龍泉府、東

京龍原府、南京南海府、西京黃綠府、中京顯德府を云ふ、

ホツソーシユ 法相宗 佛教八宗の一にし

て、又唯識宗と云ふ、唐の玄奘之を印度の尸羅跋

ホーチ

ホッチ

陀羅に學びて、中國に傳へ、唐の中世最も盛んなり、我國には齊明天皇の時、智通、智達の二僧、唐に留學して傳ふ、

ポツチンチアー 僕鼎查 Pottinger. 英

國大使にして、支那に駐在し、道光廿二年、阿片戦争の時、清の使臣耆英、伊里布と會合して、南京條約を締結せり、

ホッポーアシア 北方亞細亞 阿爾泰山脈、

阿拉海、裏海、以北の地、即ち概して今日の露領亞細亞一帶の地を云ふ、

ホッポーフッキョ 北方佛教(大乘教)

第四回の結集を経て、罽賓を中心として、天山南路を経て、支那、日本、朝鮮等に傳はれり、

ホーテン 奉天 清國盛京省の首都にして、

遼陽の北、北清鐵道に沿ふ、清朝發祥の地なるを以て、特異の制を立て、奉天府尹をして、省治を總理せしむ、

ホトアラ 赫圖阿拉 Hodala 今の清

國盛京省興京にして、第十五世紀の半頃、愛親覺羅氏が寧古塔の西南より移りて、民力を養ひし所なり、

ホートオキ 豊島沖 支那黃海中に在り、明治二十七年七月廿五日、日清の軍艦始めて此沖に會戦して、大に清艦を破れり、

ホバホー 保馬法 王安石新法の一にして、保丁の馬を養はんと請ふものに、馬又は其代價を給して、之を養ふに、馬料を與へ、毎年其肥瘠を檢し、病死する場合には、相當の辨償をなさしむ、  
ホハン 蒲坂 今の山西省蒲州府永濟縣にして、舜の都せし所なり、

ホンコン 香港 Hong-kong. 清國廣東省の東南、海上の小島に在り、東洋貿易の中心にして、商業最も盛なり、西紀一八四二年、南京條約によりて、清國は之を英國に割讓せり、

ボンヂェリー Pondicherry. 印度マドラスの南に在る佛國殖民地なり、もと佛國東洋貿易

の中心地にして、英のマドラスと相距る甚だ遠からず、兩國の競争絶ゆる事なかりしが、英國の勢力次第に盛んにして、又昔日の如くならずなれり、

ボンテン 梵天(婆羅賀磨) Brahma. 古來アリア人種が最も尊崇せし造化の神なり、婆羅門は自己の種姓を以て、直ちに梵天と同一なりと主張し、之を侵すものは、梵天を侵すと同一なりと説き、終に佛陀の反對を見るに至る、

ボンベー 孟買 Bombay 英領西印度の首府にして、西紀一六三九年、スラットの總督を此地に移してより、マドラスと共に東洋貿易の中心となり、以て今日の隆盛を致せり、

ポヤルコフ 波雅爾古 Pojarkov. 喀薩克人なり、深く東方に入り、黒龍江に沿ひて東下し、遂に一六四五年其下流に達せり、

ボヨイ 慕容暉 前燕の慕容儁の子にして、西紀四四六年、父の後を繼ぎ、其叔父慕容垂と、桓温を枋頭に破りしが、既にして、垂を忌み、

垂は前秦に降り、兵を合して來り攻め暉、遂に殺さる、

ボヨクワイ 慕容廆 前燕の慕容皝の父なり、今の盛京省錦州府義州の西北なる大棘城に

りて、鮮卑大都督となり、遂に鮮卑大單于と稱す、  
ボヨコー 慕容皝 前燕の建國者にして、廆の子なり、立つて燕王と稱し、西段氏を破り、南後趙を伐つて地を拓き、東高麗を伐て、勢益々盛になれり、

ボヨシユン 慕容儁 前燕の王にして、皝の子なり、慕容恪等を遣はして、魏を伐ち、後趙の内亂に乗じて、河北に入り、冉閔を滅ぼし、都を鄴に奠めて、帝と稱し、略々江北を一統す、西紀三六〇年死す、

ボヨースイ 慕容垂 慕容暉の叔父にして、後燕の始祖なり、勇略あり、大に晋軍を枋頭に破り、暉に忌まれて、前秦に降り、中山の地によりて、河北の地を徇へしが、後魏の拓跋珪に破られて祖

す、

ボヨーセイ 慕容盛 燕の庶族なり、燕の太子寶が魏に滅されし時、幽汗を殺して自立せしも、慕容徳に滅さる、

ボヨーチュー 慕容冲 西燕の始祖なり、秦王苻堅、枋頭に敗れてより、平陽に起りしが、秦兵に破られて、華陰に奔り、終に秦兵を破り、枋城によりて、帝と稱し、長安を攻取る、後長安に於て、其將韓延に殺さる、

ボヨーチョー 慕容超 南燕第二世の王にして、慕容徳の姪なり、遂に晋の劉裕に滅さる、  
ボヨートク 慕容徳 南燕の始祖にして、慕容儁の弟なり、後燕の滅びし後、滑台によりて、王を稱し、晋の地を略し、廣固によりて、帝と稱す、

ボラク 八刺 Barak. 察合台汗にして、察合台の曾孫なり、海都及び欽察汗忙哥帖木兒と争ひしが、後之と和し、太宗の諸孫と共に大會を

開き、海都を大汗に立てたり。

ホラサン 呼羅珊 Khorassan. ヘルシア

のビルレア東北に在る最大なる州なり。

ホラスム 花刺子模 Khorasm. 元代に

於てカスピ海とアラルとの海間に興りし部落にして、帖木兒に降されてより、欽察汗と争衡の地となれり。

ボルガ Volga. 歐羅巴露西亞の大河にして、

南流してカスピ海に注ぐ、到る處航海の便あり、上流の薩來は欽察汗國の都せし處にして、又ボルガ、ユサクのよりし地なり。

ボルガユサク Volga Cossack 歐羅巴

露西亞のボルガ河の流域によりし盜賊的漂民にして、第十六世紀の頃より其勢盛んにして、部長イェルマク、シビルを平定して、露帝イバンに獻じたり。

ホルチン 科爾沁 コルチンアを見よ、

ボルネオ Borneo マライ群島の一なり、明

成祖の時來貢す、現今一部は會長領にして、大部はオランダに屬す、

ボロル 鉢露兒(鉢露羅) Bolor. パミ

ールの東南、インドス河の北なる一王國にして、礦物に富む、現今のバルチ即ち小西藏なり、

ま

マイマチン 賣買城 Maimatchin. 清

國蒙古阿爾泰山中にある清國內地第一の陸上貿易地なり、もと恰克圖と稱し、清國に屬せしが、恰克圖條約によりて之を兩分し、清國に屬する部分を、賣買城と稱せり、

マカオ 澳門 Macao 清國珠江口の一小

島にして、漁業及鴉片貿易盛に行はる、一五五七年葡人始めて此地に通航して、商業を許され、一五八六年以來、其領となる、

マウリア 毛利耶 Maurya. 西紀前第四

世紀の中頃、チャンドラグプタが、中印度マガダ

國を慕つて建てたる王朝なり、華子城に都し、中北西の三印度を領し、其の孫阿育王に至りて、大

に佛教を信仰し、國勢甚盛なり、王は西紀前二二〇年死し、其後幾ならずして、毛利耶朝滅び、サンガ朝之に代る、

マガダ 摩揭陀 Magadha. 古代中印度

の王國なり、伽毘羅國の南に位し、王舎城に都す、釋迦と同時代の王に、頻婆沙羅あり、佛教を保護し、一時佛教の中心となれり、後マウリヤ朝、サンガ朝、カーンバの諸朝君臨す、

マジール 馬扎兒 Magyars. 蒙古の一

種族にして、西紀八八四年歐洲に入り、ホンガリアの二國を建設したり、

マツカツ 鞞鞞 周代の肅慎、漢、魏の挹婁、

後魏の勿吉にして、今の滿洲人の祖先なり、鞞鞞諸部中、黒水、粟末の二部最も強大を以て聞え、黒水鞞鞞より女真出で、粟末鞞鞞よりは渤海出で、

滿洲の地を擁して、中國に雄飛するに至る、

マツラ 摩偷羅(孔雀城) Mathurā(Ma-

thura) 印度のアグラの西北にあり、古の一王國及び都市の名なり、クリシナの生地にして、其塔は有名なり、

マドラス Madras(San Thome). 印度の

コロマンデル海岸にある港なり、英人最初の殖民根據地たり、

マニキョー 麻尼教 Manichaeism. 波斯人

麻尼の開きたる宗教にして、祆教と基督教とを折衷せしものなり、唐の玄宗以前、既に支那に傳はりしが、たゞ回紇人の間にのみ行はれて、支那人は終に之に化せられざりしが如し、

マニラ 馬尼刺 Manila. フィリピン群

島中の呂宋に屬し、馬尼刺煙草の産地なり、西紀一五二〇年、スペイン人マカリアエンスの發見にかゝり、フィリピン島の首府として、貿易盛なりしが、近年米西戦争の結果、アメリカ領となる、

マヌ Manu. 古代印度の有名の立法者にして、マヌ法典を作れり、

マヌノ・ホーテン Manuの法典 十二巻より成れる、印度古代の法典なり、民法、刑法、市政、軍政、宗教的儀式、社會家族生活、及び其風習等を記載す、

マハーカンバ 摩訶迦葉 Maha Ka-syapa. 佛門十哲の一人にして、摩揭陀の人なり、佛陀涅槃の年、五百の阿羅漢を會して、第一回の三藏結集を行ふ、西紀前四五〇年頃歿す、

マーバル 馬八兒 Maabal. 南印度東岸の地にして、元の世祖の時始めて入貢す、

マヒンダ 摩晒陀(摩訶因羅) Mahendra. マウリヤ朝の阿育王の子なり、夙に佛教を信仰し、妹僧伽蜜多と共に錫蘭島に布教し、南方佛教の緒を開く、

マベランナハル Maver-an-nahar. 一にトランスオキシアナと云ひ、即ち河間の地にして、

盛京、吉林、黒龍江の三省を含む、清朝興起の地なるを以て、特種の制度を用ひ、朝廷には滿人、漢人と相半し、行政上には盛京省は奉天府尹をして、省治を總理せしめ、吉林と黒龍江の二省は將軍をして之を治めしむ、

マンシユーシユ 滿洲種 通古斯族に屬する建洲女眞の一部にして、今の盛京省の東北に在りて、覺羅部の外に、蘇克素護部、渾河部、完顔部、棟鄂部、哲陳部の五小部あり、覺羅部後に他の諸部を平定して、清朝を興すに至る、

マンセイシヨク 萬世色 福建の人にして、清初の武將なり、康熙中、吳三桂の亂に功あり、岳州水師總兵官に任ぜられ、後雲南提督に轉せしが、事によりて劾せられしも、功を以て贖ひ、三十四年に至りて卒す、

マンダレー Mandalay. 緬甸の舊首府なり、西紀一八九五年、最後の緬甸戦争の時、英軍に侵入せられ、國王出て降り、都をラングーンに移さる、

波斯の北、オックス河の流域地なり、もと察合台汗國の領地たりしが、帖木兒の占領する所となり、  
マホメットキョー 回教を見よ、  
マームード 瑪哈木 Mahmud. 瓦剌の部長なり、明の成祖の時、韃靼の本雅、里を殺し、其子答里巴を立て、權を專にせしが、成祖の軍に破られて、明に降り、  
マング 蒙哥 Manghu. 憲宗蒙哥を見よ、  
マング・チムル 忙哥帖木兒 Mangu Timur. 拔都の孫にして、ツガンの子なり、欽察汗となり、海都を立て、世祖に抗し、屢々伊兒汗と兵を交へしが、中途にして死す、  
マンシダイ 萬斯大(充宗) 清初の大儒なり、經義に通ずるを任とし、貫穿證明して、發明する所多し、康熙二十二年卒す、  
マンシユー 滿洲 清國北部の要地にして、

マライ 末羅遊 Malay. (馬禮、木來由) アジアの南マライの半島より、オーストラリアの間に散布せる群島なり、ホルネオ、スマトラ、ツアバ、セレベス等其大なるものなり、

マラカ 滿刺加 Malacca. マライ半島の南部を占めし一王國なりしが、今は其大部英國に歸す、其首府のマラカはシンガポールの西北にあり、

マールタ・ドローメイ 摩訶刺陀同盟 Maratha League. 西紀一六五〇年の頃、印度のマハラシットラ地方より起りたる温都教徒の叛亂なり、モンゴル帝國之を平定する能はず、英國をして間に乘じて、印度占領を成さしめたり、

マールター・センシー Maratha 戦争 (第一)西紀一七七四年、ヘスチンクス總督の時、莫臥兒帝のマールター同盟と通ぜし名とし、ヘンガルの兵は中印度を横ざり、西海岸に至りて戦へり、(第二)一八〇三年、第二のマールター戦争起



り、莫臥兒大敗し、印度商會の保護に歸し、年金を受けて虚位を保つこととなり、莫臥兒帝國の大敗に終れり、

**マラバル** Malabar. 英領印度カルカッタ附近の海岸にして、ポルトガル人バスコ・ダ・ガマが、西紀一四九八年四月始めて此地に達せしを以て有名なり、

**マルコ・ポロ** Marco Polo イタリアのベネチア人なり、陸路蒙古に至り、元の世祖に仕ふる十九年餘にして、波斯に至り、尋で國に歸り、盛に東方の繁昌を説き、見聞記を著せり、

み

**ミマナ 任那** 神功皇后征韓後、我國より將を遣はして、もとの辰韓中の國なる加羅、安羅、大加耶等の地を定めて置きたる我の直轄地なり、之より歴代將を遣はして治めしめしも、吏其人を得

**ミンノニケイ** 明の二京 北京、南京の二府を云ふ、初め太祖は南京金陵に都せしが、成祖の時に至り、燕京を北京とし、後之に遷り、終に二京を生ずるに至る、

**ミンブラク** Min-bulak 千泉を見よ、  
**ミョーシン** 妙清 高麗の西京の僧なり、陰陽秘術に托して、仁宗を惑はし、十三年終に柳岳、趙匡等と叛す、金宮軾兵を率ひて、西京を攻めむるに及び、趙匡に斬らる、

む

**ムガール** 莫臥兒 Mughal. 帖木兒の末裔バーベルが、印度のパンジッアの地に攻入りて建てたる第三の蒙古帝國にして、ナムルの時に至り、最も隆盛なりしが、後マラータ同盟と稱する回教徒の叛亂あり、英國の乗する處となり、シアールラムの時に至り、英國商會の保護に歸し、年金

ざりしと、又當時航海の不便なりしとの理由にて、叛亂常に絶えず、敏達天皇の時に至りて、任那の日本府を廢せり、

**ミン** 明 西紀一三六八年、太祖朱元璋が元に代つて建てたる國名にして、初め南京に都し後北京に遷る、十九代永曆帝、清軍に迫られて、出奔せしまで、二百九十二年にして、清に滅さる、

**ミンシ** 明史 清の世宗の時、張廷、王徐、元武、等の學士七十餘人命を奉じて、王鴻緒の明史稿によりて編纂したる、明一代の正史にして、三百三十二卷あり、事實明確なりと稱せらる、

**ミンシキジホンマツ** 明史記事本末 清の谷應泰の撰なり、明史の出でざる時に成りしを以て、事實の疎略と誤謬とを免れず、

**ミンノジューサンフセイシ** 明の十三布政使 明の太祖の時設けたる浙江、江西、福建、湖廣山、東山西、北平、河南、陝西、廣東、廣西、四川、雲南の布政使を云ふ、

を受けて虚位を保ち、幾もなくして滅さる、

**ムクリ** 蒙兀 モンゴルを見よ、

**ムシヤク** 無錫 今の清國江蘇省常州府の屬縣にして、宋の楊時、明の顧憲成が東林書院を興して、講學したる處なり、

**ムハメット** 摩訶末 Muhammed(Mohammed) アラビアの大豫言者にして、摩訶末教の創設者なり、西紀六三一年に至りて死す、

**ムハリ** 木華黎 Mukhali 元の太祖の四傑の一人なり、太祖西征の時、金征伐の軍務を委任せられ、數年の間に金を破りて、殆ど之を定め、軍中に死す、

**ムラビダ** 末來秀兮 Mulahida. エルzuluz山の地に建てられたる摩訶末教國にして、暗殺を以て教規とし、四隣皆震恐したりしが、元旭の烈哥之を伐ち滅せり、

**ムラビョフ** Murabief. 露國の西北利亞探檢家なり、一八五一年、黒龍江地方を探り、江口にニ

コライプスクを立て、益、南下の必要を感じ、清の使節と會して愛琿條約を締結したり、

め

メイカ 名家

無窮の空辨を揮ひ、人をして問詰する能はざらしむるものを云ふ、春秋戦國の際、鄧析、惠施、公孫龍の徒之を唱へ、白馬非馬、鷄三足、藏三耳等の辨あり、

メイギョクチン 明玉珍

明初の潜主なり、初め徐壽輝に従ひしか、壽輝の死後、四川に攻入り、成都によりて、夏帝と稱し、潜位五年にして死す、

メイゲンテイ 明元帝(嗣)

後魏第二代の帝にして、道武帝の子なり、

メイシヨ 明昇

明玉珍の子にして、元末の潜主なり、父の死後、四川省成都によりて、夏帝と稱せしが、洪武四年明軍に攻められて、出で

降る、

メイズイ 明瑞

滿洲の人にして、清の名臣なり、乾隆中、參贊大臣、御前侍衛を授かり、命を受けて緬國を征し、屢、功を立てしも、終に數創を蒙り死す、

メイテイ 明帝(陽)

後漢第二代の帝にて、光武帝の子なり、性偏察なりしも、文學を好み、國內よく治る、されど外蕃の關係漸く繁くなり、佛教も亦帝の時、始めて公然の傳來あり、

明帝(毅)

三國魏第二代の帝にして、文帝の子なり、司馬懿をして蜀の侵入を防がしめ、又遼東に公孫度を破り、在位十四年にて崩す、

明帝(紹)

東晋第二代の帝にして、元帝の子なり、聰明仁孝、専ら王導に任じて、諸軍を督して、叛黨を平げしめ、在位三年にして崩す、

明宗(嗣源)

五代唐第二代の帝にして、莊宗の養子なり、莊宗弑せられ、洛陽に即位し、聲色を近けず、紀綱大に振る、在位八年にて崩す、

明宗(和世疎)

元第八代の帝にして、武宗の子なり、仁宗の時諱せられて雲南に王となり、察合台汗により、燕帖木兒等に迎へられて、帝位に即き、上都に到りて暴に死す、

明宗(尙)

陳尙を見よ、

メイドローセンセイ 明道先生

程顥を見よ、

メガステネス

Megasthenes. シリアの人に

して、セルウコス王の時、西紀前三〇六年より、二九八年まで、全權大使として、印度に駐在したり、

メコン

眉公 Mekong. 佛領印度支那に

在る大河にして、其流域は概占城國の故地なり、

初め暹羅の領地なりしが、西紀一八九三年佛領となり、後英國の抗議によりて、其上流に五十英里

の中立地帯を置く、

メヂナ

默地那 Medina. アラビアのヘ

デアデ地方に在る一市にして、初めヤートレブと稱せしが、ムハメッドの命名によりて、メヂナと

改稱し、ムハメッドの墳墓地なるを以て有名なり、

メッカ

Mecca. アラビアの有名なる一市にして、ムハメッドの生地なり、回教の聖地として、參詣するもの多し、

マシヨ

馬鳴 Asvaghôcha. 印度ベナレスの名僧にして、大月氏迦膩色迦王の時、大月氏に入り、世友菩薩と共に第四回の結集を行ふ、西紀三二七年寂せりと云ふ、

メン

緬 Mien. 今の英領緬甸の地にして、元の世祖之を招諭せしも服せざりしにより、納速刺丁等、再度の征伐により、遂に降れり、

メリクシャー

Melik Shah. セルシウク土

メルキツトブ

蔑里乞部 Merkits. 蒙古

メレンガ

河の流域に據りしが、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

メレンガ

鐵木眞起るに及んで、攻滅さる、

も

モーカ 孟軻 戦國の大儒にして、魯の南隣なる鄒の人なり、孔子に後ること百四十五年、孔子の道を述べ、魏の恵王、齊の宣王に見えて、王道を行ふを説きしも、其説當時に容れられず、退きて孟子七篇を著して、其道を述べ、後世論孟と并稱せらる、

モガール Moghul. ムガールを見よ。

モーキ 孟喜 漢代の儒者にして、蘭陵の人なり、易を王孫に受け、孟氏易を著はす、

モーコ 蒙古 ムンゴルを見よ、

モーコー 毛亨 趙の人にして、漢代の儒者なり、詩を修めて、河間獻王の博士となり、毛詩を著す、

モーコ・モンジ 蒙古文字 元の世祖が大理を撃ちし時、供ひ歸りし喇嘛八思巴をして作らし

め、國內に頒行したるサンスクリット系統の新字なり、

モクカン 木杆 突厥の可汗にして、土門の子なり、剛勇にして、智略多く、柔然を伐つて、之を滅ぼし、西は嚙嗑を取り、東は契丹を走らし、北は結骨を并せ、營を都斤山に立て、四方に號令せり、

モクセイ 沐晟 明初の武將なり、建文中、太祖の命を受けて、安南を征し、其地を占領して、交趾布政司を設く、

モーシ 孟子 孟軻の著にして、七冊あり、王を尊び覇を賤しむ、仁義を重じ、功利を輕んじ、人の性質善なれば、何人と雖、堯舜の聖に至るべしと説けり、唐の時までは諸子の中に列せしが、韓退之の唱導によりて、論孟と並稱せらるゝに至る、

●毛詩 詩の四家の一にして、趙の毛亨の傳へたるものなり、王莽の時に至りて、初めて學官

に立つ、

モーシヨクン 孟嘗君(文) 戦國四公子の一にして、齊の田嬰の子なり、諸公賓客を招致し、食客三千人あり、湣王と和せず、奔て魏に至り、相となり、遂に薛に死す、

モーチシヨ 孟知祥(保胤) 五代後蜀の始祖なり、後唐の莊宗の時、西川節度使となり、又蜀王に封ぜられ、遂に帝と稱し、建元して、明德と云ひ、尋で卒す、

モッキツ 勿吉 後魏の時棘鞬を稱したる名なり、

モーテン 蒙恬 秦の將軍なり、始皇の三十二年、齊を攻め破り、内史に拜せられ、三十萬の兵に將として、北方戎狄を征す、時に始皇の崩あり、宣者趙高のために誣殺せらる、

モハメッドキョー 回教を見よ、

モンカセイ 門下省 唐制三省の一にして、帝命を出納する事を掌り、長官を侍中と云ふ、其

後歴代概ね是あり、

モンゴル 蒙古 Monghol(Moghul). 唐の世、契丹の北に散處せし室韋諸部の一にして、世々遼、金に屬せしが、成吉思汗に至りて、歐亞に及ぶ大帝國を立て、一時非常の勢を有せり、帖木兒の帝たりし蒙古國、バーベルの立てたる莫臥兒帝國等皆その後なり、

モンセン 文選 六朝文學の粹にして、梁の昭明太子の撰なり、詩賦を初とし、辭引序誌に至るまで、駢駢、八股文を編して、三十卷となす、

モンテ・コルビノ Monte Corvino. 羅馬の僧にして、元の世祖の時、耶穌教布教のため、北京に至り、勅許を得て、數多の信徒を出せり、

モーメイシ 孟明視 秦の名臣にして、百里奚の子なり、父と共に穆公に仕へ、公を輔佐して、屢々功を立て、覇を稱せしむ、

や

ヤクサ 雅克薩 アルバシンを見よ、  
ヤクサルト 藥殺水 Jaxartes. シル河の古名なり、

ヤコフ Yakub. 阿富汗斯坦汗シエル・アリの子なり、初め父と争ひしが、西紀一八七八年、アリの英軍に逐はるゝや、位に即き、後約に背き英人を虐殺し、遂に廢せらる、

ヤコフス・ロー 羅雅谷 Jacobus Roh.

エスイタ派の僧なり、西紀十七世紀の初、支那に傳教し、アダム・シアルと共に崇禎曆書を編せり、  
ヤコフ・ベク Yakub Beg. 浩罕の勇將なり、東干族の清に叛くや、アズルグを援けしが、幾もなく之を廢し、東干族を破り、天山南路を一統し、阿克蘇に都して、土耳其の後援を得て、清軍を防ぎ、西紀一八七七年死す、

ヤコレイ 野狐嶺 今の清國直隸省宣化府張家口外にあり、西紀一二二一年蒙古の成吉思汗が金の大軍を破りし地なり、

ヤシンエイ 野人衛 女眞の別種にして、明の中世頃、明の羈絆を脱し、日本海に沿ひて、部落をなせしが、愛親部起るに及び、遂に併さる、

ヤシヨダラ 耶輸陀羅 Yasodhara. 釋迦の従妹にして、其妻となり、父王の歿後、釋迦の許を得て出家す、比丘尼の始めなり、

ヤニベク 札尼別 ギアニベクを見よ、

ヤバダイ 耶馬臺 後漢書、魏志等に見ゆる日本の地名にして、所在は詳かならざれども、夙く支那と交通せし地なり、

ヤマダ・ナガマサ 山田長政 我駿河の人、暹羅に航し、西紀一六二〇年頃、其王プラチオー・ソンタムの將となり、滯留の日本人を率ひて、近隣諸國を降し、功を以て貴族に封ぜられしが、王の薨後亦害せらる、

ヤンツキアン 揚子江(長江) Yang-tz-kiang. 單に江ともいふ、源を西藏高原に發し、

清國中部を貫通して、黃海に入る、支那第一の大河にして、長さ三二〇〇哩、河幅廣く、舟楫の便ある千渾餘、

ヤリツ・アホーキ 耶律阿保機 太祖阿保機を見よ、

ヤリツ・イッシン 耶律乙辛 エリ・イッシンを見よ、

ヤリツ・キユーカ 耶律休哥 エリ・キユーカを見よ、

ヤリツ・ソサイ 耶律楚材 エリ・ソサイを見よ、

ヤリツ・タノシ 耶律大石 德宗大石を見よ、

ヤリツ・テイ 耶律定 遼最後の主なり、金軍三道より燕京に入るに及び、遂に之に降る、時に西紀一二二一年なり、

ヤルカンド 莎車(葉爾羌) Yarkand.

清國天山南路最西の一市にして、露國との交通上重要な地なり、漢の時、西域三十六國の一なる莎車に當る、西紀十九世紀の初、回教徒の亂に屢々兵を用ひたり、

ヤロー 夜郎 今の清國四川省瀘州の南、及び貴州省の北部に跨りたる、南夷の國にして、西紀前一一一年、漢に降りたり、



ユイシキシユー 唯識宗 佛教の二宗なり、唯識論を本據となすを以て此稱あり、又法相宗ともいふ、

ユイマ 維摩詰 ビマラキルチを見よ、

ユエ 順化 Hue. 佛領安南の首府にして、ユエ河口の四十哩にあり、西紀十五世紀の中頃、阮潢が建てたる廣南國の都にして、阮文岳に奪はれしが、阮福映之を復し、一八八四年、佛軍の爲

めに陥られて、遂に其領に歸す、

ユ一エキ 熊繹 春秋楚の始祖にして、芊姓、大古の帝顓頊の後なり、荆蠻の間に起り、丹陽に都せり、

ユ一オー 幽王(宮涅) 周十二代の王にして宣王の子なり、褒姒を寵して、皇后及び太子を廢せしが、後の父申侯の爲めに、驪山の下に弑せらる、ユ一キユー 有窮 上古夏の時の國名なり、今の清國山東省濟南府德州なりといふ、夏王相を弑したる羿は此國の君なり、

ユ一クシ 有虞氏 五帝の一なる舜が、虞の人なるを以て此稱あり、

ユグル 玉古爾 清國天山南路の庫車の東にあり、漢宣帝の時、西域都護鄧吉の鎮せし烏壘城の地なり、

ユシン 庾信 南朝梁の學者にして、西魏、北周に仕へ、北朝文學を盛にせり、其文は四六駢麗にして、當時其名南北に冠たり、

ユ一シン 熊津 今の清國忠清道公州に當り西紀七五年、百濟汶洲王が高句麗の銳鋒を避けて、徒りし所なり、

ユ一シュー 渝州 今の清國四川省重慶府の地なり、宋神宗の時、此地に割據せし苗蠻を降せり、ユ一シュー 幽州 唐の藩鎮の名、今の清國直隸省順天府なり、河朔三鎮の一にして、其節度使は唐の中世、跋扈せしことあり、

ユ一ショ 由崧 福王由松を見よ、

ユ一スフ 玉素普 Yusuf. 回部の張格爾の兄にして、喀什噶爾の黑山派の和卓なり、浩罕アリの援により、喀什噶爾、葉爾羌を陥る、西紀一八三一年アリの清と和するに及び、捕へらる、

ユ一ソー 裕宗(暉) 陳暉を見よ、

ユ一タイユー 俞大猷 世宗の嘉靖廿二年、命ぜられて、浙江に倭寇守禦の備をなし、尋で王江涇に大捷を得、已にして後四十二年、戚繼光、福建に至るに及び、之と力を協せて、平海衛に倭寇

を破れり、

ユ一テイヒツ 熊廷弼 明の將なり、神宗の時滿洲の太祖、屢々邊に侵せしかば、出て、之を防ぐ、既にして再び將となり、三方布置の策を立てしが、功を奏する能はずして、復た罷めらる、

ユ一ユー 有熊 今の清國河南省開封府新鄭縣に當る、太古黃帝が國せし地なり、

ユ一ヨク 庾翼 東晉の柱石、庾亮の弟なり、兄の死後、代つて武昌に鎮し、趙成の地を恢復するを以て己れの任となし、燕涼と北征を企てしが、果さずして、西紀三四五年死す、

ユ一ヨウ 庾亮 東晉の柱石なり、成帝の年幼にして即位するや、其舅たるを以て、政を輔け、亂臣蘇峻を除かんと欲し、大亂を醸せしが、後陶侃に代り、武昌に鎮して、遙に朝政を執り、中原の恢復を圖り、志成らずして西紀三四〇年死す、

ユ一ロウ 由榔 桂王由榔を見よ、

ユ一ロー 挹婁 韃靼の漢魏時代の稱なり、

よ

ヨ一 雍 周末戰國の時、秦の都せし地にして、今の清國陝西省翔鳳府の治なり、

ヨ一 猺 苗蠻の一種族にして、貴州廣西省に居り、元の末先反し、群雄各地に起る、明の寧王の亂に乗じ、反亂を起せしが、嘉靖七年王守仁の爲めに平定せらる、

ヨ一アク 揚渥 唐末の淮南節度使行密の子なり、五代の初、吳王と稱せしが、李存勗唐を創むるに當り、遂に朝貢せり、

ヨ一イチセイ 楊一清 明の武宗に仕へて、安化王征討の命を受けしが、王執へられて、軍を班し、張永に勧め、劉瑾を誣奏せり、

ヨ一エキカイ 揚益戒 遼の道宗に仕へて相となり、宋の邊を修むるを以て、境を議し、更に南方に移さんとし、數々宋使を黜けて動かす、遂に

宋をして其北邊を割かしむ、

ヨ一エン 楊炎 唐徳宗に仕へて、同平章事となり、兩税法を制し、吏部尙書劉晏を誣ひ、其貶せられて後、獨り勢を恣にせしが、盧杞の用ひらるゝに及び、遂に擠せらる、

ヨ一カ 楊家 楊朱の學徒をいふ、

ヨ一キ 雍巳 商第六代の王にして、太康の子なり、紀綱紊れしかば、諸侯朝せざりき、

ヨ一キヒ 楊貴妃(太真) 唐玄宗の妃なり、容色並に衆を抜く、帝の後宮に入て、寵を専らにし、其族亦勢に乗じて、奢侈を極め、國民帝を怨望するに至る、安祿山反するに及び、帝に従つて馬嵬に至りしに、將士皆其因を妃に歸し、帝に追りて縊殺せしむ、

ヨ一グーシユン 楊遇春 清宣宗に仕へて陝甘總督となり、道光七年、回部の張格爾が浩罕汗アリと喀什噶爾、葉爾羌、和闐等を陥れしかば、伐つて張格爾を擒にし、叛に與せし回教徒を伊犁

姚泓 後秦の主、姚興の子なり、西紀四一七年、東晋の劉裕、潼關を破りて、長安に入り、遂に國を擧げて之に降る、

楊廣 楊帝廣を見よ、

楊鎬 明の神宗に仕て遼東の經略たり、萬曆四十七年清の太祖葉赫部を征するや、鎬二十萬の兵を以て、葉赫を援け、戰敗れて甲仗を失ふ、帝大に怒り、鎬を捕へて之を罪せり、

ヨ一コーガクハ 姚江學派 明の大儒、王陽明の學派をいふ、明末に至り、其徒頗る多く、薛瑄の河東派と、盛に其所説を争ふ、

ヨ一コクチュ一 楊國忠(釗) 楊貴妃の從祖兄なり、貴妃の寵を専らにするに及びて、勢を得、李林甫に次いで、相に進む、後安祿山反し、官軍敗れ、帝に従つて馬嵬に奔り、將士の怨を以て殺さる、

ヨ一コーヨー 葉向高 明神宗に仕へて、宰相たり、時に東林黨、非東林黨の二派、朝堂に争ふ、

に移せり、

ヨ一ケン 楊堅 文帝堅を見よ、

ヨ一ゲンカン 楊玄感 隋の煬帝が高麗を征せし時、督運となりて黎陽にありしが、國內亂れんとするを以て、遂に反す、然れども幾もなく敗死す、

ヨ一コ 羊祜 西晋の創業に與つて功あり、吳の政亂るゝに及び、襄陽に鎮して、吳の隙を伺ひ、吳將陸抗と對せしが、已にして抗卒す、祜よつて吳を伐たんとし、疾を得て卒す、

ヨ一コ 葉護 西突厥の可汗なり、唐の貞觀十四年唐の高昌を滅ぼすに及び、浮圖城を以て唐に降る、

ヨ一コー 姚興 後秦の主、苻の子なり、前秦の苻登を殺して、其地を略し、已にして後涼を滅ぼし、南涼、北涼、西涼をして朝貢せしめ、一時勢を江北に振ふ、後赫連勃勃叛きてより、西秦、後魏等、疆を侵して國勢衰へ、已にして殂す、

向高之が調停を試み、却つて東林黨の魁と稱せられ、官を罷められしが、熹宗の初、又相となり、大に東林黨を任用せしかば、宦官魏忠賢の爲めに黜けらる、

ヨ一コーヨー 楊皇后 西晋武帝の後なり、帝崩するや、詔を矯めて、汝南王を國に就かしめ、自家の勢力を盛ならしめんとせしが、惠帝立つに及び、其后賈氏、帝に勸めて太后を廢し、尋て之を弑せり、

ヨ一コーミツ 楊行密 唐昭宗の時、淮南節度使たりしが、梁起るに及び吳王に封せられ、已にして淮南、江東を領し揚州に據りて、王號を僭す、

ヨ一サイ 楊載(仲弘) 元代の詩文家なり、

ヨ一シ 楊子 楊子を見よ、  
ヨ一ジ 楊時(中立、龜山) 南宋の儒者なり、二程の門に學び、謝良佐等と共に四家と稱せらる、東林書院を建て、道を東南に唱へ、其門

弟多し、

ヨ一シキ 楊子奇 明の宣宗に仕へ、當時の人をして、太平を謳歌せしめたり、

ヨ一シンキン 楊慎矜 唐玄宗に親任せしれて、聚斂につとめ、大に天下の愁怨を受く、

ヨ一シユ一 豫州 禹域九州の一にして、南河より荆山に至るの地、即ち今の清國河南省と湖北省の北部に當れり、

ヨ一シユ 楊朱 戦國の儒者なり、自愛を主とし、仁義を偽とし、不與不取、以て外物に侵されざるを主張す、列禦寇、莊周等之を唱ふるもの多し、

ヨ一シユ一 楊秀 隋文帝の子、蜀王に封ぜらる、然るに父の意に反し、奢侈に耽りしかば、後廢せられて庶人となる、

ヨ一シユ一 雍州 禹域九州の一にして、西河の西に當り、今の清國陝西甘肅二省の内なり、

● 楊州 禹域九州の一にして、淮水より南海に至るの地即ち今の清國江蘇安徽二省の東部と、

江西浙江二省に當る、

● 楊州 今の清國江蘇省揚州府なり、宋の高宗が西紀一一二七年、黃潛善の建議により金を避けて遷都せし地なり、

ヨ一シユ一セイ 楊秀清 清宣宗の時、亂を起したる長髮賊の徒なり、

ヨ一シユン ● 楊駿 西晋武帝の皇后の父なり、外戚を以て事を恣にし、惠帝を輔くべき遺命を受け、益々專横なりしが、賈后の讒に遭ひて、宗族と共に殺さる、

● 楊俊 隋文帝の子、初め秦王に封ぜられしが、父の意に協はずして、免斥せらる、

ヨクシヨ 沃沮 貊種の一部族にして、漢武帝の頃、今の清國吉林省地方より南下して、今の韓國咸鏡道に居りしが、高句麗起るに及び、逐はれ北に入る、

ヨ一シヨ一 姚襄 姚弋仲の子、父の後を嗣ぎしが、晋將桓温に敗られ、關中を取らんと欲し、

黃帝に進みしが、前秦の苻堅と戦ふて敗死す、  
ヨ一シヨ一 容城 今の清國直隸省保定府にあり、

ヨ一シンオー 豫親王(多鐸) 清の皇族なり、

清の初、屢々明軍を撃破して功あり、順治帝立つに及び、河南、山東を經略し、二年史可法を破り、進んで南京を陥れ、福王を江中に執へて、之を滅ぼせり、

ヨ一スー 姚樞 宋末の儒者なり、元に仕へ、程朱の學を興して、世祖の信任を得たり、

ヨ一スコ一 楊子江 ヤンツキアンを見よ、

ヨ一セイ 余靖 宋の仁宗に仕へて、集賢校理たり、呂夷簡が范仲淹を貶するや、尹洙と共に其罪すべからざるを論じて、坐貶せられ、後また顯官に進む、

ヨ一セイ 容成 太古黄帝の命を奉じて、曆を作りたりといふ、

ヨ一セイサイ 楊誠齋 楊萬里を見よ、

ヨ一ソー 姚崇(初元崇) 狄仁傑に薦められ

て則天武后に仕へしが、玄宗即位に及び相となり、權倖を抑へ、節儉を奨め、貢賦の弊を斥けて、宋璟と共に、帝をして開元の治をなさしむ、

ヨ一ソ一タイ 洋槍隊(常勝軍) 清の穆宗の時、王韜の議を用ひて、編制したる隊にして、屢々長髮賊と戦ふて勝を奏す、初め米人ソールド之を統べしが、其後米人ハーシヤン、英人ゴルドン其將となれり、

ヨ一ダイ 煬帝(廣) 隋第二代の帝なり、初め節儉を以て、父文帝を欺き、太子となりしが、後帝を弑して位に即き、奢侈に耽り、宮園を飾り、離宮四十餘を置き、民を役して、盛んに土木を起し、人民怨望し、群雄各地に反するに至る、されど尙ほ江都に在りて、酒色に耽溺せしかば、遂に宇文化及の爲めに弑せらる、時に西紀六一八年なり、

ヨ一タイシン 楊太真 楊貴妃を見よ、

ヨ一タン 楊漣 明宣宗に仕へ、楊榮、楊士

奇と共に三楊と稱せられ、帝を輔けて、宣徳の治をなさしむ。

ヨイチヨイ 姚萇 後秦の主にして、弋仲の子なり、兄襄の苻堅に敗るゝや、衆を率て前秦に降り、肥水の役後、獨立して、秦王と稱し、關中の地を略し、屢々苻堅の子丕と戦ひ、後帝と改め、西紀四六年殂す。

ヨイテキ 葉適 宋代の文章家なり、

ヨイテキ 陽翟 今の清國河南省禹州にして、戦國の時、韓の都せし地なり、

ヨイトー 楊侗 恭帝侑を見よ、

ヨイバンリ 楊萬里(誠齋) 南宋の詩人なり、陸放翁等と共に、南宋の四家と稱せらる、

ヨイヒン 楊邠 五代漢高祖に代へて功あり、遂に大臣に至りしが、隱帝即位し、小人を親むに及び、讒に遭ひて殺さる、

ヨホーオー 餘豊王 百濟義慈王の弟なり、

日本に質たりしが、義慈の唐に降るや、遣臣鬼室

福信に迎へられて王となり、再興を圖りしが、唐兵に白江に敗られて、高麗に奔り、國遂に滅ぶ、

ヨイボク 楊僕 漢武帝の將となり、東越を平げ、後又朝鮮を降して、四郡となす、

ヨホーコー 楊方亨 明の神宗に仕へ、萬曆廿四年、副使として日本に來り、秀吉に謁せしが、和破るゝに及び、追ひ還さる、

ヨイメイカク 陽明學 明の王守仁の創めたる學派なり、

ヨイユー 楊雄 漢代の學者なり、一家の言を立て王莽に仕へ、古を好み道を樂み、榮利を慕はず、文辭を作りて名を後世に傳へんとし、太玄を作つて易に擬し、法言を作つて、論語に擬す、

ヨイヨウ 楊勇 隋の文帝の長子なり、太子たりしが已にして其意に協はずして廢せられ、後弟廣の爲めに殺さる、

ヨイヨウ 楊侑 恭帝侑を見よ、

ヨイヨウ 餘姚 今の清國浙江省紹興府にあり、

ヨイヨクチュウ 姚弋仲 もと羌酋なり、石勒の勢盛なるを以て之に降り、西羌の大都督となる、後趙の分崩するや、蒲洪と關中を争ひて敗れ、幾もなく死す、

ヨイリョウ 楊諒 隋の文帝の子なり、漢王に封ぜらる、兄廣が父を弑して即位するに及び、晉陽に兵を起せしが、帝は楊素をして之を討たしめ、諒に擒にせらる、

ヨイレン 楊漣 明の神宗に仕へ、左副都御史たり、光宗の崩するや、内閣諸臣と共に熹宗を擁立し、東林黨を助く、後宦官魏忠賢、權を専らにせしかば、其罪を劾奏し、却つて其毒計に陥り、天啓五年獄に誅せらる、

ら

ライライ 來々 Lailai. 後の羅斛にして、今の暹羅國の南部に位す、西紀一二八二年、元の世

祖が南海諸國を招致するや、馬八兒等と共に朝貢せり、

ラオ 羅斛 Lao. 今の暹羅の南部にあり、

暹羅の地はもと暹と羅斛との二部に分れしが、西紀一三五〇年、此部長プラ・ラマチャイボーヤ起りて、暹を併せ、アユチャアに都を奠め、暹羅王と稱したり

ラオス 老撾 Laos. 今の佛領東京の西北部にして、メコン河を隔て、暹羅國に境す、古へ、羅越と稱せしが、西紀十五世紀の頃大越王黎瀨に攻められて降り、後緬甸、暹羅に屬し、現時佛蘭西之を領す、

ラクトー 洛黨 宋の舊法黨の一分派にして、程頤を其首領とす、もと王安石の新法黨と相争ひしが、司馬光の死後、黨内政論を異にし、蜀、朔、洛の三派となりて相軋り、新法黨をして遂に其間に勝を制せしめたり、

ラクヒンオー 駱賓王 唐初の文章家なり、王勃、楊炯等と共に、駢儷文の四大家と稱せらる、



ラクユー 洛邑 後の洛陽にして、今の清國河南省河南府なり、周成王の時、天下の中に在りて、交通便なるが故に、周公の建て、諸侯を會したる都なりしが、平王の時、夷狄を避けて遷都し、周の首都となれり、

ラクヨー 洛陽 もとの洛邑をいふ、周初の東都の地にして、東漢、魏、後唐、及び西晉愍帝以前、後魏孝文帝以後、唐昭宗以後、通じて八百餘年間の帝都たり、

ラクローケン 樂浪郡 今の韓國平安道の南境、及び黃海道の地にして、西紀前一〇八年、漢武帝が楊僕をして衛右渠を亡ぼして置きたるものなり、

ラーシヤグリハ 羅閣峒利波(王舍城) Rajagriha. 今の英領印度ベハルの南にあり、西紀前五世紀の頃、摩揭陀國の都にして、釋迦の説法せし竹林精舎、及び第一回の三藏結集をなせし石室は此地にあり、

を名として、駐藏大臣を置きたり、

ラホール Lahore. 英領印度パンジヤンの首府にして、インド河の上流にあり、西紀一一八六年、ゴール朝が、曩に逐ひたる哥疾尼家を此地に滅ぼし、其後花刺子模に屬せしが、元の太宗西征するに當り、其一軍の爲めに破らる、後バヘル之を取り、アクバルの時、莫臥兒帝國の首府たり、一八四六年、英國之を略し、商業上樞要の地となれり、  
ラマ 喇嘛 Lama. 無上の義にして、喇嘛教の教主の稱なり、

ラマキョー 喇嘛教 Lamaism 西紀七四七年、北印度の烏菴の僧、巴特瑪撒巴幹が西藏に至りて傳へたる佛教の一派にして、密教を以て其國俗に適應せしめたるものなり、元の世祖之を信じて、佛教を排したることあり、後世紅教、黃教の二派に分る、現今尙ほ盛んに支那西藏に行はる、  
ラーマヤーナ Rāmāyana. 印度の古敘事詩にして、ウードのコサラ種族北ベハルのビデバ

ラジップト Rajput 今の英領印度の西北部なるラジップタナに居る部族にして、西紀十六世紀の初頃、盛に印度北部に割據せしが、莫臥兒帝バヘルの爲めに征服せらる、

ラタクナン 羅澤南 湖南の人なり、清の宣宗の末、長髮賊起り、文宗の時、勢猖獗を極むるや、江忠源、曾國藩等と共に、力を盡して賊を平げんとし、咸豐六年、武昌を攻めて戦死せり、

ラツアン 拉藏汗 和碩特部の長にして、固始汗の孫なり、父祖の遺業を復せんと欲し、西紀一七〇五年、拉撒に入り、第巴桑結を殺し、六世達賴を擁立し、清の聖祖の保護を受けて、西藏を鎮せしが、一七一七年、策妄阿拉布坦の大兵、拉薩を襲ふに及び、遂に殺さる、

ラッサ 拉薩 Lassa. 今の清國西藏の首府にして、國の南部にあり、西紀一四七九年以來、黃教喇嘛の教主、達賴が都せし地なり、一七二四年に至り、清の世宗、其地の亂を鎮め、喇嘛保護

種族に關することを敘す、

ランギョク 藍玉 明の太祖に仕へて、其創業を輔け、洪武十五年、沐英と大理、金齒等を平げ、廿一年元族たる脱古思帖木兒を捕魚兒海に破り、功を以て侯に封ぜられしが、後太祖胡藍の獄を起し、玉其族と共に誅せらる、

ランソン 諒山 Tang-song 佛領東京北部の一都府にして、西紀一八八四—五年、佛清の兵士衝突して、佛のドネグレアが清將馮子材の軍と戦ひし地なり、

リヤザン 也烈贊 Riasan. 露西亞國リアザン州の都府にして、ホルガ河の上流、モスクバの東南十餘哩にあり、西紀一二三七年蒙古の將拔都が大に阿羅思の軍を茲に破る、後一三八〇年欽察汗トクテムシ勢に乗じて、阿羅思の叛侯を討ち

遂に全市を焼き討せり、

リアンセン 李安全(襄宗) 西夏第九代の

帝なり、從兄純祐の位を篡ひて、即位せしが、西紀  
一二〇九年、蒙古に敗れて、女を納れ、降を請へり、

リイク 李煜 五代の時、南唐の主なり、宋に

恭順を表し、國號を江南と改めしが、開寶八年、遂  
に宋に亡ぼさる、

リエン 李淵 高祖を見よ、

● 李昭 宣祖昭敬王を見よ、

リエンジュ 李延壽(遐齡) 唐の學者なり、

高宗に仕へて、崇文殿學士に至る、南北史百八十  
卷、太宗政典を著せり、

リカシヤク 李可灼 明光宗の時、鴻臚寺官た  
り、光宗の病める時藥を進めしが、帝俄に崩せり、

リキ 李熙 韓國の現皇帝なり、大院君是應

の子にして、西紀一八四六年王位に即き、支那の年  
號國政に倣ひしが、日清戦争の後、全く國政を革  
め、一八九七年國號を大韓と改め、帝位に即き、純

然たる獨立國となし、光武と改元す、

リキッポ 李吉甫 唐の憲宗に仕へて、相とな  
り、賢良を薦用して、朝政を振興し、遂に藩鎮の患  
を除けり、

リギョ 李漁(笠翁) 清の文章家なり、最も戯

曲に長ず、其著す所の笠翁十種曲は稀有の稱あり、  
リギョー 李頤 明末の學者なり、王學を修  
め、程朱の説を參す、清朝屢徴せども、死を以て拒  
み、遂に仕へず、四書反身録は其著書中有名なり、

リキレツ 李希烈 唐の代宗の時、淮西の將  
なりしが、節度使李忠臣を逐ひて、之に代り、德  
宗興元元年、遂に大楚皇帝と僭號し、朱泚と共に兵  
を擧げて、奉天を犯せしが、貞元二年、其將陳仙奇  
の爲めに殺さる、

リクカ 陸賈 漢初に客として、高宗に仕へ、  
南越に使して、趙陀を招諭し、功を以て太中大夫  
となる、後帝に侍して書を講じ、文治を圖らしむ、  
リクキ 陸機(士衡) 吳の人にして、國滅ぶ

山に固守せしが、戰敗れて、帝と共に入水す、

リクソン 陸遜 三國吳の孫權に仕へて、將軍

たり、蜀軍を夷陵に破り、功を以て兵權を委れら  
れ、大都督となる、後曹休を皖城に破る、遂に相  
に拜せられて死す、

リクチョー 六朝 吳、東晉、宋、齊、梁、陳を  
云ふ、六國相踵で、南京に都せしを以てなり、當時  
文學盛んなりしが、浮華靡麗なるを以て名あり、

リクホーオー 陸放翁 陸游を見よ、

リクン 李訓 唐の文宗に仕へ、宦官を抑ふ  
るの謀に與り、禮部侍郎、同平章事となり、鄭注と  
功を争ひ、甘露の計を以て、宦官王守澄を圖りし  
が、顛はれて遂に其刃に斃る、

リクユー 陸游 (放翁) 南宋の詩人なり、

才氣超絶す、當時金兵頻りに侵して、社稷危きに  
際し、其作る所慷慨悲憤の意多く、其數一萬に及  
ぶといふ、蓋し支那詩人中の多作なり、嘉定二年  
卒す、

るや、家居して學を積む、と十年、晋の成都王穎に  
用ひられて、河北大都督となりしが、軍敗るゝに及  
び、誣に遇ふて誅せらる、天才秀逸にして、辭藻  
宏麗、太康中の英と稱せらる、

リクキューエン 陸九淵(象山) 南宋の儒者  
なり、朱子の太極圖説を崇び、又經傳の解釋を務  
むるを非とし、學は心を悟るにありとの説を以て、  
一派を立てたり、明の王學は之を祖述す、

リクキューレイ 陸九齡 南宋理學の大家、

リクシン 陸贄(敬輿) 唐の直諫の臣にして、  
且つ文章家なり、德宗に仕へて、同平章事に至る、  
帝に從つて、奉天に奔るや、勸めて、己れを罪す  
る詔を下し、天下に大赦せしめ、勤王の師起つて  
亂平定するに至る、後讒に遇ふて貶せらる、奏議及  
び翰苑文集等の著あり、

リクシューフ 陸秀夫 宋末の忠臣なり、恭

宗の臨安に執へらるゝや、長世傑と端宗を奉じ、  
福州に據り、宋の恢復を圖り、又昺を奉じて、匡

リクワイセン 李懷仙 唐の安祿山の將なりしが、賊平ぐるに及で、降服し盧龍節度使となる、後其將朱希彩の爲めに殺さる、

リケイ 李璟 五代南唐の主、景の子なり、楚を滅し、湖南を取りしが、後小人を任用して、國事に務めず、契丹と共に周を謀り、却つて敗られて和を求め、其正朔を奉ずるに至る、

リケイギョー 李敬業 唐の李勣の孫なり、武后に貶せられ、後の唐室を慕はんとするに及び、敬業兵を揚州に起して、之を伐たんとし、敗れて死す、

リケイセン 李繼遷 繼捧の族弟なり、繼捧の宋に入朝するや、同志を率ゐて、銀州に據り、遼に降りて、繼捧の衆を併せ、夏王に封ぜられ、屢々宋に寇し、後和して銀州察使となり、趙保吉の姓名を賜はりしが、復叛して靈州を陥る、

リケイボー 李繼捧 唐末、夏州節度使を授けられたる、黨項の拓跋思恭の後にして、宋太宗

の時、其國の主となり、宋に入朝して、銀、夏、綏、宥の四州を獻じて、彰德節度使となる、

リケン 李憲 東漢の初、廬江に據つて、王と稱せしが、漢將馬成と戦ふて敗死す、

●李睨(南平王) 西夏最後の帝にして、獻宗の姪なり、西紀一二二七年、位に即きしが、蒙古の攻撃急なりしかば、遂に出て降り、國滅ぶ、

リケンキツ 李元吉 唐高祖の第三子なり、父の業を輔け、齊王となる、後兄建成と秦王世民を圖り、却つて玄武門に射殺さる、

リケンコー 李元昊(景宗) 西夏の帝にして、徳明の子なり、初め宋に朝し、西平王たりしが、蕃漢の學に通じ、職官、學校、文字を創め、國を革め、近隣諸州を降して、賀蘭山に建國し、帝と稱す、後屢々宋に入寇し、其歲幣を受く、

リケンジュン 李乾順(崇宗) 西夏の帝にして、乗常の子なり、遼の天祚帝が金に敗らるや、之を保護し、後捕へて金に送りて、遂に藩屬す、

リケンセイ 李建成 唐高祖の長子にして、父の業を輔け、父帝位に即くに及び其太子となる、後弟世民の威盛を嫉み、之を殺さんとせしが、却つて玄武門に射殺さる、

リケンチュー 李顯忠 西夏の人なり、紹興中宋に仕へ、屢々金軍と戦ふて功あり、孝宗の時大尉となる、後金と苻離に戦ひしが、邵宏淵と協はずして敗れ、孝宗をして銳氣を沮喪して、金と和するに至らしむ、

リケントク 李乾德(仁宗) 大越王日尊の子なり、宋の神宗が來攻せんとするを聞き、大舉して宋の南境を侵せしが、宋將郭達と占城、眞臘の爲めに夾撃せられ、戦敗れて宋に降る、

リコー 李綱 宋の高宗に仕へ、相となりて、邊防軍政に留意し、宗澤、張浚等を用ひて、金の南侵を却けしが、黃潛善の勢を得るに及び、罷められて、紹興十年卒す、

リコーウン 李公蘊 交趾の豪族にして、黎

桓に仕へて將たりしが、桓の死後國亂るゝに及び、西紀一〇一〇年、黎氏を滅ぼして、自立し、大越國を建つ、

リコクヨー 李克用 沙陀の李國昌の子なり、唐僖宗の時黃巢を討つて功あり、河東節度使となる、朱全忠勢を得るに及び、之と争ひ、其唐を奪ふに至り、晋陽に據つて王と稱し、屢々梁と戦ひ、天祐五年卒す、子存勗に至り後唐を建て大祖と追諡す、

リコーショウ 李鴻章 清朝今代の政治家なり、初め長髮賊の亂に當り、曾國藩と郷勇を以て大に賊を破り、其名天下に顯はれ、終に直隸總督となり、大政に參與して、其功少なからず、日清の戦に大使として、馬關に至り、和を議せり、光緒二十七年薨す、

リコーチ 李光地 清の儒者なり、博覽にして考証明確なり、聖祖の御撰なる周易折中、詩經書經、春秋傳の說纂纂に筆を執る、

**リコーヒツ 李光弼** 唐玄宗に仕へて、河東節度使たりしが、安祿山叛し、洛陽を陥るや、勤王の師を起して、郭子儀と賊將史思明を破り、河北を復し、尋で又郭子儀に代りて、朔方節度使兵馬元帥となり、大に安慶緒史、思明を窘む、

**リコーリ 李廣利** 西漢の武將なり、武帝に仕へ、屢々西征して功あり、後匈奴を攻めて敗れ、遂に之に降る、

**リコーリン 李公麟** 宋代の畫家なり、

**リシ 李斯** 秦始皇を輔けて、六國を滅ぼし、其丞相となりて、郡縣の制を布き挾書の禁を發し、始皇の崩するや、詔を矯めて、胡亥を立て、權を專らにせしが、宦者趙高に讒せられて殺さる、

**リシオー 李昱應** 大院君を見よ、

**リシクン 李思訓** 唐の宗族なり、畫を能くし、北宗派を開く、

**リシゲン 李嗣源** 明帝を見よ、

**ソジセイ 李自成** 明の末、高迎祥に従ふて

反し尋で推されて、王と稱し、各地を犯し、洛陽を陥れ、襄陽に入りて、奉天倡義大元帥と號し、兵制官制を定め、山西を取り、西安に據りて、國を大順と號し、遂に京師を陥れ、帝位に上り、後吳三桂に敗られて、陝西に走り、終に湖廣に殺さる、

**リシツ 李子通** 隋の亂るに及び、江都に據りて、吳帝と稱し、沈法興の地を併せて、勢盛なりしが、杜伏威に執へられて、唐に送らる、

**リシツソ 李日尊** 大越王公蘊の孫なり、近國を征服し、國內の制度を改定して國運を興せり、

**リシユ 李壽** 成帝雄の從弟なり、雄の殂するや其子期を幽して、自立し、國を漢と改む、

**リシユカ 李從珂** 廢帝を見よ、

**リシユンシン 李舜臣** 朝鮮の武將なり、宣祖の時、水軍の將となり、屢々奇計を以て、日本水軍の將を惱まし、遂に日本軍をして、海上の捷を得ざらしむ、

**リシヨシヨ 李如松** 明の武將なり、萬曆

中、援軍を率ゐて、朝鮮に入り、日本の將小西行長を破りて、平壤を回復し、碧蹄館に至りて、小早川隆景と戦ひ、大敗して走る、

**リセイ 李靖** 唐初の武將なり、貞觀中、李勣と十萬を率ゐて、東突厥を破り、又侯君集と吐谷渾を攻めて之を降し、功を以て衛侯に封ぜらる

**リセイゲイ 李成桂** 太祖康獻王を見よ、

**リセイセキ 李世勣** 李勣を見よ、

**リセイミン 李世民** 太宗を見よ、

**リセキ 李勣(世勣)** 唐初の武將なり、初め徐氏、功を以て、國姓を賜はる、貞觀中李靖と東突厥を降し、高宗を輔けて、大平を致し、後又高句麗を討つて之を滅ぼし、總章二年卒す、

**リセンジ 李選侍** 明光宗の寵妃なり、帝崩するや、太子熹宗を擁せしかば、執政等其國政に干渉せんことを恐れて、他宮に移せり、

**リセンチョー 李善長** 明太祖創業の功臣なり、一統の後、太祖身後に制し難からんことを慮

り、胡惟庸の黨となし、洪武廿三年寃罪を以て、獄に下り、尋で誅せらる、

**リソ 理宗(昀)** 宋第十四代の帝にして、太祖十世の孫寧宗の後を承く、趙范に命じて、北方回復を圖りしが、成らず、在位久しくして、荒淫の念を生じ、賈似道を用ひて、朝政を亂せり、

**リソングョク 李存勖** 莊宗を見よ、

**リタン 李聃** 老子を見よ、

**リツチ 利瑪竇 Ricci, Matteo.** 伊太利のエスイタ教の僧なり、明の萬曆八年、廣東に至り、後北京に入りて、敕許を得、天主堂を建て、布教に従事し、傍ら理學を教授す、西紀一六一〇年死す、

**リツシユ 律宗** 佛宗の一派にして、律藏を宗とす、律に十誦、四分、僧祇、五部の四種あり、開祖は印度の曇無德なり、魏の時、印度の曇柯迦羅支那に入りて、四分律を譯す、唐に至り益々盛にして、之を日本に傳ふ、

リトクメイ 李德明 夏王繼遷の子なり、宋、遂二朝に事へ、共に西平王に封せられ、朝貢を怠たらず、

リトクユイ 李德裕 唐末の相なり、武宗に仕へ、昭義の藩鎮を討じて功あり、

リトクヨイ 李東陽 明孝宗の時、大學士たり、永樂以後の詩文の風を排し、古文辭を善くし之を唱導せり、

リハク 李白(太白) 唐代の大詩家なり、玄宗に仕へて、翰林に供奉し、愛重せられしが、讒にあひ免ぜらる、性豪放にして飲を嗜み、而も一たび筆を下せば、詞賦立るに成る、其詩高妙にして、飄逸、杜甫と共に詩宗と稱せらる、襄陽曲等有名なるもの多し、

リバヂアショーヤク Livadia. 條約 リバヂアはクリミア半島にある地名なり、露國が伊犁に侵入するを以て、清國は其返地を要めんが爲め、大使崇厚をロシアに遣はす、乃ちリバヂアに至り

て委員と會見し、還付の報として、五百萬圓と、テクス河上流の地を割くを約す、之をリバヂア條約と云ふ、

リハンリョー 李樊龍 明世宗頃の文章家なり、李夢陽、何景明を宗として、古文辭派を隆盛にし、當時の學者をして其體に倣はしめたり、

リホーゲン 李邦彥 宋末の太宰なり、欽宗の時、金軍の爲めに汴京將に陥らんとし、遂に地を割き和を求むるの策を立つ、

リホーヨイ 李夢陽 明孝宗頃の文章家なり、學は李東陽の説に基づき、文は秦漢、詩は盛唐に則るべしと唱へ、何景明と和して復古派を起せり、  
リンアン 臨安 今の清國浙江省杭州府にして、宋高宗が金の銳鋒を支へ得ずして、遷都したる地なり、端宗に至り元軍の爲めに陥らる、

リンエン 林衍 高麗の將なり、崔忠獻の曾孫を誅し、政を高宗に復す、

リンサイシュイ 臨濟宗 佛教禪宗の一派なり

リ、唐末に南嶽より分れ、宋の時盛んに行はる、後鳥羽の朝、我日本に傳はる、

リンシ 臨淄 今の清國山東省青州府臨淄縣にして、春秋の時齊の都せし地なり、

リンシン 臨津 今の韓國京畿道坡州にして、豊公文祿の役我將加藤清正、小西行長が、韓將金命元を破りし地なり、

リンシヨイシヨ 藺相如 戰國趙の相なり、惠文王に仕へて、廉頗と共に能く王を輔け、彊秦の間において、國威を墜さしめず、和氏の璧を以て有名なり、

リンソクジヨ 林則徐 清の宣宗に仕へて、湖廣總督たり、道光十九年、英船を捕へて、其齎す所の阿片を焚き、所謂阿片戦争を醸せり、三十年長髮賊の起るや、之を討ち途にして歿す、

リンソーフン 林爽文 臺灣彰化に起りし賊魁なり、清高宗乾隆五十一年、福康安の爲めに敗られ、誅に伏す、

リントンカン 林丹汗 察哈爾汗なり、蒙古の嫡宗たるを恃み、同族を凌ぎしが、清の天聰八年太宗の大軍と戦ひ、敗れて青海に至り遂に歿す、  
リンチョー 臨洮 今の清國甘肅省鞏昌府浪州にして秦始皇帝が修築したる長城の終點なり、  
リントングン 臨屯郡 漢武帝の時、朝鮮を平定して置きたる郡名なり、今の韓國江原道の地に當る、

リンユイ 林邑 今の佛領交趾支那の地なり 隋の煬帝兵を以て之を降せり、

リモテイ 李茂貞 唐の末、鳳翔に據て、岐王と稱し、關中、隴西の地を領せしが、後唐に降る、

リヤ 李冶 元の時、數學を窮めて、測圓海鏡の如き新發明をなし、斯道の隆盛を計れり、

リユイ 李雄 巴蠻種の李特の子なり、西晋の時、叔父流に代つて、梁州刺史羅尚を破り、蜀の成都に入りて、王と稱し、西紀三〇四年遂に帝位に即き、國を成と號す、

リユートアン 劉晏 唐の徳宗に仕へて、吏部尙書たり、理財の才ありしかば、大に國帑を富す、後楊炎と好からず、遂に貶せられて死す、

リユートイン 劉因 宋末の儒者なり、程朱の學を傳ふ、元世祖數々召せんと至らず、家居して教授す、又詩文を善くし、皆適健なり、

リユートエイフク 劉永福 長髮賊の殘黨なり、安南にありしが、西紀一八八二年、佛軍河内を占領するに及び、安南王の命を奉じ、黑旗軍を以て之を撰ふ、

リユートエン 劉續 東漢光武帝の兄なり、慷慨にして大節あり、王莽の漢室を篡ふて、天下亂るに及び、起つて兵を春陵に擧げ、同族劉玄と屢々莽の軍を破りしが、其威名日に盛なりしかば、遂に玄に殺さる、

リユートウ 劉淵 五胡漢の主にして、もと匈奴の人なり、西晋の亂るに及び、諸部の推す所となり、左國城に據りて、漢と稱し、子聰及び石勒、劉曜等を

して、晋に侵し、晋祚を危からしむ、  
○劉墜(儼) 五代の初、廣州に據りて、南漢國を建つ、

リユートキ 劉毅 晋の末、桓玄の亂をなすや、何無忌、劉裕等と義兵を擧げて、之を討ち、遂に平ぐ、功を以て南平郡王に封ぜられ、都督となる、後裕と隙を生じ、襲はれて自刎す、

○劉琦 南宋の名將なり、高宗の時、金相兀朮の南侵するや、之を順昌に破り、岳飛と共に屢々金軍を窘しめたり、

○劉基(伯溫) 明の名臣なり、太祖に金陵に謁して、時務を陳し、其後帷幄に參して、佐命の功あり、誠意伯に封ぜらる、後胡惟庸の爲めに毒殺せらる、文を能くし、其爲る所、氣昌にして奇、宋濂と共に一代の宗と稱せらる、又詩に長じ、高格を標し唐の韓、杜を追逐せんと欲すとの評あり、

リユートキン 劉瑾 明武宗の寵臣なり、事を専らにして、正士を斥け、司禮監となりて、兩營を

督し、朝政を紊し、地方に盜賊蜂起するに致る、後張永に讒せられて誅に伏す、

リユートキョー 琉求 今の日本國沖繩縣の諸島にして、古くより支那歷朝に朝貢し、島津氏に隸せし後も、尙ほ朝貢を絶たず、明治に至り全く日本に歸す、

リユートクワン 柳貫 元代の儒者なり、金履祥の門弟にして、程朱の學に精しく、明初の有名な宋濂等其門下より輩出す、

リユートゲン 劉玄 西漢の宗族なり、漢の末、王莽漢室を篡ひ、天下亂るに及び、諸將に推されて帝となり、同族續、秀をして莽を討たしめ、長安に都せしが、赤眉の賊に敗られて、淮南王となる、後續を殺したるを以て、秀に怨まれ、遂に逐はる、

リユートゴ 留後 唐代に於て藩鎮の兵が、自ら薦めて節度使の候補たらしめしものをいふ、

リユートコクタクツ 劉黑闥 隋の末、夏王竇建

徳に屬す、夏の滅ぶるに及び、漳南に據りて、漢東王と稱し、威を東北に振ふ、後李世民に敗られて、突厥に走り、其兵を以て、屢々唐に寇し、終に其部下に捕へられ、洛州に斬らる、

リユートキョー 劉之協 白蓮教徒の魁淸、仁宗の時叛を謀り、戦亂七年に亘る、遂に誅せらる、

リユートンキ 劉仁軌 唐の名將なり、高宗の時兵を率ひ、新羅を援けて、百濟を伐ち、我援軍の將阿曇比羅夫を白河口に破り、遂に百濟を滅す、後又新羅、高麗の遺族を封するに及び、新羅を征して功あり、

リユートンキョー 劉仁恭 唐の末、幽州の留後たり、朱全忠、唐室を篡ふに及び、自立して燕王と稱す、後其子守光の爲めに幽せらる、

リユートンクワン 劉仁願 唐の將なり、高宗の時百濟を討ちて、こゝに留守す、後日本の百濟を援ふに及び、唐の劉仁軌の援をうけて、終に百濟を滅す、

リュウシュ 龍樹 ナーガールツウナを見よ、

リュウシユウ 劉秀 光武帝を見よ、

リュウシユウ 劉守光 五代燕の王にして、仁恭の子なり梁と和して、晋を伐ちしが、後李存勗の爲めに滅ぼさる、

リュウシヨウ 劉璋 東漢の宗族なり、東漢の末、天下亂れし時、益州の牧として成都を有ちしが、劉備と戦ふて敗れ、遂に之に降る、

リュウジョウ 龍城 今の内蒙古土默特に在り、後燕の馮跋が北燕國を建てたる地なり、

リュウソウ 劉琮 表の子、父の死後、湖北を有ちしが、曹操に敗られて、遂に之に降る、

劉聰 五胡漢の主にして、淵の子なり、驍勇にして、經史に通じ、石勒、劉曜等と屢々晋に逼り、父の死後太子和を弑して、自立し、西晋を滅ぼして、支那の大半を占有し、勢盛なりき、

劉崇 北漢初代の主なり、兵を率ゐて、周を侵し、遂も亦之を援ひしが、周の將趙匡胤の爲

めに破らる、

リュウソウケン 柳宗元(子厚、柳州) 唐代の文豪なり、徳宗の時、禮部員外郎たりしが、後貶せらる、其文雅健雄渾にして、漢の司馬相如に類すといふ、韓愈と并ひ稱せらる、

リュウソウシユウ 劉宗周(起東) 山陽の人、明の毅宗に仕へ、天啓、崇禎中、屢々時政を劾す、康國都を陥るや、數度死を計り、弘光元年遂に節に死す、

リュウチエン 劉知遠 高祖を見よ、

リュウチョウ 劉鋹 五代南漢最後の主なり、

宋の湖南を滅ぼすや、屢々境を侵せしが、宋將潘美來攻むるに及び、雙女山に敗れて、之に降る、

リュウテイ 劉綎 明の將なり、緬甸の王族莽瑞體の北侵を討ちて、其勢を挫けり、

リュウビ 劉備 昭烈帝を見よ、

リュウヒョウ 劉表 東漢の宗族なり、兵を擧げて、董卓を討ち、湖北に據りて、袁紹と結び、孫堅、袁術等と相攻伐せしが、曹操と襄陽に戦ひ敗

れて死す、

リュウフクツウ 劉福通 元の末、韓山童と

共に兵を起し、已にして山童の餘衆を以て、河南の諸州府を陥れ、後韓林兒を奉じて、亳州に都し、山東を略して、又汴梁を取りしが、張士誠の將呂珍の爲めに殺さる、

リュウフテイ 隆武帝(唐王聿鍵) 紹宗を見よ、

リュウブンセイ 劉文靜 隋末、晋陽の令たり、驟かに世民と結び、之に説きて兵を擧げしむ、

リュウヘイチユウ 劉秉忠 元の儒臣なり、

世祖に重用せられ、官制を定め、學校を興し、文治を圖る、

リュウホー 劉邦 高祖を見よ、

リュウボンシ 劉盆子 西漢の末、王莽天下を亂すや、赤眉の賊に立てられしが、幼にして才なく、後光武帝の大軍に遇ふて之に降る、

リュウシヨウ 龍孟 龍樹を見よ、

リュウユウ 劉裕 武帝を見よ、

リュウヨ 劉豫 宋に仕へて、濟南太守たりしが、遼に攻められて、金に降り、其封を受け、國を齊と稱し、帝位に汴に即ぐ、後屢々宋を攻めて利あらず、遂に金人に廢せらる、

リュウヨウ 劉曜 漢王劉淵の族子なり、文

武の才あり、屢々晋を攻めて、洛陽を陥れ、懷愍二帝を擒にし、聰の死後、長安に自立し、趙王と稱せしが、石勒と戦ひ、洛陽に敗れて死す、

リュウリョ 旅 周の兵の編制にして、卒五(五百人)より成り、帥之を統ぶ、

リュウリョウ 涼(前涼) 東晋の時、張重華が建てたる國にして、河西の地を領し、姑臧に都せしが、西紀三三六年、苻堅の爲めに滅ぼさる、五胡十六國の一なり、

梁 西紀五〇二年、蕭衍が齊和帝の禪を受けて、建てたる國なり、四世五十六年にして、陳の爲めに滅ぼさる、

● 梁 西紀九〇七年、朱全忠が、唐の帝位を篡して建てたる國にして、其子末帝に至り、唐莊宗に滅ぼさる、國を有つこと十七年なり、

④ 遼(契丹) 西紀九一六年、耶律阿保機の建國にして、太宗の時、晋を滅ぼして改めたる國號なり、今の滿洲蒙古より、支那本部の北に亘る大國なりしが、一一二五年に至り、金の太宗に滅ぼさる、

リョー 李膺 東漢の名士、桓帝の時、司隸校尉に擧げられ、宦官の跋扈を抑へしが、其誣告によりて、獄に下り、靈帝に至り、復た朝に列せしも、宦官の勢強くして、遂に其殺す所となる、

リョー エイチュー 廖永忠 明太祖創業の臣なり、洪武中福建、兩廣の地に轉戦して、平定の功あり、

リョーカン 兩漢 長安に都したる西漢と、洛陽に都したる東漢との並稱なり、

リョーキ 梁冀 後漢の順帝の后兄なり、冲

帝の崩するや、后と謀りて質帝を立て、朝權を専らにし、一門大に跋扈す、尋て帝を弑し、桓帝を立て、縦暴を極めしが、帝の爲めに誅せらる、

リョーキョーカ 梁丘賀 西漢の儒者なり易を田王孫に學び、梁丘氏易を傳ふ、

リョクキヘイ 綠旗兵 清が支那本部を平定せし後、専ら漢族を以て、編制せし常備軍にして、支那本部の各省、新疆省、西藏等に置く、

リョクワイ 呂誨 宋神宗の時、御史中丞たり、王安石政府に入るに及んで、上疏して之を斥けんことを請ふ、帝其章疏を還す、誨よりて職を去る、

リョーケイケイ 呂惠卿 宋の神宗に仕へて、王安石の議に與り、力を新法に盡して、參知政事となる、已にして安石、韓絳に忤ふて罷められ、哲宗親政に及んで中大夫となり、章惇と共に紹聖の紹述をなせり、

リョーコト 呂后 西漢高祖の后なり、才略

あり、帝の創業を輔け、即位の後政事に預り、諸王群臣の畏懼する所たり、惠帝立つに及び、權力益々盛となり、兄弟を王に封じ、劉氏を抑へんとせしが、事發せずして崩す、

● 呂光 五胡後涼の主なり、初め前秦の將なりしが、秦の亡ぶるに及び、涼州に據りて、涼天王と稱し、西域諸國を降して、勢を西方に振へり、

リョーコト 梁后 東漢順帝の后なり、順帝崩じて後、冲帝、質帝を立て、朝に臨み、夙夜勤勞、心を推して賢良を拔用し、兄翼をして隙に乗せしめざりき、

リョーコト 兩廣(粵) 廣東、廣西二省の地をいふ、

リョーコトチョ 呂公著 宋の相にして、呂夷簡の子なり、神宗に仕へて、御史中丞たりしが、王安石に忤ひて罷められ、哲宗の初年、又出で、尙書右僕射となり、司馬光と共に悉く新法を廢して、元祐の更化を行ひ、元祐四年死す、

リョーシト 梁師都 隋の末、朔方の郡將たりしが、天下亂るゝに及び、其郡丞を殺して之に據り、梁帝と稱す、後ち唐の爲めに滅ぼさる、

リョーシニョ 梁州 禹域九州の一にして、今の陝西省南部より四川省に跨る地なり、

リョージュンコト 旅順口 Port Arthur.

遼東半島南端にある軍港なり、要害最もよし、日清之役に第一師團の勇を振ひし地なり、其後露西亞之を租借し改善す、日露戰役に及び、露國海軍の根據地たり、今將に陥落せんとす、

リョーシヨ 梁書 蕭衍が建てたる梁の史にして、唐の姚思廉の作なり、

リョーシヨ 呂尙 太公望を見よ、

リョーセイホー 兩税法 唐德宗の時、楊炎が相となりて、行ひたる法にして、毎月主客に別なく、現住者を簿に載せ、各、其貧富に應じて、夏秋二季に納め、行商者には、其所在の州縣にて、納めしむ、



リョソケン 呂祖謙(伯恭、東萊) 朱熹の講友にして、南宋理學の大家なり、傍ら文を善くす、其著書に左氏傳説、大事記等あり、東萊博議は日本に行はる、

リョトー 遼東 渤海灣に突出せる半島にして、古朝鮮の領となり、渤海、遼、金に屬し、今清國の領なり、日清戦役に日本の占領する所なりしが、後露西亞に露食せられ、日露戦役にも亦其戦地たり、

リョトージョー 遼東城 今の清國盛京省遼陽府の北にあり、唐太宗が、高句麗を親征して大捷を得たる地なり、

リョフ 呂布 東漢末の將なり、もと董卓の臣なりしが、卓の暴虐を行ふに及び、王允と共に之を殺し、餘黨に逐はれて、袁術に依り、兗州を亂して、曹操に敗られ、劉備に依りたれども、後之を攻め、遂に操の軍に執へられて殺さる、

リョフイ 呂不韋 戰國秦の莊襄王を趙に助

けて、其尊信を得、遂に相となり、文信侯に封ぜらる、始皇の立つや、政を執り、諸侯の地を蠶食せり、

リョフクワン 呂文煥 宋の將軍なり、襄陽を守りしが、元世祖に攻められて、降を乞ひ、其將となりて、南侵せり、

リョヨ 遼陽 清國盛京省州廳の所在地にして、清の初、太祖が明楊鎬の大軍を破りし地なり、近來露國東清を窺ひ、此地に兵を屯せしが、明治三十七年八月、日本滿洲軍、露の大兵と戦ひ、十餘日の大戦にて、遂に露軍を茲に破る、

リリンボ 李林甫 唐玄宗に仕へて、相となり、政を執ること十九年、性柔佞にして狡黠、巧に帝の甘心を買ひ、深く信任せらる、天下爲めに亂れ、其卒後安史の亂起る、

リリユキ 李隆基 玄宗を見よ、

リワイ 李愷 春秋の時、諸國の刑書を集めて、法經六篇を作る、後世法術の學の祖と稱せらる

る

ルシトク 婁師德 唐の賢相なり、則天武后に用ひられ、其制を稱せし初め、よく后を輔佐し、失政なからしめたり、

ルブルック Rubruquis, William. 佛蘭西の僧なり、西紀一二五三年、佛王ルイス九世の使命を奉じて、元の和林の龍庭に至り、憲宗に謁して、好を修む、

ルリョー 婁諒(一齋) 明初の儒者なり、上饒の人、吳興弼に従ふて學び、胡居仁と名を齊うす、王陽明は其門人なり、

れ

レイイキ 黎維祁 安南最後の王なり、清の乾隆五十一年、阮惠東京に入るに及び、清に援を

乞ひ、之を復せしが、後又襲はれて、清に奔る、

レイオー 靈王(園) 春秋楚の王なり、共王の子、姪郊敖を弑して自立し、諸侯を申に會し、吳を伐ち、陳蔡を滅ぼし、國威を張りしが、弟棄疾の爲めに篡位せらる、

レイキホー 黎季犛 大虞王なり、初め胡氏、安南陳氏の將たりしが、占城の寇を却けて功あり、漸く勢を得て、政權を握り、王室を廢して自立し、後占城を攻めて、明の援軍に敗られ、遂に擒にせらる、

レイクワン 黎桓、盟越の人、初め丁氏に仕へて軍事總督たりしが、國亂るゝに及び、王璩を殺し、自立して王となり、宋の淳化四年入朝して交趾郡王に封ぜらる、

レイコー 黎灝 大越帝利の孫なり、武略あり、明の成化中、占城老樞を滅して、版圖を擴め、賢相を擧げて制度を革む、國人尊んで聖宗といふ、

レイコト 令狐綯 唐末の宰相なり、宣宗

悉く宦官を誅せんことを謀る、綯濫りに無辜に及ばんを恐れ、自然に之を耗盡するの策を獻す、

レイコトクフン 令孤德棻 唐の學者なり、周宇文氏の史(周書)を著はす、

レイシユー 黎開 大越帝瀨の孫なり、陳高の叛以來、莫登庸政權を得、遂に其弒する所となる、

レイシユー 靈州 靈武を見よ、

レイシヨ 隸書 漢字の一書體にして、秦の程邈が小篆を省略して作りしものなり、

レイテイ 靈帝(宏) 東漢第十一代の帝にして、章帝の支孫なり、竇武に擁立せらる、治世中宦官と志士の争あり、外地方の亂ありて、國家争亂の兆あり、在位二十二年崩す、

レイナン 嶺南 唐の道名にして、十道の一なり、今の清國廣東、廣西二省及び東京、安南を含む、節度使ありて廣州に治す、

レイネイ 黎寧(莊宗) 黎氏大越第十一代の

王にして、椅の子なり、清華の人、阮徐之を奉じて、明に内藩となる、之より安南二つに分かる、

レイフ 靈武 今の清國甘肅省寧夏府靈州なり、唐の時、朔方節度使の治所にして、肅宗が安祿山の亂を避けて、即位せし所なり、

レイフシヨシヨ 禮部尙書 禮部省の長官なり、禮樂、祭祀、宴享等の事を掌る、

レイホクコシヨ 嶺北行省 元の世祖が置きし地方官廳なり、

レイレ 黎利 清華の人、明成祖の陳氏を亡ぼして、安南を取るや、兵を起して明軍と戦ひしが、後和して、明に伴り、自立して大越皇帝と稱し、明の封を受けて、安南國王となる、

レイリョーテイ 黎龍錠 安南王桓の子なり、國亂れて、李公蘊に滅ぼさる、

レイキキ 酈食其 漢初の説客なり、高祖の秦に入らんとする時、調して策を授け、説いて陳留を下し、高祖を秦に入らしむ、後齊を説きて、七

十餘城を下す、韓信の齊を破るに及び、己れを賣りしを以て烹らる、

レキサンセンヨ 曆算全書 清の康熙中、梅

文鼎の著はしたる書にして、支那西洋の學説を集めて作りたるものなり、

レッキョコー 列禦寇 戰國の學者なり、鄭

の人、無爲道德の説をなし、莊周と共に黄老の道を發揮す、列子八篇の著あり、

レッシ 列子 列禦寇の著書なり、八篇あり、

黄老無爲の説のなす、

レナ Lena. 東部シベリアの大河なり、バイ

カル湖附近に發し、北氷洋に入る、延長二五〇〇哩あり、

レンケイ 濂溪 清國湖南省道州にある溪の

名なり、宋大儒周敦頤之を號とす、

レンコー 連衡 衡は横にして、横に連ぬる

をいふ、戰國の時張儀の唱へたる説なり、六國と秦とは横に東西に列す、六國をして秦に和せしむ

るの義なり、之を用ひて合従の策を破りたり、

レンバ 廉頗 戰國趙の將軍なり、屢、攻城

野戰の功を立て、藺相如と共に、惠文王を輔けて、政を修む、

ろ

ロ 魯 周の初、武王の弟、周公旦が封せられし國にして、曲阜に都す、西紀前二四九年楚に滅ぼさる、

ロオーイカイ 魯王以海 明の宗族なり、

明の末清軍南京を陥るや、王は紹興に據つて、浙東の師を起し、監國と稱して、恢復を圖り、敗走して福建沿岸を取りしが、後廈門に至り、鄭成功に

依る、成功臺灣を取るや、王亦往て其地に殂す、

ロカンコク 魯監國 明の末、魯王以海が紹

興に據つて稱せし名なり、  
ロキ 盧杞 唐徳宗に仕へて、同平章事とな

る、性陰狡にして口辯あり、楊炎を陥れて、政を専らにし、帝に勸めて問架、除陌の苛税を課せしめ、朝野の嗟怨を受けて、遂に貶せらる、

ローキョシヨザン 狼居胥山 今の清國外蒙古喀爾喀地方にあり、漢武帝の時、匈奴叛せしかば、霍去病之を征して、此地に至り、封せられて邊を鎮せり、

ロクゲイ 六卿 周の時置きたる、天、地、春、夏、秋、冬の六官の長たる冢宰、宗伯、司徒、司馬、司寇、司空をいふ、

ロクセン 麓川(龍川江) 今の清國雲南省永昌府騰越の東を流る、川なり、明太祖の時、其地の部長思倫が三十萬を以て、明境を擾がし、太祖の爲めに平定せらる、後英宗の時、思任又叛きしかば、王驥を遣はして、之を擒にせり、

ロクトコク 六都護府 唐代六箇所の都護府なり、  
安南都護府 交州に在て南海諸國を鎮す、

安西都護府 龜茲に在て西域諸國を鎮す、  
北庭都護府 庭州に在て西突厥を鎮す、  
安北都護府 回紇に在て鐵勒諸部を鎮す、  
單于都護府 雲中に在て突厥諸部を鎮す、  
安東都護府 平壤(後遼東城)に在て高句麗百濟の故地を鎮す、

ロクバンザン 六盤山 清國甘肅省鞏昌府附近にあり、蒙古の成吉思汗(太祖)が、金を侵さんとして、病死せし所なり、

ロクフガモン 六部衙門 清の吏、戶、禮、兵、刑、工部の六衙門をいふ、内閣に隸して、各、政務を分擔す、

ロクフシヨシヨ 六部尙書 吏部、民部、禮部、兵部、刑部、工部の長官をいふ、尙書省に隸し、更、戶、禮の三部尙書は左僕射に、他は右僕射に屬し、各、國家の政務を分擔す、尙書令之を統ぶ、  
ロコ 廬江 今の清國安徽省安慶、廬州二府の地なり、東漢の初、李憲茲に據る、

ロシ 魯詩 漢代の儒家たる魯の申培の訓詁したる詩をいふ、

ロシ 老子(李聃) 春秋楚の人なり、周の微官たりしが、其衰ふるに及び、去つて終る所を知らず、去るに臨み、道德經五千言を著はし、自然を尙び、禮儀制作を排して、無爲なるべきを説けり、後世道教の祖となる、或は莊周等の假作の人なりともいふ、

ロシア 阿羅思 Russia 東歐羅巴より北亞細全部に亘る大帝國なり、西紀十三世紀の初め蒙古大軍の侵入に破れて隸屬せしが、後欽察汗國の内亂に乗じて、遂に之を滅ぼし、十七世紀以後西伯利亞に侵入して、現時太平洋沿岸に達せり、

ロシユ 廬州 清國安徽省にあり、其府城は長髮賊の亂に、清將江忠源が楚勇を率ゐて固守し、遂に戦死せし所なり、

ロシヨ 老上 匈奴の單于にして、冒頓の子なり、父業を紹いで、大月氏を破り、東朝鮮

より西西域に至る、版圖を有して、西域に雄視せり、漢文帝の時死す、

ロセイ 隴西 隴山の西方一帯の地を云、今の清國甘肅省鞏昌府附近なり、東漢の初隗囂之に據る、

ロセイエイ 盧世榮 元世祖の時、理財に長ずるを以て擧げられて鈔法を理し、規措所を立て、鹽、鐵、酤、權等の税を増せしが、後彈劾せられて貶せらる、

ロヂ Lodis 西紀一四五〇年、阿富汗人ピロル・ロヂがトグラク家に代りて、テリーに建てたる王朝にして、一五二八年、バベルの爲めに滅ぼさる、

ロチユレン 魯仲連 戰國齊の人なり、奇偉傲儻の畫策を好み、趙の爲め秦軍を却かしめ、燕の齊を攻めし時、策を田單に授けて、聊城の捷あり、而かも仕官せず、其強ゆるに及び、海上に逃る、  
ロットラ Botta 暹羅王にして、ファヤ・チャ

クリの子、今王の曾祖父なり、東蒲塞の王弟を助けて、王の安南に依るに抗し、領土を擴む。

ロハクトク 路博徳 漢武帝に仕へて、霍去病の將となり、功を樹つ、後南越を征討し、之を平ぐ、荷離侯に封ぜられて死す。

ロフノル 羅布湖 Lob Nor. 清國新疆省天山南路の湖、阿爾泰山脈の北にあり、漢代の鄯善の地なり。

ロホー 盧芳 東漢の初、武帝の裔と稱して、匈奴の後援を得、山西の地に據りしが、光武帝に敗られて西走す。

ロンゴ 論語 孔子及び弟子の語を輯めたる書にして、孔子の教を知るに最も必用のものなり 大學、中庸、孟子と共に四書と稱す。

ロンゴバルヂ 龍華民 Longobaldi. 伊太利の宣教師なり、明の末北京に至り、布教の傍、歐洲の諸學を傳ふ、有名なる新法算書は彼が徐光啓と共に著はしたるものなり。

ロモラ Loyola, Ignatius. イグナチオを見よ。

ロリョー 盧龍 唐の河北三鎮の一なり、故の范陽郡にして、幽、薊、媯、檀、平、營の六州を領し、幽州に治す。

ロワン 盧縮 漢高祖と同郷にして、共に成長し、交深く、高祖の左右に在つて之を輔け、長安侯に封ぜられ、燕王となりしが、後高祖の怒に觸れて、匈奴に走る。

わ

ワイイ 淮夷 淮南の夷なり、その故城は安徽省泗州にあり。

ワイイン 淮陰 今の清國江蘇省淮安府の附近にして、漢の韓信の封ぜられたる地なり。

ワイスイ 淮水 Hwai-shui. 黄河と揚子江との間を、西より東に流れて海に入る河なり。

事を掌る、  
ワンエン 完顔 Wanyen. 生女眞の一部

ワンエン ウコナイ 完顔烏古迺 完顔部の酋長にして、金太祖の先なり、遼の命を受けて、節度使となる。

ワンエン シュチョ 完顔守緒 哀宗守緒を見よ。

ワンエン ショーリン 完顔承麟 金の哀宗の弟なり。

ワンエン リョー 完顔亮 チコナイ(迪古乃)を見よ。

ワンハン 王汗 克烈部の酋長なり、初め蒙古の鐵木眞を援けしが、後讒を信じて、之を殺さんとし、却つて鐵木眞に攻め破られ、國滅ぶ。

ワルド Ward. 米人なり、清の同治中、支那に來りて、兵勇を訓練し、以て長髮賊を平定せり。

ワイセイ 淮西 今の河南省汝寧州にして、蔡、申、光、安等の諸州を領し、蔡州に治す、唐の時節度使あり。

ワイナン 淮南 淮水の南をいふ、漢初に黥布、及宗族長の淮南王に封ぜらる、や、九江、廬江、衡山、豫章の四郡あり、後長の三子分封せらる、や淮南は九江、豫章の二郡なりき。

ワイナン オーアン 淮南王安 漢高祖の孫なり、吳楚七國の叛するや、兵を統べて、漢の爲めに城守す、後叛を謀らんとして、事覺はれ、終りに自刎す。

ワコー 倭寇 我國南朝の遺民、黨を結び、元及び高麗の沿岸を剽掠す、元末の諸雄も亦これと結び、海上に出没し、北は山東より南は福建に至るまで、其害を被らざるなし、明人恐れて之を倭寇と稱す、世宗の時より其勢漸く微弱となれり。

ワニ 王仁 百の濟人、我が應神の時、來りて、論語、千字文を獻す、其子孫河内に居り、世々文